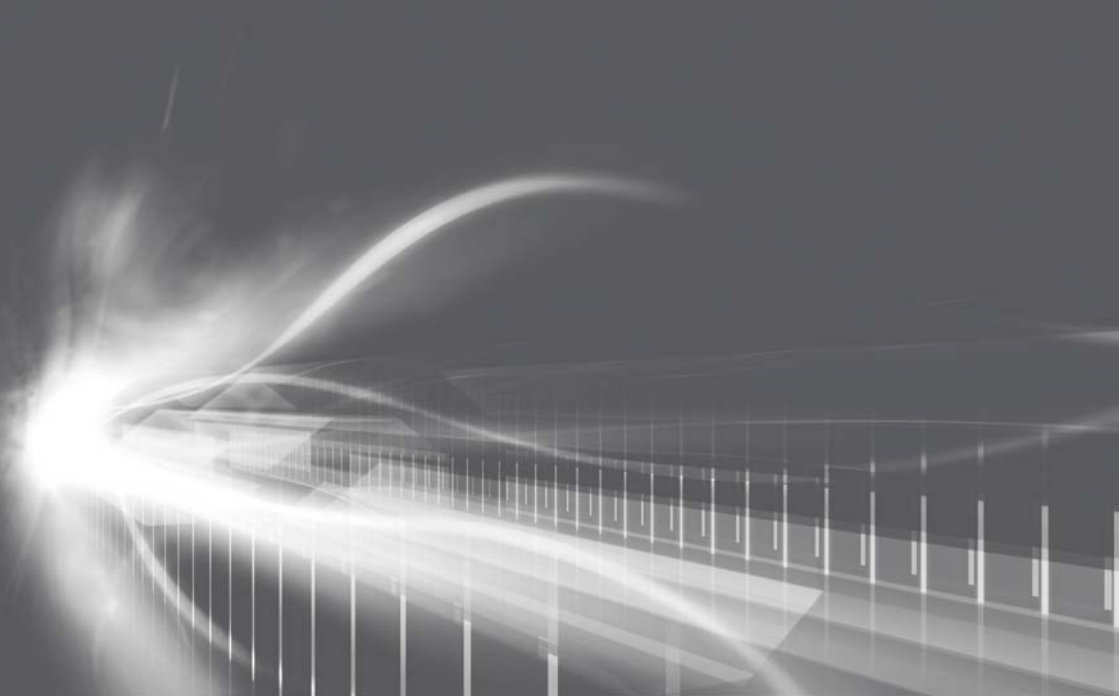


取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

COROLLA CROSS

TOYOTA

イラスト目次	**イラスト**から検索	
安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと** （主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置）	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 （主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ）	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 （主な項目：キー、ドア、シート）	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス （主な項目：エンジン始動のしかた、給油のしかた）	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など （主な項目：エアコン・収納装備の使い方）	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 （主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換）	6
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 （主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処）	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 （主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧）	8
さくいん	**症状**から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと 5
本書の見方 9
検索のしかた 10
イラスト目次 11

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 22
安全なドライブのために 23
シートベルト 25
SRS エアバッグ 28
排気ガスに対する注意 34

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 35
チャイルドシート 36

1-3. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 50

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯 52
計器類（4.2 インチディスプレイ） 56
計器類（7 インチディスプレイ） 59
マルチインフォメーションディスプレイ 62
燃費画面 68

3 運転する前に

3-1. キー
キー 72

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア（フロントドア・リヤドア） 75
バックドア 78
スマートエントリー＆スタートシステム 91

3-3. シートの調整
フロントシート 96
リヤシート 97
ヘッドレスト 98

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 101
インナーミラー 102
ドアミラー 103

3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ 105

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 110
荷物を積むときの注意 116

4-2. 運転のしかた
エンジン（イグニッション）スイッチ 118
オートマチックトランスミッション 122
方向指示レバー 125
パーキングブレーキ 126
ブレーキホールド 129

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ 131
オートマチックハイビーム 134
フォグランプスイッチ 137
ワイパー＆ウォッシャー（フロント） 138
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ） 140

4-4. 給油のしかた
給油口の開け方 141

4-5. 運転支援装置について
Toyota Safety Sense 143
PCS（プリクラッシュセーフティ） 148
LTA（レーントレーシングアシスト） 155

RSA（ロードサインアシスト）.. 164
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 167
先行車発進告知機能 175
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 177
クリアランスソナー 182
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 188
PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 193
パーキングサポートブレーキ（静止物）..... 199
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 202
ドライブモードセレクトスイッチ..... 203
運転を補助する装置 204
プラスサポート（販売店装着オプション）..... 208

4-6. 運転のアドバイス
寒冷時の運転..... 212

5 室内装備・機能

5-1. エアコンとデフォッガーの使い方
オートエアコン 216
ステアリングヒーター／シートヒーター..... 223

5-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧..... 225

5-3. 収納装備
収納装備一覧..... 227
ラゲージルーム内装備 230

5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 232

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ..... 242
内装の手入れ..... 245

6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット..... 248
ガレージジャッキ..... 249
ウォッシャー液の補充 250
タイヤについて..... 251
タイヤ空気圧について 253
エアコンフィルターの交換 254
電子キーの電池交換 256
ヒューズの点検・交換 258
電球（バルブ）の交換 260

7 万一の場合には

7-1. まず初めに
故障したときは..... 266
非常点滅灯（ハザードランプ）... 267
発炎筒 267
車両を緊急停止するには 268
水没・冠水したときは 269

7-2. 緊急時の対処法
けん引について..... 271
フューエルポンプシャットオフシステム 274
警告灯がついたときは 275
警告メッセージが表示されたときは..... 281
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 283
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）..... 294
エンジンがかからないときは..... 301
キーをなくしたときは 302
電子キーが正常に働かないときは..... 303
バッテリーがあがったときは..... 305
オーバーヒートしたときは 308
スタックしたときは 310

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 312

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 316

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 324

さくいん

こんなときは（症状別さくいん） 326

車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 328

アルファベット順さくいん..... 329

五十音順さくいん 330

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

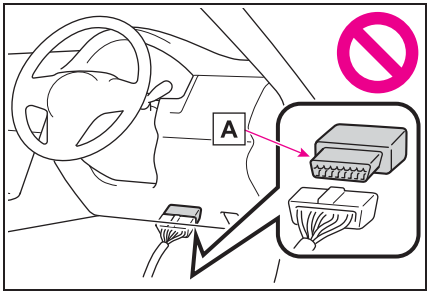
RF 送信機の取り付けについては、P.7 も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクター A などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- エンジン回転数／電気モーター回転数
- アクセルペダルの操作状況
- ブレーキペダルの操作状況
- 車速
- 運転支援システムの作動状況
- カメラの画像情報
  車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、トヨタ販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタが訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

・ 車両の各システムの作動状況
・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

● EFI コンピュータ
● Toyota Safety Sense
● ABS（アンチロックブレーキシステム）
● SRS エアバッグ
● シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

トヨタ販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、

プラスサポート（→P.208）の機能が利用可能になります。詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

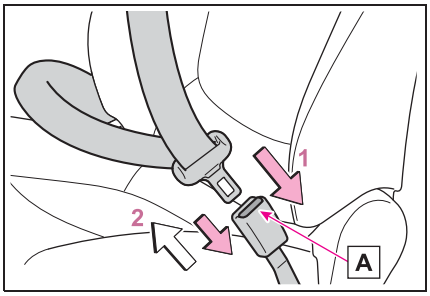
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

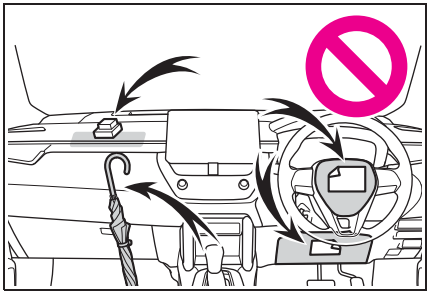
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3…	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

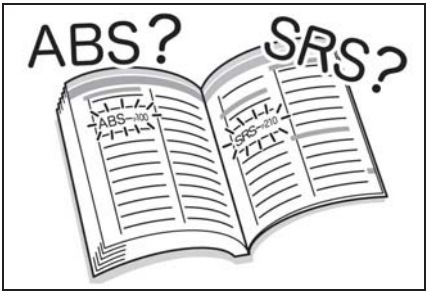


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

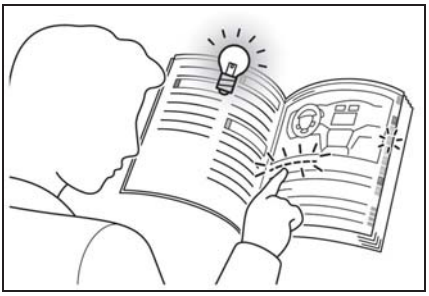
■ 名称から探す

●五十音順さくいん：P.330
●アルファベット順さくいん：P.329



■ 取り付け位置から探す

●イラスト目次：P.11

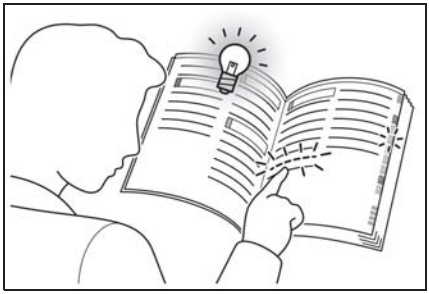


■ 症状や音から探す

●こんなときは（症状別さくいん）：P.326
●車から音が鳴ったときは（音さくいん）：P.328

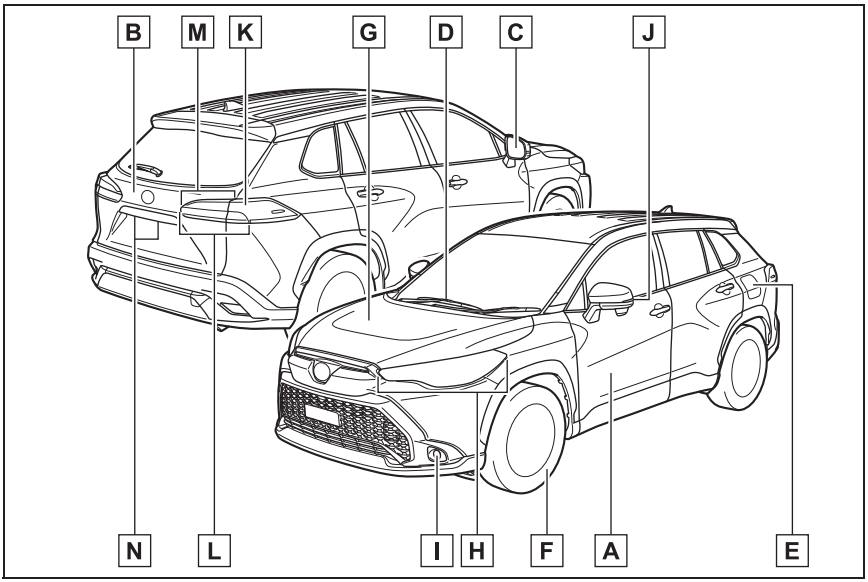
■ タイトルから探す

●目次：P.2



イラスト目次

■ 外観



A ドア P.75

施錠／解錠 P.75

ドアガラスの開閉 P.105

メカニカルキーでの施錠／解錠 P.303

警告メッセージ P.78

B バックドア P.78

施錠／解錠 P.80

警告メッセージ P.281

C ドアミラー P.103

鏡面の角度調整 P.103

ミラーの格納 P.104

曇りを取る（ミラーヒーター）★ P.219

D ワイパー P.138

冬季の注意 P.212

凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★ P.221

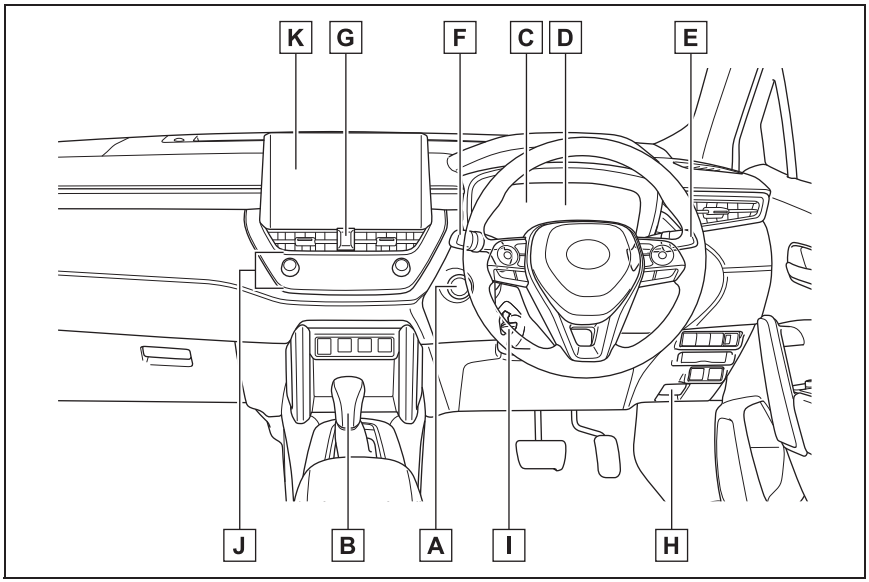
E 給油口 P.141
給油方法 P.142
燃料の種類・燃料タンク容量 P.312
F タイヤ P.251
サイズ・空気圧 P.315
冬用タイヤ・タイヤチェーン P.212
点検・ローテーション P.251
パンク時の対処 P.283, 294
G ボンネット P.248
開け方 P.248
エンジンオイル P.312
オーバーヒート時の対処 P.308

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P.260, ワット数：P.315）

H ヘッドランプ・車幅灯・デイタイムランニングランプ★
・方向指示灯 P.125, 131
I フロントフォグランプ★ P.137
J サイド方向指示灯 P.125
K 尾灯・制動灯 P.131
L 方向指示灯・リヤフォグランプ★ P.125, 137
後退灯
シフトポジションをRにする P.122
M 尾灯★ P.131
N 番号灯 P.131

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



A エンジンスイッチ P.118

エンジンの始動・モード切りかえ P.118

エンジンの緊急停止 P.268

エンジンが始動できないときの対処 P.301

警告メッセージ P.281

B シフトレバー P.122

シフトポジションの切りかえ P.122

けん引時の注意 P.271

シフトレバーが動かないときの対処 P.123

C メーター P.56, 59

見方・明るさの調整 P.56, 59

警告灯／表示灯 P.52

警告灯点灯時の対処 P.275

D マルチインフォメーションディスプレイ P.62

表示内容 P.62

警告メッセージ表示時の対処 P.281

E 方向指示レバー P.125
ランプスイッチ P.131

ヘッドランプ・車幅灯・デイタイムランニングランプ★・尾灯 P.131

フロントフォグランプ★・リヤフォグランプ★ P.137

F ワイパー&ウォッシャースイッチ P.138, 140

使い方 P.138, 140

ウォッシャー液の補充 P.250

G 非常点滅灯スイッチ P.267

H ボンネット解除レバー P.248

I ハンドル位置調整レバー P.101

J エアコン P.216

操作方法 P.216

リヤウィンドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） P.219

K オーディオ ※

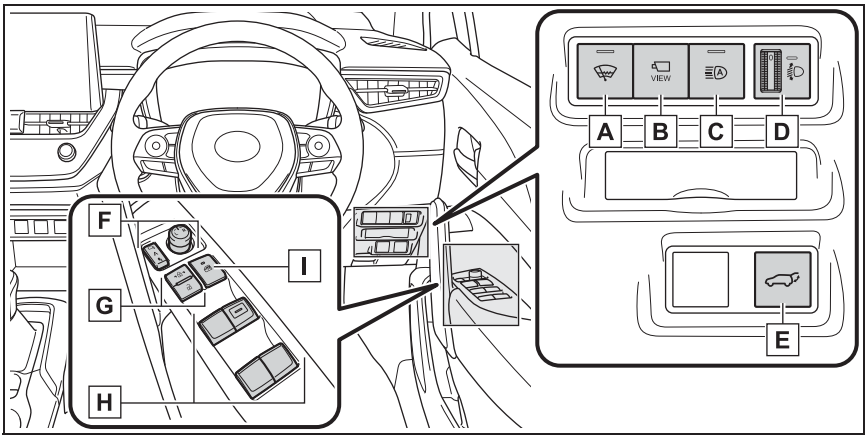
音楽を聴く ※

電話をかける・受ける（ハンズフリー） ※

※ 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スイッチ類



A フロントワイパーデアイサースイッチ★ P.221

B パノラミックビューモニターメインスイッチ★※

C オートマチックハイビームスイッチ P.134

D 手動光軸調整ダイヤル P.133

E パワーバックドアスイッチ★ P.81

F ドアミラースイッチ P.103

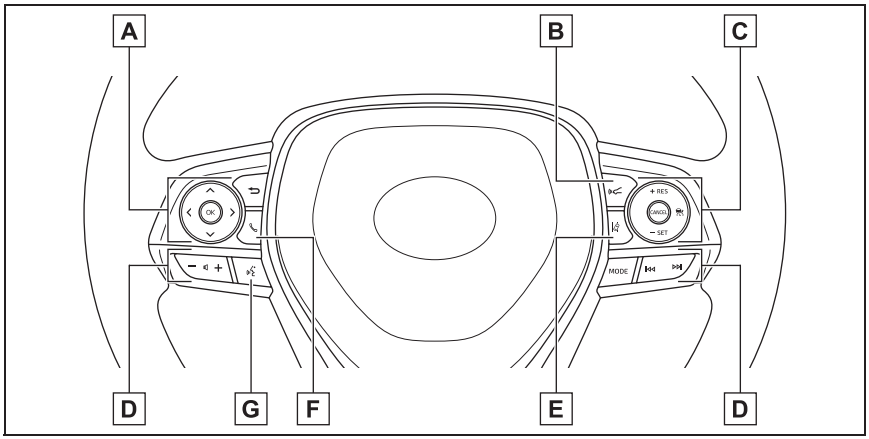
G ドアロックスイッチ P.77

H パワーウインドウスイッチ P.105

I ウインドウロックスイッチ P.107

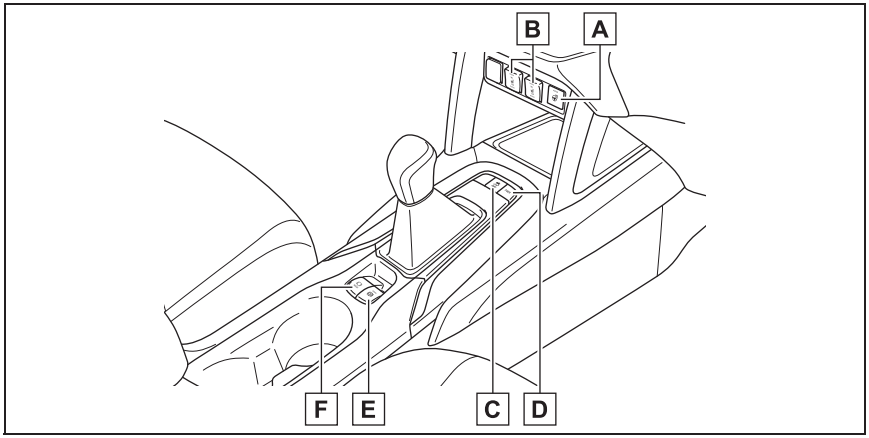
※ 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A メーター操作スイッチ P.63
B 車間距離切りかえスイッチ P.171
C クルーズコントロールスイッチ
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き） P.167
D オーディオスイッチ※
E LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ P.155
F 電話スイッチ※
G トークスイッチ※

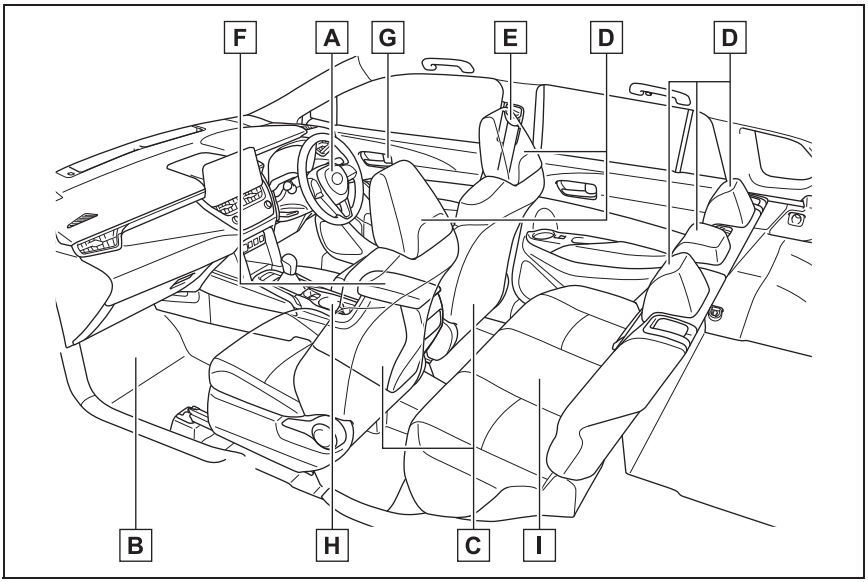
※別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。



A ステアリングヒータースイッチ★ P.224
B シートヒータースイッチ★ P.224
C VSC OFF スイッチ P.205
D PWR スイッチ P.203
E パーキングブレーキ P.126
冬季の注意 P.213
F ブレーキホールドスイッチ P.129

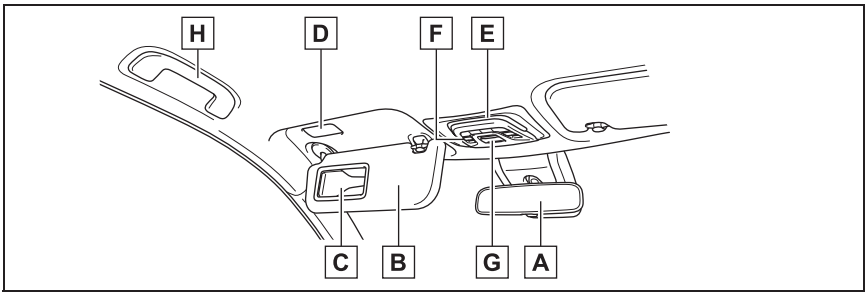
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 室内



A SRS エアバッグ P.28
B フロアマット P.22
C フロントシート P.96
D ヘッドレスト P.98
E シートベルト P.25
F コンソールボックス P.229
G ロックレバー P.77
H カップホルダー P.228
I リヤシート P.97

■ 天井



A インナーミラー P.102
B サンバイザー※1 ..... P.239
C バニティーミラー P.239
カードホルダー P.230
D バニティミラーランプ★ P.239
E インテリアランプ／パーソナルランプ P.225
F 電動サンシェード開閉スイッチ★ P.237
G ヘルプネットボタン※2
H アシストグリップ P.239

※1やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.38）

※2別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安全・安心のために
～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 22
安全なドライブのために 23
シートベルト 25
SRS エアバッグ 28
排気ガスに対する注意 34

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 35
チャイルドシート 36

1-3. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 50

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

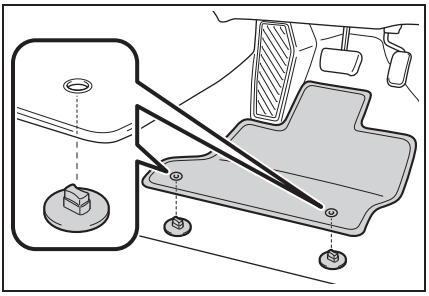
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

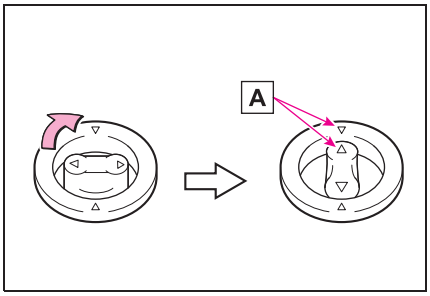
フロアマット

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△ マーク A を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

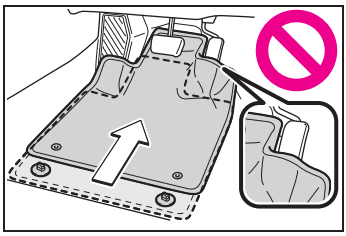
■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

⚠ 警告

■運転する前に

●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

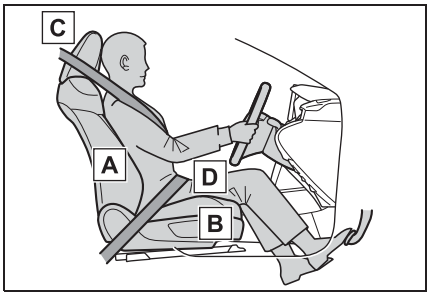


●エンジン停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.96）

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.96）

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.98）

D シートベルトを正しく着用する（→P.25）

⚠ 警告

■安全な運転のために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
  お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
  周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→P.25）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→P.36）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。
（→P.102, 103）

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

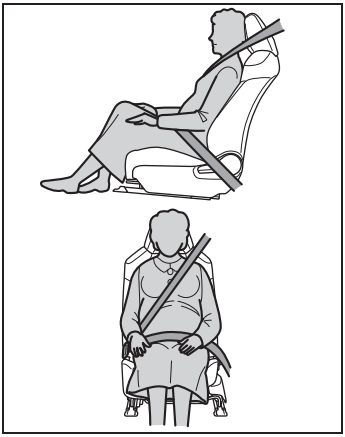
⚠警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.26)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

→P.46

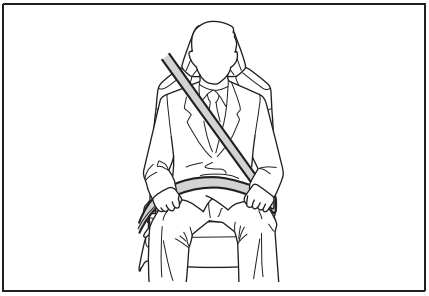
■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

⚠ 警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用する



● 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

● ねじれがないようにする

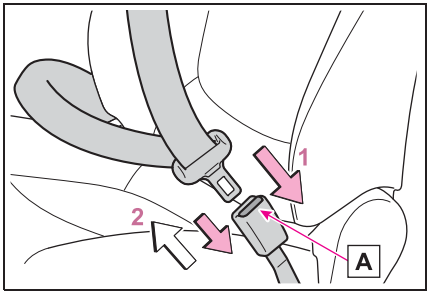
知識

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。(→P.46)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。

着け方・はずし方



1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

2 ベルトを解除するには、解除ボタンAを押す

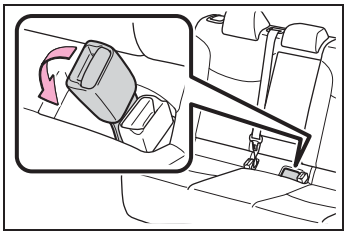
知識

■シートベルトロックの解除方法

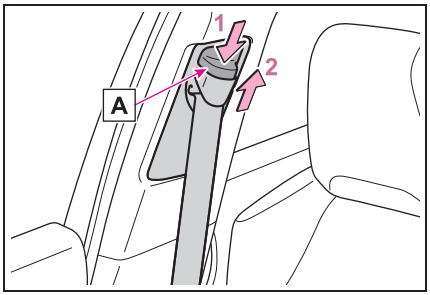
急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■リヤ中央席シートベルトを使用したあとは

バックルを格納してください。



シートベルトの高さ調節（フロント席）

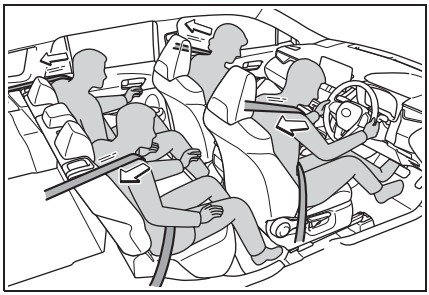


1 解除ボタンAを押しながら、アジャスターを下げる

2 解除ボタンAを押しながら、アジャスターを上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）



前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

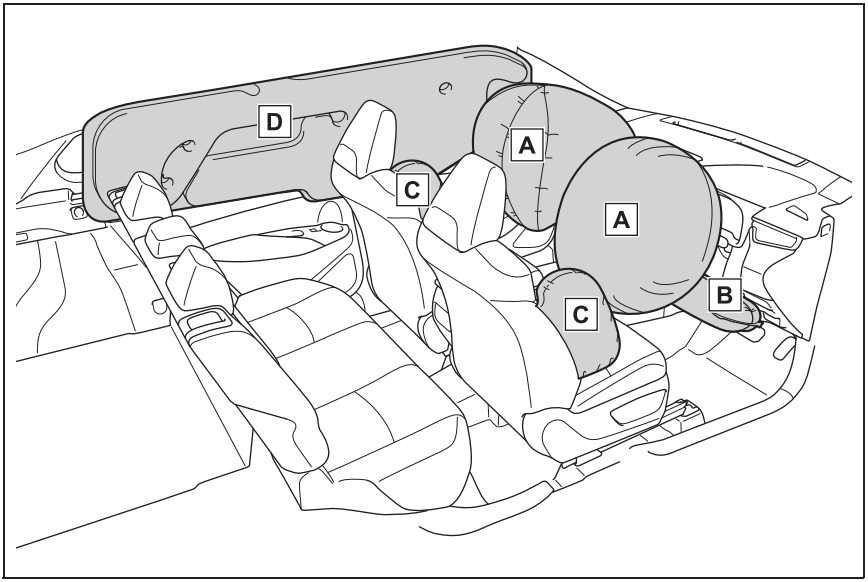
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和します

B SRS ニーエアバッグ

運転者の衝撃緩和を補助します

▶ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

C SRS フロントサイドエアバッグ

フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和します

D SRS カーテンシールドエアバッグ

フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和します

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなく、エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.204）

●室内灯が自動で点灯します。（→P.226）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.267）

●燃料供給を停止します。（→P.274）

●T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両などを手配します。
詳しくは「マルチメディア取扱書」を参照してください。
・ SRS エアバッグが作動した
・ シートベルトプリテンショナーが作動した
・ 後方から強い衝撃を受けた

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナー、SRS ニーエアバッグのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

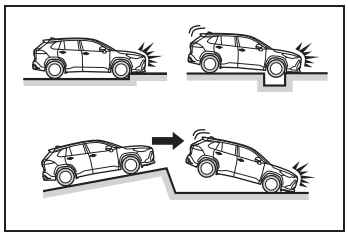
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



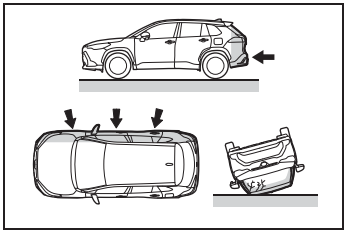
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

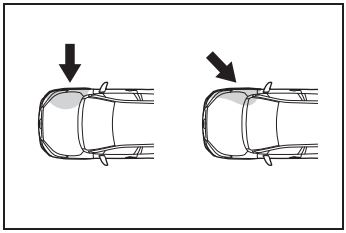


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

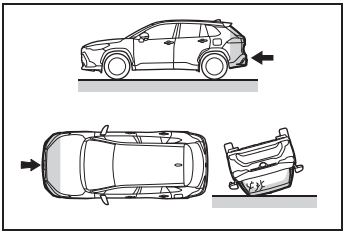


SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

●横転

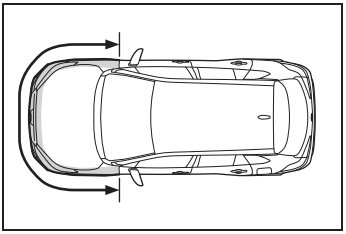


■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

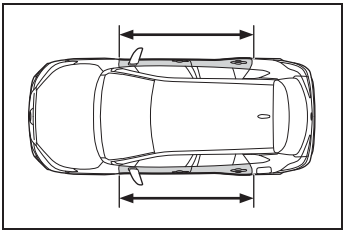
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

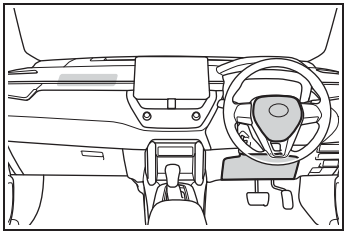
●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



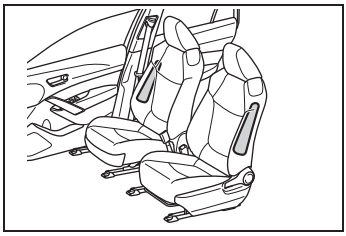
●SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき



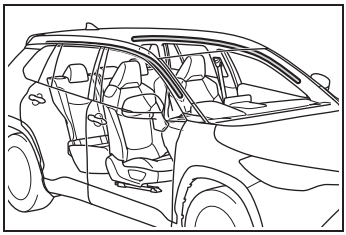
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



⚠警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

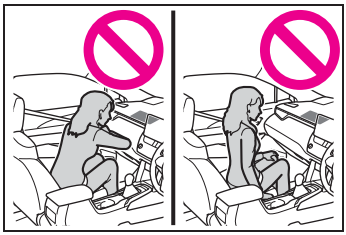
●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

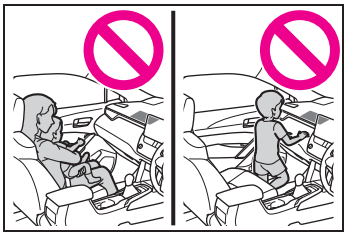
●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
(→P.36)

⚠ 警告

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



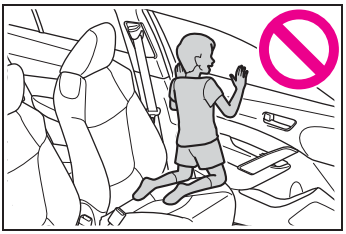
●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



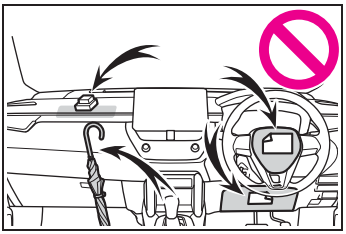
●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

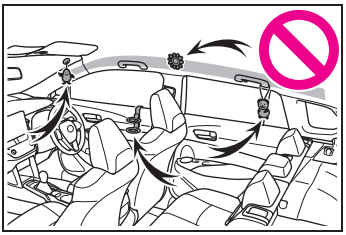
●助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く→P.285）



●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカーなどの周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→P.36）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→P.78）・ウインドウロックスイッチ（→P.107）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠警告

■お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。（→P.36）

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：P.36
チャイルドシートを使用するときは：P.37
シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.40
チャイルドシートの取り付け方法：P.44
・ シートベルトで固定する：P.45
・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.47
・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.48

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。
  （→P.40）

⚠ 警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

⚠ 警告

- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.40）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

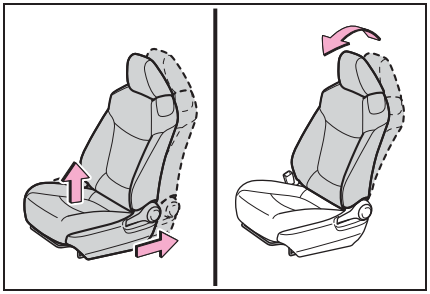
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- 背もたれを可能な限り起こす

背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように調整してください。

- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。



⚠警告

■チャイルドシートを使用するとき

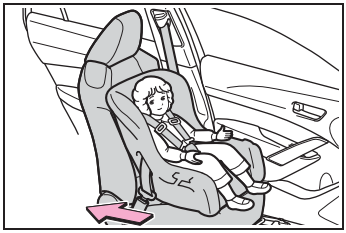
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
  うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

⚠警告

⚠警告

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



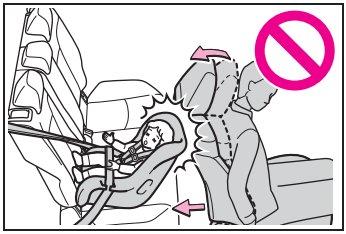
●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

⚠警告

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

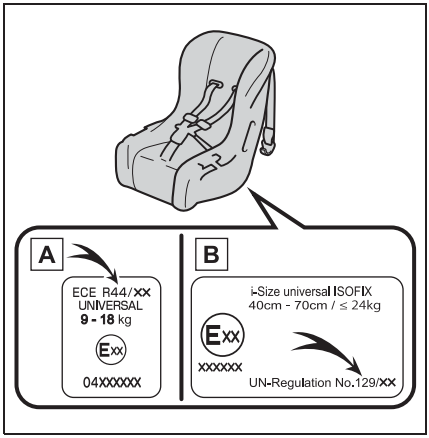
■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.41）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。
推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシート一覧表」を確認してください。（→P.43）
次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN(ECE) R44※1 または、UN(ECE) R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

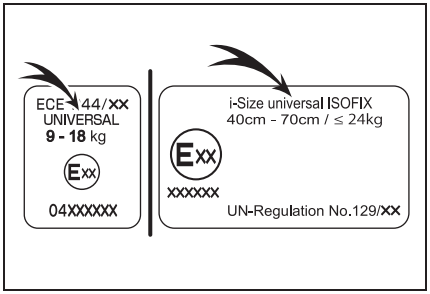
A UN(ECE) R44 認可マーク※2
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN(ECE) R129 認可マーク※2
対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。
また、ご不明な場合はチャイル

ドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

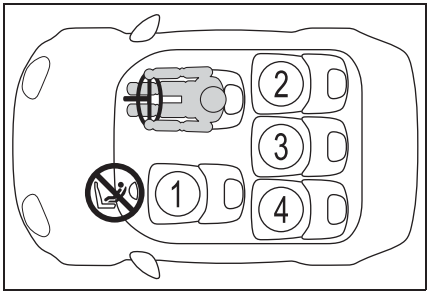
・ ユニバーサル「universal（汎用）」
・ セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・ リストリクティッド「restricted（限定）」
・ ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



※1 UN(ECE) R44、UN(ECE) R129は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



1 ※1, 2, 3, 4	UF
2 ※2, 3	U　L
3 ※2, 3	U
4 ※2, 3	U　L

U　車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF　車両のシートベルトで前向きに固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L　推奨チャイルドシート一覧表（→P.43）に記載されたチャイルドシートに適しています。

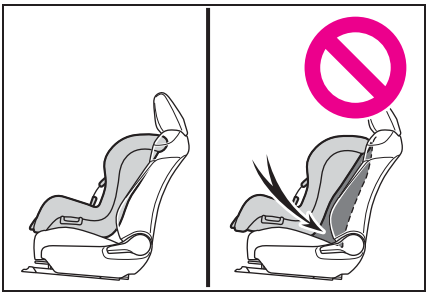
i-Size チャイルドシートおよびISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向きのみ可	有	有	有
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	有	無	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1, R2X, R2	×	R1, R2X, R2
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	B2, B3	×	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシート

に付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

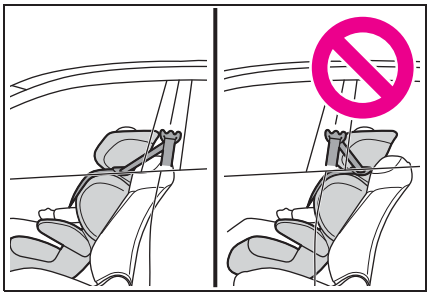
■ 推奨チャイルドシート一覧表

質量グループ	推奨チャイルドシート
0、0+ （13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child baby
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg
Ⅰ （9 ～ 18kg）	トヨタ純正 NEO G-Child baby
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg
Ⅱ、Ⅲ （15 ～ 36kg）	トヨタ純正 ジュニアシート

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の

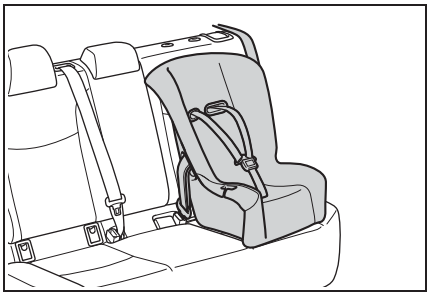
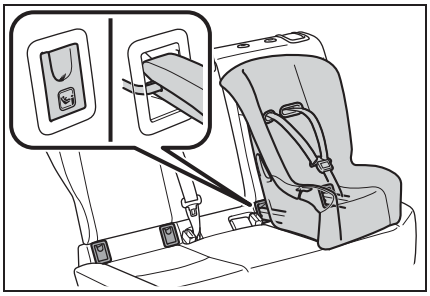
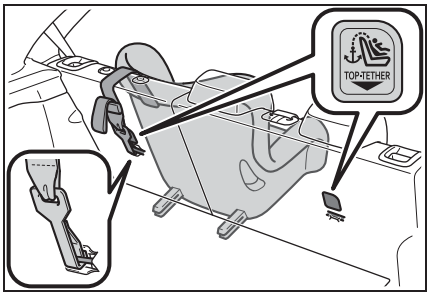
席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.45
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.47
テザーベルトを固定する		P.48

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.40, 41）

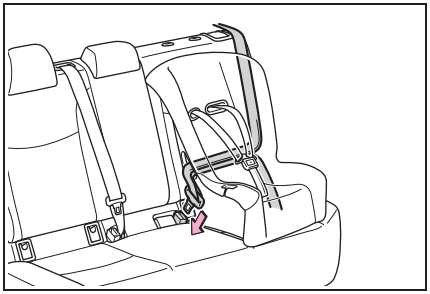
1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.37）

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合

は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.98）

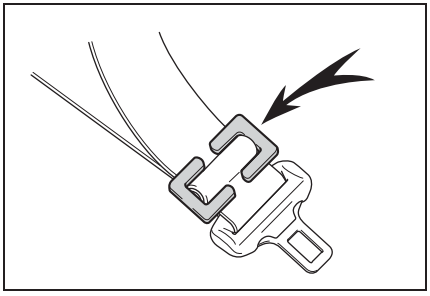
3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.46）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

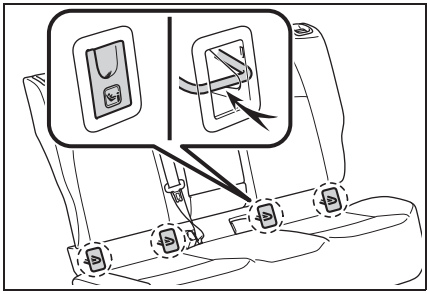
⚠ 警告

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIXロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークのついたカバーがシートに付いています）



■ ISOFIXロアアンカレッジで固定する

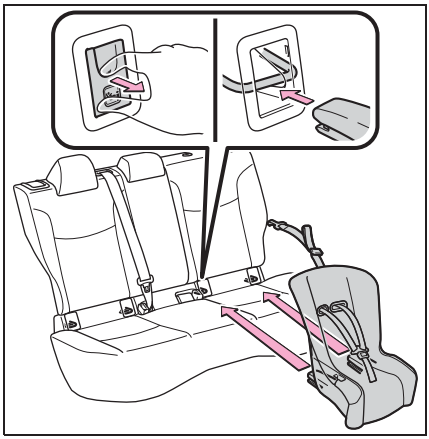
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.40, 41）

1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.98）

2 ロアアンカレッジのカバーを取りはずし、チャイルドシートをシートに取り付ける

ロアアンカレッジはカバーのうしろにあります。

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.46）

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

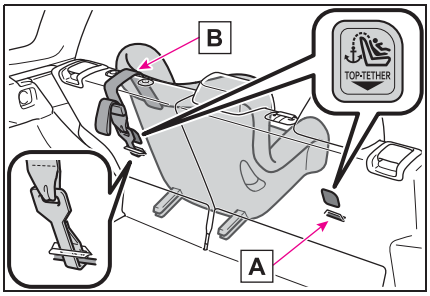
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

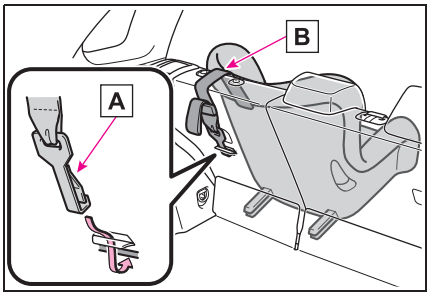
1 ヘッドレストを上げる

ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。(→P.98)

2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.46)

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A フック

B テザーベルト

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

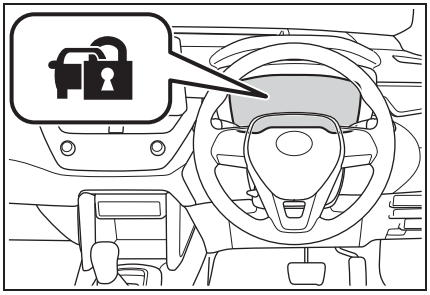
エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには



エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

走行に関する情報表示 2

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯 52
計器類（4.2 インチディスプレイ） 56
計器類（7 インチディスプレイ） 59
マルチインフォメーションディスプレイ 62
燃費画面 68

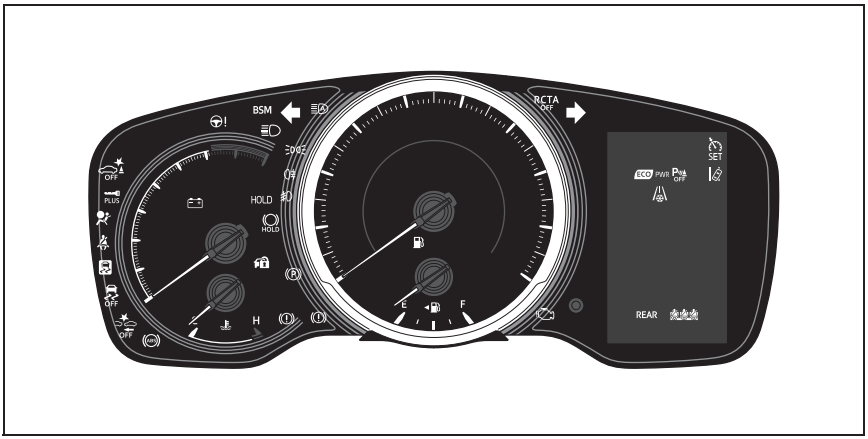
警告灯／表示灯

メーター・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

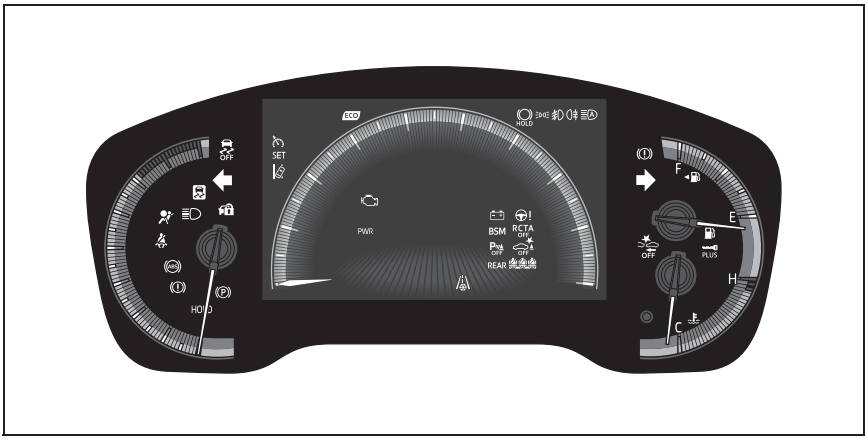
メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

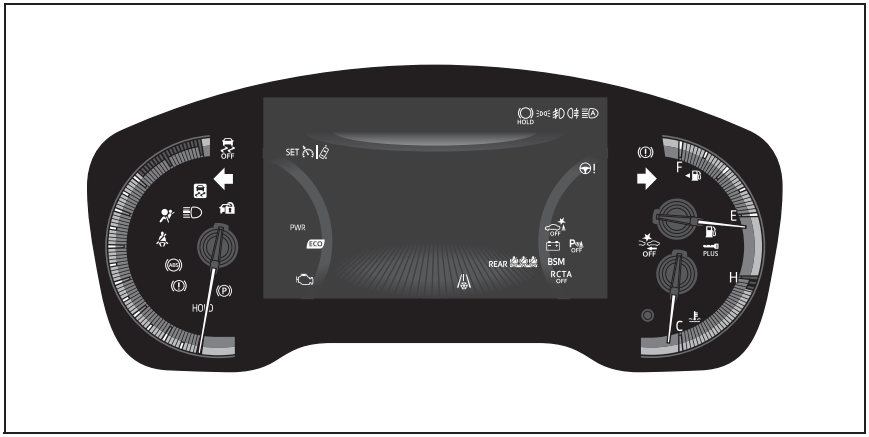
▶ 4.2 インチディスプレイ



▶ 7 インチディスプレイ（アナログスピードメーター選択時）



▶ 7 インチディスプレイ（デジタルスピードメーター選択時）



警告灯一覧

システム異常などを警告します。

（赤色）
ブレーキ警告灯 ※1（→P.275）

（黄色）
ブレーキ警告灯 ※1（→P.275）

高水温警告灯 ※2（→P.275）

充電警告灯 ※1（→P.275）

油圧警告灯 ※2（→P.276）

エンジン警告灯 ※1（→P.276）

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ※1（→P.276）

ABS &ブレーキアシスト警告灯 ※1（→P.276）

ペダル誤操作警告灯 ※2（→P.277）

（赤色／黄色）
パワーステアリング警告灯 ※1（→P.277）

燃料残量警告灯（→P.277）

運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（→P.278）

REAR
リヤ席シートベルト非着用警告灯（→P.278）

（橙色）
LTA 表示灯（→P.278）

OFF（点灯）
クリアランスソナー OFF 表示灯★ ※1（→P.278）

RCTA OFF（点滅）
RCTA OFF 表示灯★ ※1（→P.279）

OFF（点灯）
PKSB OFF 表示灯★ ※1（→P.279）

OFF（点滅または点灯）
PCS 警告灯 ※1（→P.279）

スリップ表示灯 ※1（→P.280）

（点滅）
パーキングブレーキ表示灯（→P.280）

（点滅）
ブレーキホールド作動表示灯※1（→P.280）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1作動確認のためにエンジンスイッチをONにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

⚠警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P.125）

尾灯表示灯（→P.131）

ハイビーム表示灯（→P.133）

オートマチックハイビーム表示灯（→P.134）

フロントフォグランプ表示灯★（→P.137）

リヤフォグランプ表示灯★（→P.137）

PCS 警告灯※1, 2（→P.150）

クルーズコントロール表示灯（→P.167）

レーダークルーズコントロール表示灯（→P.167）

クルーズコントロールセット表示灯（→P.167）

（白色）
LTA 表示灯（→P.159）

（緑色）
LTA 表示灯（→P.159）

（橙色点滅）
LTA 表示灯（→P.159）

BSM ドアミラーインジケーター★※1, 3（→P.178, 188）

BSM 表示灯★（→P.178）

クリアランスソナー OFF 表示灯★※1, 2（→P.183）

RCTA OFF 表示灯★※1, 2（→P.188）

プラスサポート表示灯★（→P.208）

PKSB OFF 表示灯★※1, 2（→P.195）

（点滅）
スリップ表示灯※1（→P.204）

VSC OFF 表示灯※1, 2（→P.205）

スマートエントリー&スタートシステム表示灯※4（→P.118）

パーキングブレーキ表示灯
（→P.126）

ブレーキホールドスタンバイ
表示灯 ※1（→P.129）

ブレーキホールド作動表示灯
※1（→P.129）

エコドライブインジケーター
ランプ ※1（→P.65）

低温表示灯 ※5（→P.56, 59）

セキュリティ表示灯
（→P.50）

パワーモード表示灯
（→P.203）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1作動確認のためにエンジンスイッチをONにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2システムがOFFのときに点灯します。

※3ドアミラーに表示されます。

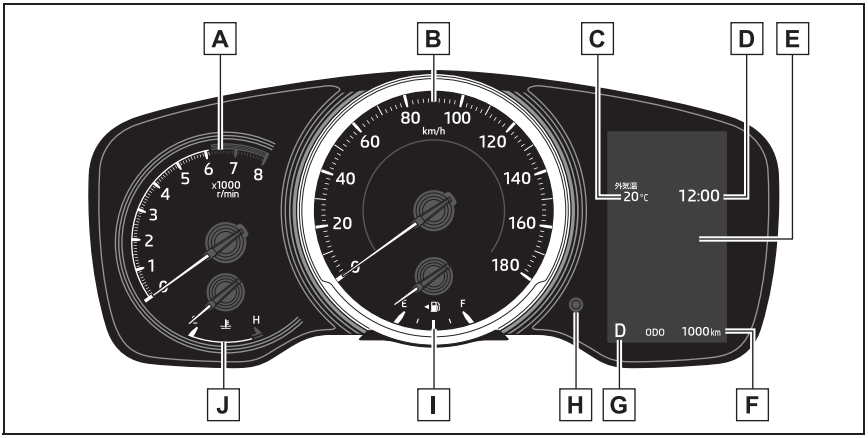
※4マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※5外気温が約3°C以下のとき、約10秒間点滅後に点灯します。

計器類（4.2 インチディスプレイ）

メーターの表示について

■ 計器類の位置



A タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

B スピードメーター

C 外気温

外気温度を -40°C ～ 50°C のあいだで表示します。

D 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルテメディア取扱書」を参照してください。

E マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.62）
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.281）

F オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.57）

G シフトポジション表示灯（→P.122）

H 表示切りかえボタン（→P.57）

I 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき

・坂道やカーブを走行したとき

J 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

知識

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる
2 表示切りかえボタンを押してオドメーター／トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる
3 エンジンスイッチを OFF にする
4 表示切りかえボタンを押したまま、エンジンスイッチを ON にする
5 そのまま約 5 秒間表示切りかえボタンを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■外気温表示について

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
・停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

→P.63

⚠警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

●水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.308）

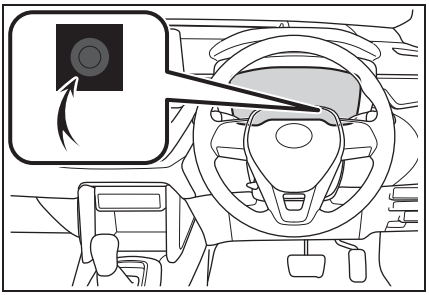
オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示の切りかえ

表示を切りかえるには、表示切りかえボタンを押します。

ボタンを押すごとに表示される項目が切

りかわります。



■ 表示項目

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に表示切りかえボタンを長押しします。

● メーターの照度調整

メーターの明るさを表示します。

・ 車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

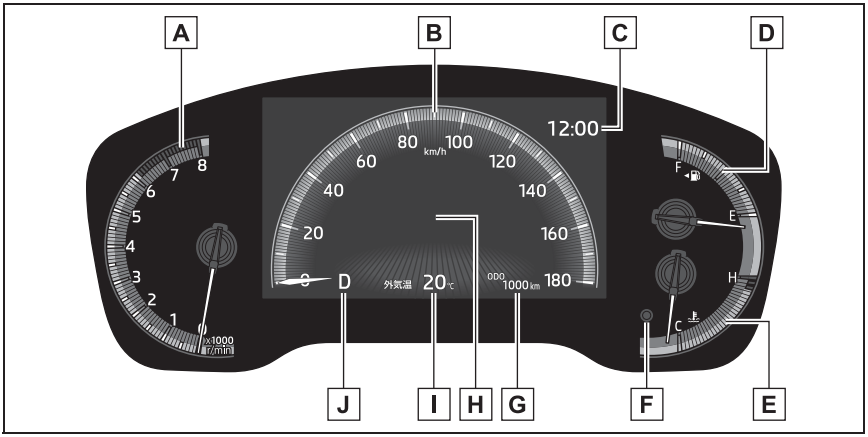
・ 明るさを調整するには、メーター照度調整表示中に表示切りかえボタンを長押しします。

計器類（7 インチディスプレイ）

メーターの表示について

■ 計器類の位置

▶ アナログスピードメーター



A タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

B スピードメーター

C 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルテメディア取扱書」を参照してください。

D 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

E 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

F 表示切りかえボタン（→P.62）

G オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.62）

H マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.62）

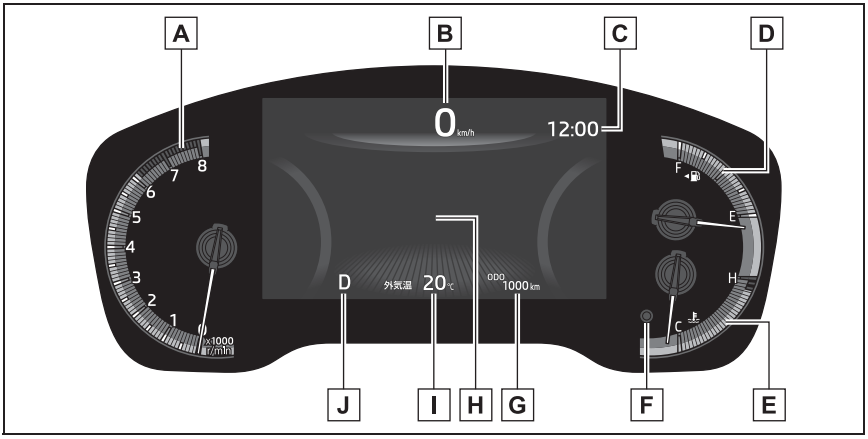
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.281)

I 外気温

外気温度を -40°C ～ 50°C のあいだで表示します。

J シフトポジション表示灯 (→P.122)

▶ デジタルスピードメーター



A タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

B スピードメーター

C 時計

GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルテメディア取扱書」を参照してください。

D 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油 (約 5L 以下) を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

E 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

F 表示切りかえボタン (→P.62)

G オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.62)

H マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.62)
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.281)

I 外気温

外気温度を -40°C～50°C のあいだで表示します。

J シフトポジション表示灯（→P.122）

知識

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1. 車両を平坦な場所に停車させる
2. 表示切りかえボタンを押してオドメーター／トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる
3. エンジンスイッチを OFF にする
4. 表示切りかえボタンを押したまま、エンジンスイッチを ON にする
5. そのまま約 5 秒間表示切りかえボタンを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■外気温表示について

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
  - 停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
  - 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--”または“E”が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

→P.63

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの で、計器類の表示を変更できます。（→P.67）

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

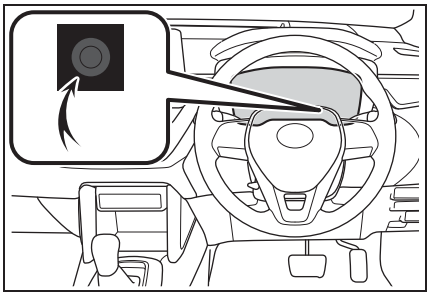
- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.308）

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示の切りかえ

表示を切りかえるには、表示切りかえボタンを押します。

ボタンを押すごとに表示される項目が切りかわります。



■ 表示項目

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に表示切りかえボタンを長押しします。

● メーターの照度調整

メーターの明るさを表示します。

・ 車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

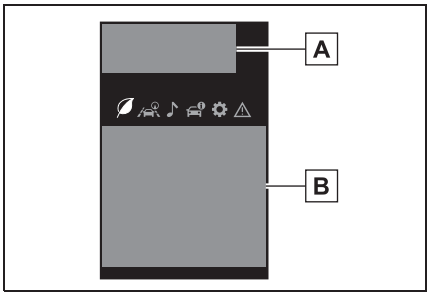
・ 明るさを調整するには、メーター照度調整表示中に表示切りかえボタンを長押しします。

マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示

▶ 4.2 インチディスプレイ



A 走行支援システム表示エリア

以外のメニューアイコンを選択している時に次のシステムが作動していると、システムの作動状況を表示します。

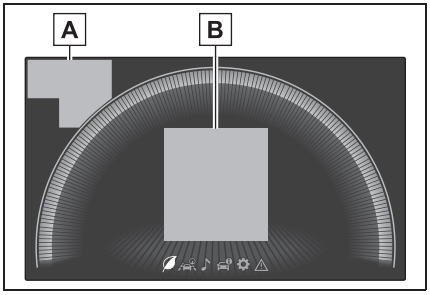
・ LTA（レーントレーシングアシスト）
・ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
・ RSA（ロードサインアシスト）（→P.164）

B コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

▶ 7 インチディスプレイ



A 走行支援システム表示エリア

以外のメニューアイコンを選択している時に次のシステムが作動していると、システムの作動状況を表示します。

・ LTA（レーントレーシングアシスト）
・ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
・ RSA（ロードサインアシスト）（→P.164）

B コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

■ メニューアイコン

メーター操作スイッチの ❮ または ❯ を押すとメニューアイコンが表示されます。

走行情報表示（→P.64）

運転支援機能情報表示（→P.66）

オーディオシステム連携表示（→P.66）

車両情報表示（→P.66）

設定（→P.67）

警告メッセージ（→P.281）

知識

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

⚠ 警告

■運転中の使用について

● マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。

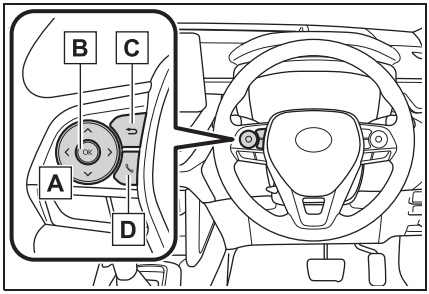
● マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■低温時の画面表示について

→P.56, 59

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A ＜／＞：メニューの切りかえ
　＜／＞：表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動
B 短押し：決定
　長押し：リセット／詳細項目表示
C ひとつ前の画面にもどる
D 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

走行情報表示について

■ 表示項目

- 車速表示／航続可能距離（4.2 インチディスプレイ）
- 燃費グラフ
- 燃費ランキング
- 燃費推移（1 分間／ 5 分間燃費）
- 燃費履歴
- エコドライブインジケータ／航続可能距離

■ 車速表示／航続可能距離（4.2 インチディスプレイ）

- 車速表示
- 航続可能距離

燃料残量による走行可能な距離を表示します。表示される数値は参考として利用してください。

運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示とともに更新することができます。（→P.57, 61）

■ 燃費グラフ

表示される数値は参考として利用してください。

A 平均燃費

平均燃費をリセットするには、メーター操作スイッチの OK を長押しします。

B 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

C 航続可能距離

燃料残量による走行可能な距離を表示します。

運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示とともに更新することができます。（→P.57, 61）

平均燃費の表示は、メニューアイコンの ⚙ から変更することができ

ます。

表示できる項目は次のとおりです。

● 始動後平均燃費

エンジン始動後の平均燃費を表示します。

● 給油後平均燃費

給油後の平均燃費を表示します。

■ 燃費ランキング

過去の燃費ベスト3を表示します。

エンジンを始動してからの走行距離が短い場合、燃費ランキングは更新されない場合があります。

リセットするには、メーター操作スイッチの OK を長押しします。

■ 燃費推移（1 分間／ 5 分間燃費）

エンジンを始動してからの燃費履歴を 1 分または 5 分刻みで表示します。

表示する項目は、メニューアイコンの ⚙ から変更することができます。

瞬間燃費と平均燃費を同時に表示し、6 分前（1 分刻み表示の場合）／ 30 分前（5 分刻み表示の場合）までの燃費と比較することができます。

瞬間燃費は、現在の瞬間燃費を表示します。平均燃費は燃費グラフで表示している平均燃費を表示します。

■ 燃費履歴

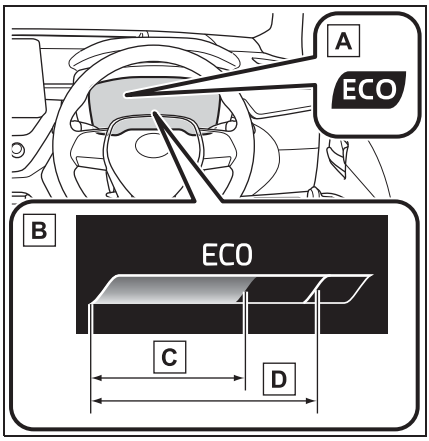
月ごとの平均燃費を表示します。

今月、過去 3 か月分と 1 年前の同月を表示し、比較することができます。

メーター操作スイッチの OK を長押しすると、月別平均燃費と月別走行距離をリセットすることができます。

■ エコドライブインジケーター／航続可能距離

● エコドライブインジケーター



A エコドライブインジケーターランプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

B エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

C 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。

このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

D エコ運転の範囲

● 航続可能距離

燃料残量による走行可能な距離を表示します。表示される数値は参考として利用してください。

運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示とともに更新することができます。（→P.57, 61）

知識

■燃費ランキングを表示するには

メニューアイコンの ⚙ からカレンダーの設定が必要です。（→P.67）

■エコドライブインジケーターについて

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトポジションが D 以外にあるとき
- 走行モードがノーマルモード以外のとき
- 車速が約 100km/h 以上のとき

運転支援機能情報表示について

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.155）
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.167）

オーディオシステム連携表示について

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。

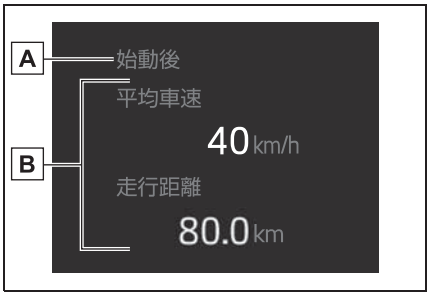
車両情報表示について

■ 表示項目

ドライブインフォメーション

■ ドライブインフォメーション

表示される数値は参考として利用してください。



A ドライブインフォタイプ

B ドライブインフォ項目

ドライブインフォタイプとドライブインフォ項目の組み合わせを ⚙ から選択して表示させることができます。（→P.67）

表示できる組み合わせは次のとおりです。

● 始動後

- 距離：エンジン始動後の走行距離を表示
- 走行時間：エンジン始動後の経過時間を表示
- 平均車速：エンジン始動後の平均車速を表示

● リセット後

- 距離：リセット後の走行距離を表示 ※
- 走行時間：リセット後の経過時間を表示 ※
- 平均車速：リセット後の平均車速を表示 ※

※リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチのOKを長押しします。

設定について

■ 変更できる項目（メーター表示）

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

燃費単位を選択することができます。

● メーター表示（7インチディスプレイ）

スピードメーターの表示を、アナログ／デジタルから選択することができます。

● エコドライブインジケーターランプ

エコドライブインジケーターランプの作動・非作動を切りかえることができます。

●

・表示コンテンツ

燃費ランキング／燃費推移／燃費履歴の画面の表示・非表示を選択することができます。

・燃費グラフ

平均燃費の表示をリセット後／始動後／給油後から選択することができます。（→P.64）

・燃費推移（1分間／5分間燃費）

1分刻み／5分刻みを選択することができます。

● ♪

オーディオ連動表示の表示・非表示を選択することができます。

●

・表示コンテンツ

・ドライブインフォタイプ

始動後／リセット後から選択することができます。

・ドライブインフォ項目

1行目と2行目の項目を別々に、平均車速／走行距離／走行時間から選択することができます。

● 割り込み表示

割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

● カレンダー

燃費データの記録に使用する年月日を変更することができます。

● マルチインフォメーションディスプレイの消灯

マルチインフォメーションディスプレイの表示をオフにすることができます。

再度表示させるには∧／∨／＜／＞／OK／↩のいずれかのスイッチを押してください。

● 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

■ 変更できる項目（機能の切りかえ・車両設定）

→P.316

知識

■設定画面の操作について

●一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。

●警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

⚠ 警告

■ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

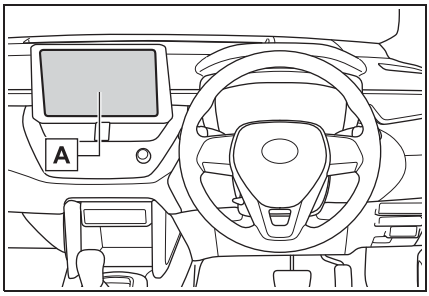
■ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

燃費画面

燃費に関する情報をマルチメディア画面に表示します。

システムの構成部品



A マルチメディア画面

燃費画面の見方

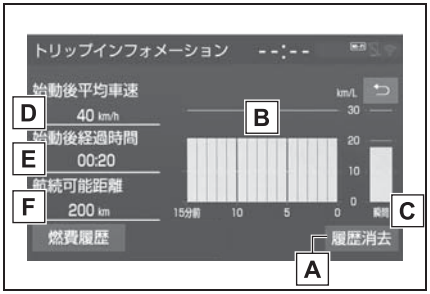
■ トリップインフォメーションの見方

1 “MENU” スイッチを押し、“情報” を選択する

2 “情報” 画面の “エコ情報” を選択する★

3 “トリップインフォメーション” または “燃費履歴” を選択する

トリップインフォメーション画面以外が表示されたときは、“トリップインフォメーション” を選択します。



A 履歴消去

B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

C 瞬間燃費

D エンジン始動後平均車速

E エンジン始動後経過時間

F 航続可能距離 （→P.69）

平均燃費はエンジンスイッチを ON にしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

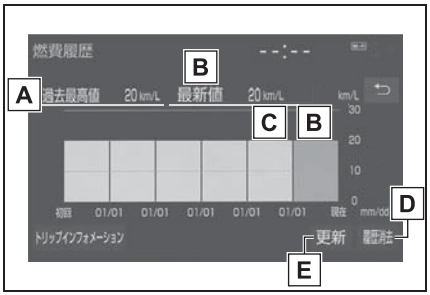
表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 燃費履歴の見方

燃費履歴画面以外が表示されたときは、“燃費履歴”を選択します。



A 過去最高値表示

B 最新値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴消去

E 最新値更新

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で“更新”を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

“履歴消去”を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

- 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。
  この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→P.57, P.61）

運転する前に 3

3-1. キー

キー 72

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア（フロントドア・リヤドア） 75

バックドア 78

スマートエントリー&スタートシステム 91

3-3. シートの調整

フロントシート 96

リヤシート 97

ヘッドレスト 98

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 101

インナーミラー 102

ドアミラー 103

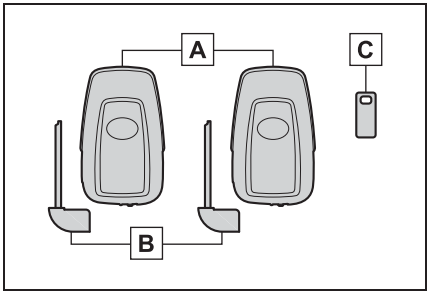
3-5. ドアガラスの開閉

パワーウインドウ 105

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

・スマートエントリー&スタートシステム★の作動 （→P.91）

・ワイヤレス機能の作動 （→P.73）

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●電子キーを長時間使用しないときは、節電モードに設定することで、電池の消耗を抑えることができます。（→P.92）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→P.256）

・スマートエントリー&スタートシステム★やワイヤレスリモコンが作動しない

・作動範囲が狭くなった

・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを置かないでください。

・TV

・パソコン

・携帯電話やコードレス電話機、および充電器

・電気スタンド

・電磁調理器

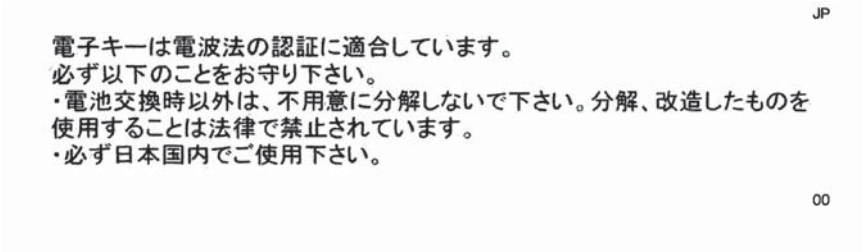
●スマートエントリー&スタートシステム★による操作をしなくても、車両周辺に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■電池が切れたとき

→P.256

■電子キーの取り扱いについて



■マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 10 日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

⚠ 注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー&スタートシステム★の故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.303

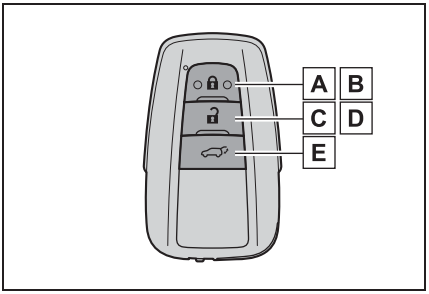
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■電子キーを紛失したとき

→P.302

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



A ドアを施錠する（→P.75）

B ドアガラスを閉める ※（→P.75）

C ドアを解錠する（→P.75）

D ドアガラスを開く ※（→P.75）

E パワーバックドア★を開閉する（→P.81）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

知識

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

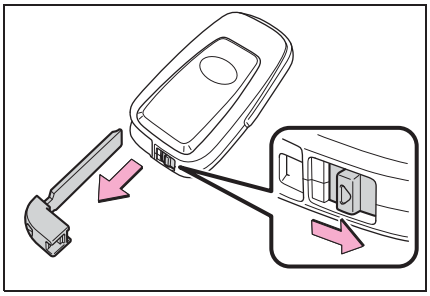
→P.92

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P.303）



知識

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.302

■不正キーの使用について

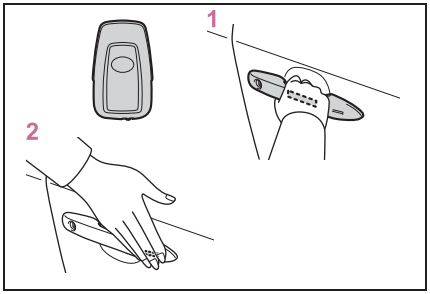
指定のキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

ドア（フロントドア・リヤドア）

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する★

電子キーを携帯して操作します。



1 フロント席のドアハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

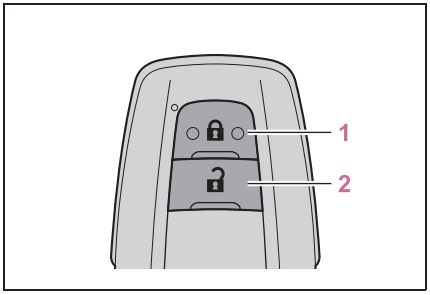
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 フロント席ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

知識

■解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 キー表面のインジケーターが消灯しているときに 🔒 ボタンと同時に、🔓 ボタンを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 **2** を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	解錠できるドア
車外：“ピピッ”（3回） 車内：“ポーン”（1回）	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠
	助手席のドアハンドルを握ると全席解錠
車外：“ピピッ”（2回） 車内：“ポーン”（1回）	フロント席のいずれかのドアハンドルを握ると全席解錠

■作動の合図

スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

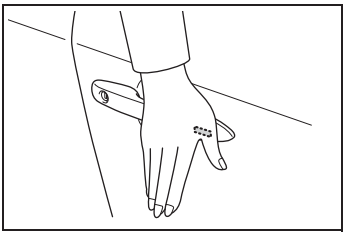
■解錠操作のセキュリティ機能

スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、てのひらでロックセンサー部にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→P.92

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.303）

キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→P.256）

■バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。（→P.303）

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.316）

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

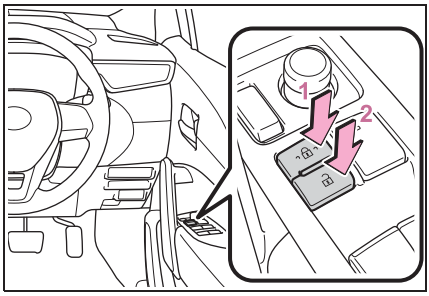
傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

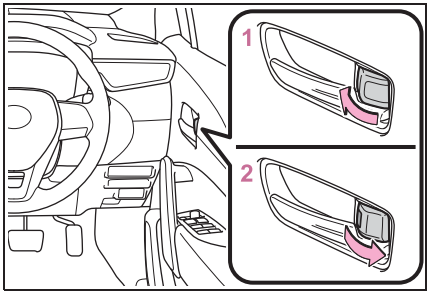
車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する



1 全ドアを施錠する
2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する
2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

知識

■キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする
2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチが ACC または ON のときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

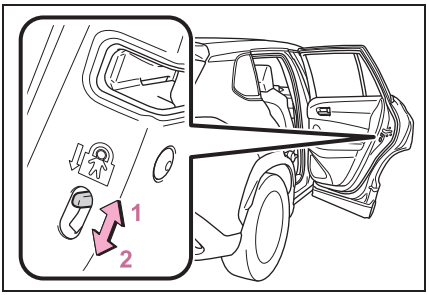
キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■半ドア走行時警告ブザー

各ドアまたはバックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴り、開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

バックドア

バックドアはバックドアオープンスイッチやスマートエントリー&スタートシステム★、ワイヤレスリモコンを使って施錠・解錠および開閉することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

- 走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
  完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームの中でお子さまを遊ばせないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

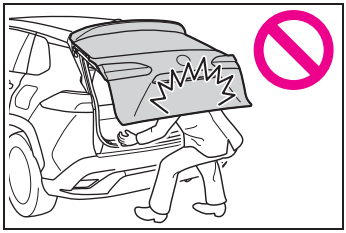
●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

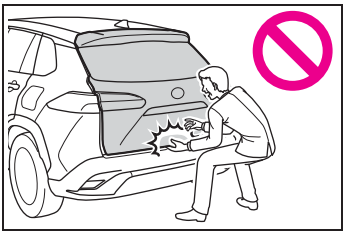
●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりする恐れがあります。
必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



●バックドアを閉めるときは、バックドアで指などを挟まないよう十分注意してください。



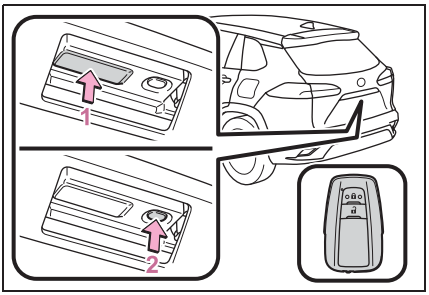
●バックドアは必ず外からバックドア上面を軽く押して閉めてください。
バックドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する★



1 バックドアオープンスイッチを押して解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 ロックスイッチを押して施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ワイヤレスリモコンを使用する

→P.75

知識

■作動の合図

→P.76

車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する

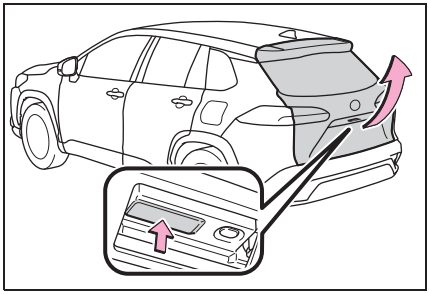
→P.77

バックドアを開閉するには （パワーバックドア非装着車）

■ 開ける

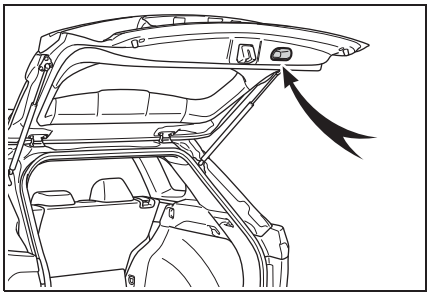
バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

バックドアオープンスイッチを押した直後はバックドアを閉めることができません。



■ 閉める

バックドアハンドルを持って、横方向に力をかけないように引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



知識

■半ドア走行時警告ブザー

→P.78

■ラゲージルームランプ

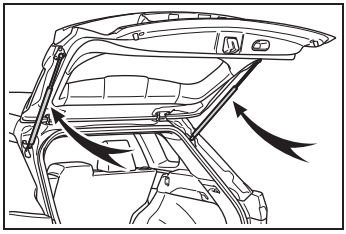
バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

⚠注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない



●ロッド部を軍手などでふれない

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない

●ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

バックドアを開閉するには　（パワーバックドア装着車）

■ ワイヤレス機能を使用して開閉する

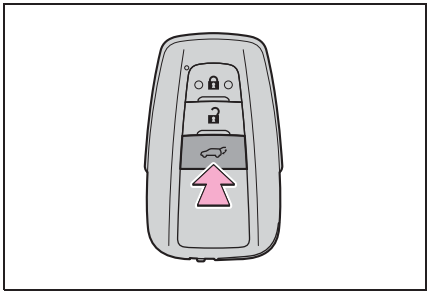
スイッチを約 1 秒長押しする

バックドア解錠時※に作動させることができます。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。

作動を停止した状態から再度、スイッチを約 1 秒間長押しすると、バックドアは反転作動します。

※ カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。



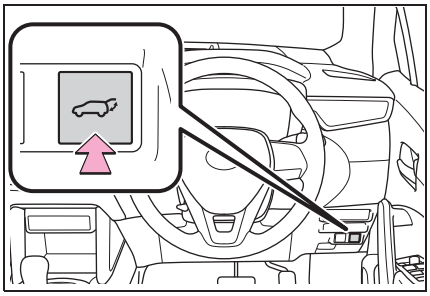
■ 車内からスイッチ操作で開閉する

スイッチを約 1 秒長押しする

ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で開閉します。ただしパワーバックドア施錠状態では、スイッチは作動しません。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。

作動を停止した状態から再度、スイッチを約 1 秒間長押しすると、パワーバックドアは反転作動します。



■ 車外からスイッチ操作で開閉する

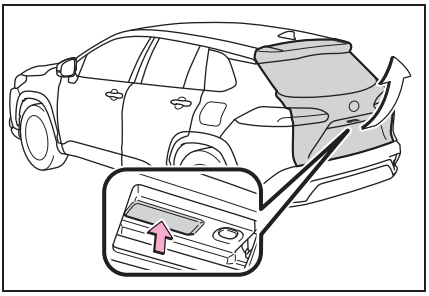
● 開ける

パワーバックドア解錠時：バックドアオープンスイッチを押す

パワーバックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを長押しする

ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で開きます。

パワーバックドアが開く途中でスイッチを押すと、作動を停止します。



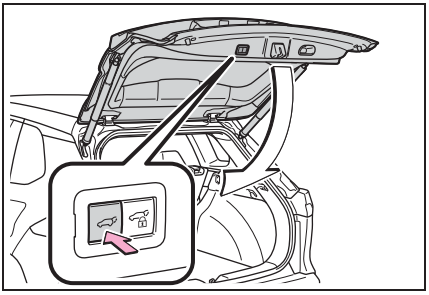
● 閉じる

スイッチを押す

ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で閉まります。

パワーバックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動を停止します。

再度スイッチを押すと、パワーバックドアは自動で開きます。



● 閉じると同時に全ドアの施錠をする（クローズ&ロック機能）

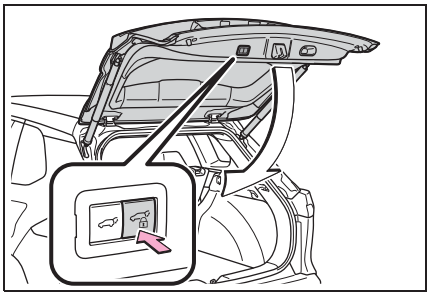
クローズ&ロックスイッチを押す

パワーバックドアを閉じると同時に全ドアを施錠します。

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが自動で閉まります。閉まると同時にすべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

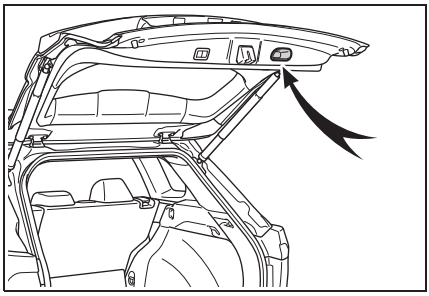
パワーバックドアが閉まる途中でクローズ&ロックスイッチを押すと、作動を停止します。

再度スイッチを押すと、パワーバックドアは自動で閉まります。



■ バックドアグリップを使用して閉じる

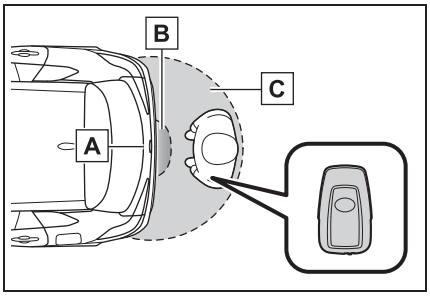
バックドアグリップを持ってパワーバックドアを引き下げると、ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で閉まります。



■ ハンズフリーパワーバックドアを使用して開閉する

1 電子キーを携帯し、スマートエントリー&スタートシステムの作動範囲内でリヤバンパーから

約 50 ～ 60cm 離れた位置に立つ



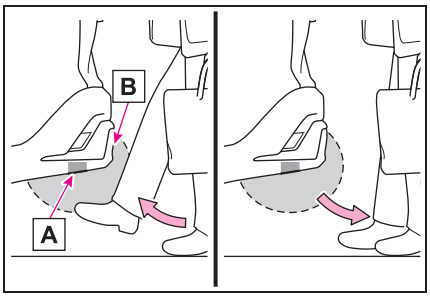
A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

C スマートエントリー&スタートシステム作動検知エリア（→P.91）

2 足をリヤバンパーから約 10cm の距離になるまで近づけて引く

・ 足を近づけて引く動作を 1 秒以内に行ってください。
・ 足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。
・ リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。
・ 車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

3 足を引く動作をキックセンサーが検知するとブザーが鳴り、その後パワーバックドアが自動で全開・全閉します。

パワーバックドアが作動途中に再度操作をすると、作動を停止します。

知識

■ラゲージルームランプ

●パワーバックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

●エンジンスイッチを OFF にしたときに、ラゲージルームランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■パワーバックドアの作動可能条件

パワーバックドアの作動が ON で、次のときに自動で開閉できます。

●パワーバックドアが解錠されているとき、ただし次のときはパワーバックドアが施錠されていてもパワーバックドアは作動します。
・ 電子キーを携帯してバックドアオープンスイッチを押したとき
・ ワイヤレスリモコン使用時では、カスタマイズ機能により施錠時からでも作動ができるように設定したとき

●エンジンスイッチが ON のとき開作動するには、上記に加え、車速が約 3km/h 以下で、次のいずれかの条件で作動します。
・ パーキングブレーキがかかっている
・ ブレーキペダルを踏んでいる
・ シフトレバーが P の位置にある

■クローズ & ロック機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・自車のもう一つの電子キーを車室内に置いていないとき

・パワーバックドア以外のすべてのドアが閉じているとき

・エンジンスイッチが OFF のとき

■ハンズフリーパワーバックドアの作動条件

●ハンズフリーパワーバックドア（キックセンサー）の作動の設定が ON のとき

●電子キーが作動範囲内にあるとき

■バックドアイージークローザー

パワーバックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

●エンジンスイッチがどの状態であっても、バックドアイージークローザーは作動します。

●バックドアイージークローザーが作動中でも、バックドアオープンスイッチを押してパワーバックドアを開けることができます。

■パワーバックドアの作動について

●作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が点滅します。

●パワーバックドアの作動が OFF のときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワーバックドア自動開閉中に、バックドアオープンスイッチを押すと、パワーバックドアの作動が停止し、手動操作に切りかわります。

●パワーバックドア自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、パワーバックドア開作動中はすぐに停止、パワーバックドア閉作動中は自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。

■バックドア予約ロック機能について

パワーバックドアが開いている状態で、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まると同時に施錠されます。

1 パワーバックドア以外のすべてのドアを閉じる

2 パワーバックドアの自動閉作動中にワイヤレスリモコンの施錠操作を行う (→P.73) または、スマートエントリー&スタートシステムによる施錠操作を行う (→P.75)

予約ロックをしてバックドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が働くなど停止操作が行われると、予約ロック機能が解除され全てのドアが解錠されます。

■クローズ&ロック機能が正常に作動しない状況

クローズ&ロック機能は、次のような状況では作動しないことがあります。

●電子キーを持った手でパワーバックドア下部のクローズ&ロックスイッチ (→P.81) を押したとき

●地面に置いたかばんなどに電子キーを入れたままパワーバックドア下部のクローズ&ロックスイッチ (→P.81) を押したとき

●パワーバックドア下部のクローズ&ロックスイッチ (→P.81) から離れた位置から押したとき

■ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しない状況

ハンズフリーパワーバックドアは、次のような状況では作動しないことがあります。

●足先をリヤバンパーの下に入れたままのとき

●リヤバンパーに足先が強くあたったときや、一定時間触れたとき
リヤバンパーに一定時間触れた場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。

●人がリヤバンパーに近すぎる位置で操作したとき

●電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき（→P.92）

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯・鉄板の上などハンズフリーパワーバックドアの感度をさまたげる電波・ノイズ・金属がある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

●リヤバンパーの表面に泥・雪・氷などが付着したとき

●リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長時間続いたとき

●リヤバンパーにアクセサリー用品を付けたとき
アクセサリー用品を取り付けた場合は、ハンズフリーパワーバックドア（キックセンサー）の作動の設定を OFF にしてください。

■ハンズフリーパワーバックドアの誤作動を防ぐために

ハンズフリーパワーバックドアは、電子キーが作動範囲内にあるときに誤作動するおそれがありますので、以下のことにご注意ください。

●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

●リヤバンパーの汚れを拭き取る動作をしたとき

●小動物やボールなどがリヤバンパーの下を横切ったとき

●リヤバンパーの下のものを取る動作をしたとき

●リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき

●リヤバンパーに足や体を触れながら車両を横切ったとき

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などハンズフリーパワーバックドアの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●リヤバンパーの近くに草木などがある場所に駐車したとき

●リヤバンパーの近くで荷物などの積み降ろしをしたとき

●リヤバンパーの近くでアクセサリー用品やカーカバーの脱着作業したとき

●けん引されるとき

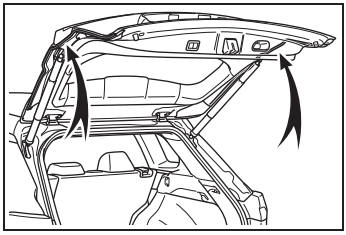
誤作動を防ぐときは、ハンズフリーパワーバックドア（キックセンサー）の作動の設定を OFF にしてください。

■バッテリーを再接続したときは

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてパワーバックドアを手動で一度全閉にしてください。

■挟み込み防止機能

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。パワーバックドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からパワーバックドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。

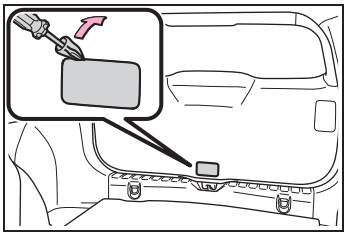


■バックドアが開かないとき

バックドアのロックを内側から解除することができます。

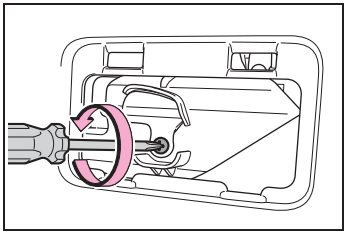
1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

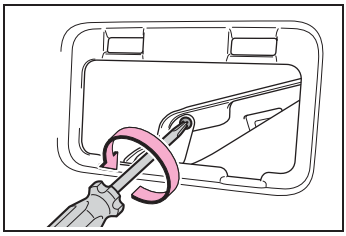


2 ネジをゆるめる

▶パワーバックドア装着車

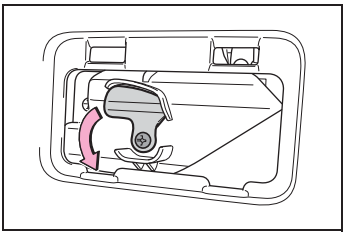


▶パワーバックドア非装着車

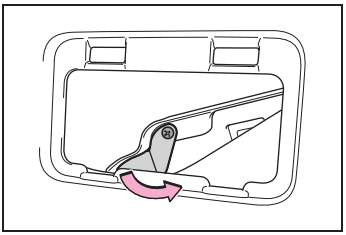


3 カバーをまわす

▶パワーバックドア装着車

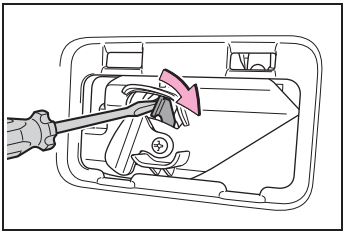


▶パワーバックドア非装着車

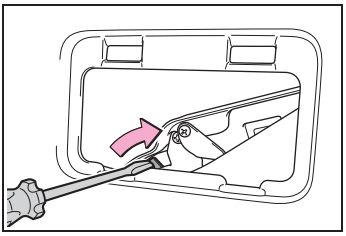


4 レバーを押す

▶パワーバックドア装着車



▶パワーバックドア非装着車



5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

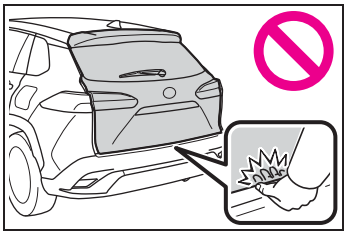
■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.316）

⚠警告

■バックドアイージークローザーについて

●パワーバックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



●バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動が OFF のときにも作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。

■パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、パワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中に作動可能条件（→P.83）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、傾斜した場所ではパワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにパワーバックドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、パワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき

・エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチを ON にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

●パワーバックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・腕・頭・首などを挟むおそれがあります。パワーバックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

■挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、パワーバックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ハンズフリーパワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

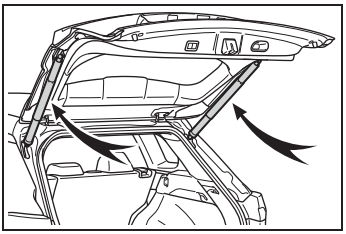
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 排気管は排気ガスにより高温になります。操作するときは排気管にふれないでください。
- リヤバンパーの下のスペースが狭い場合は、操作しないでください。

⚠ 注意

■スピンドルユニットについて

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニットが取り付けられています。スピンドルユニットの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない



- ロッド部を軍手などでふれない
- パワーバックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■バックドアイージークローザーの故障を防ぐために

- バックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアイージークローザーの故障の原因となります。
- パワーバックドアの開け閉めを短時間にくり返すとバックドアイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、いったんパワーバックドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

■パワーバックドアの故障を防ぐために

- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるパワーバックドアの貼り付きがないことを確認してください。パワーバックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワーバックドアの作動中は、パワーバックドアに無理に力をかけないでください。

⚠注意

●パワーバックドア左右端部のセンサー（→P.85）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

■クローズ&ロック機能について

クローズ&ロック機能でパワーバックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。

正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。

またパワーバックドアが完全に閉じ施錠されると、すべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

車から離れるときは、ドアロックアンサーバックを確認し、全ドアが施錠されたことを確認してください。

■ハンズフリーパワーバックドアについて

キックセンサーは、リヤバンパーの内側に設置されています。ハンズフリーパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●リヤバンパーは常にきれいにしておく

リヤバンパーに汚れや着雪などがある場合、ハンズフリーパワーバックドアが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落とした後、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

●リヤバンパーに親水性コーティングなどの液体を塗らない

●リヤバンパーに草木など動くものを近づけない

リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長期間続いたときは、ハンズフリーパワーバックドアが作動しなくなることがあります。その場合、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

●リヤバンパーへの強い衝撃を避ける

リヤバンパーが強い衝撃を受けると、ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のような場合にハンズフリーパワーバックドアが作動しないときは、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

・キックセンサーやキックセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・リヤバンパーに傷や破損がある

●リヤバンパーを分解しない

●リヤバンパーにステッカーを貼らない

●リヤバンパーを塗装しない

●パワーバックドアに自転車キャリアなどを取り付けた場合は、ハンズフリーパワーバックドア（キックセンサー）の作動を OFF にする

パワーバックドアの設定を変更するには （パワーバックドア装着車）

マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から、「車両設定」を表示することで、パワーバックドアの設定を変更することができます。(→P.316)

パワーバックドアの設定を変更した場合、エンジンスイッチを OFF にしても設定

内容はリセットされません。設定をもとにもどすには、再度、マルチインフォメーションディスプレイの設定画面での設定操作が必要です。

パワーバックドア自動開停止位置調整について （パワーバックドア装着車）

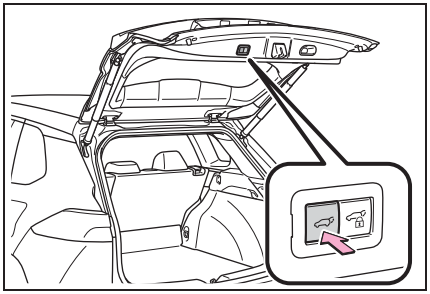
パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

1 パワーバックドアをお好みの位置で停止させる (→P.81)

2 パワーバックドア下部のスイッチを約 2 秒間押し続ける

・ 設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。

・ 次回パワーバックドアを開けると、その位置でパワーバックドアが停止します。

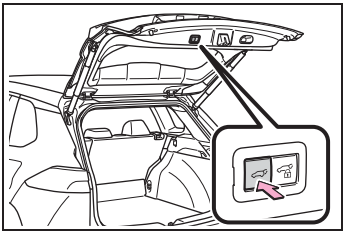


知識

■パワーバックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには

パワーバックドア下部のスイッチを約 7 秒間押し続ける。

ブザーが 2 回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までパワーバックドアが開きます。



■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイからもパワーバックドアの自動開停止位置の変更ができます。(→P.67)

スイッチまたはマルチインフォメーションディスプレイのうち、最後に設定した方の停止位置が優先されます。

スマートエントリー&スタートシステム

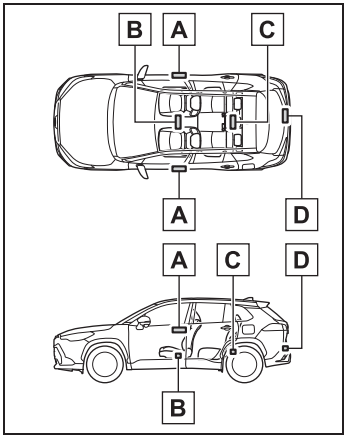
電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する★（→P.75）
- バックドアを施錠・解錠する★（→P.80）
- エンジンを始動する（→P.118）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■アンテナの位置



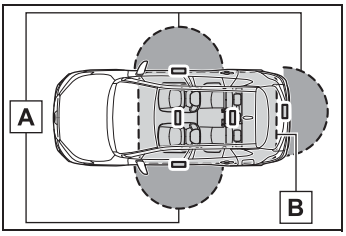
A 車外アンテナ（スマートエントリーシステム搭載車）

B 車室内アンテナ

C バックドア内アンテナ

D バックドア外アンテナ（スマートエントリーシステム搭載車）

■作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時（スマートエントリーシステム搭載車）

フロント席ドアハンドル／バックドアオープン・ロックスイッチから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアのみ作動します）

B エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。メッセージが表示された場合は、状況に応じて適切に対処してください。（→P.281）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

- 車外から警告音が“ピー”と5秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

●車内から警告音が “ポーン、ポーン”と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチを ACC にした（エンジンスイッチが ACC のとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチを OFF にした	運転席ドアを閉める

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
・車の外約 3.5m 以内に電子キーを 2 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

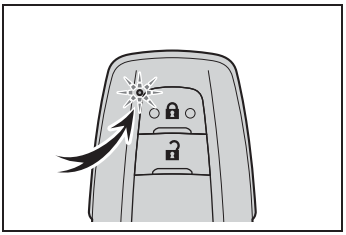
●14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの を押しながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケーターが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

●コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。

●ドアハンドルに電子キーを近づけて操作する

●ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。（→P.303）

また、スマートエントリー&スタートシステムでエンジンが始動できない場合は、P.304 を参照してください。

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
・スマートエントリーシステム装着車：ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・スマートエントリーシステム装着車：バックドアを開けるとき、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている場合
・エンジン始動時またはエンジンスイッチの切りかえ時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●スマートエントリーシステム装着車：インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●スマートエントリーシステム装着車：電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では、解錠できません。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。

●スマートエントリーシステム装着車：電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）

●スマートエントリーシステム装着車：車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します）

●スマートエントリーシステム装着車：手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で2回まで有効で、

3回目以降はロック動作しません。

●スマートエントリーシステム装着車：キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

・電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）

・電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.92）

●スマートエントリーシステム装着車：車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。

●スマートエントリーシステム装着車：ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●スマートエントリーシステム装着車：すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●スマートエントリーシステム装着車：作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。（→P.316）

●電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。（→P.92）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。）

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドアの施錠・解錠（スマートエントリーシステム装着車）：→P.303

●エンジンの始動：→P.304

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.316）

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの施錠・解錠（スマートエントリーシステム装着車）：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.75, 303）

●エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→P.304

●エンジンの停止：→P.119

⚠警告

■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー&スタートシステムアンテナ）

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.91）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

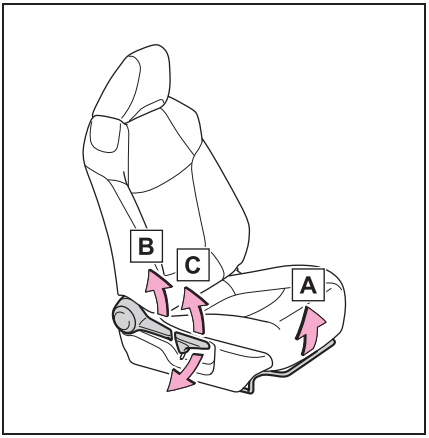
●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた

■ マニュアルシート装着車

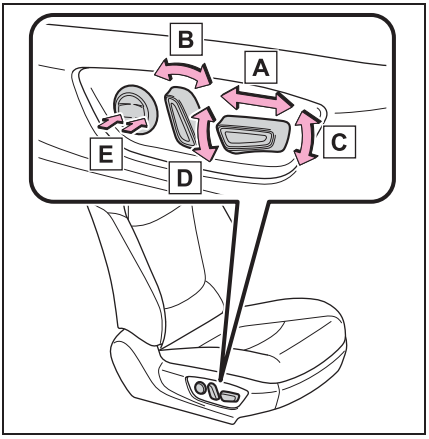


A 前後位置調整

B リクライニング調整

C クッション全体の上下調整（運転席のみ）

■ 運転席パワーシート装着車



A 前後位置調整

B リクライニング調整

C クッション前端の上下調整

D シート全体の上下調整

E 腰部位置調整

⚠ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■ シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

⚠ 注意

■ シートを調整するときは

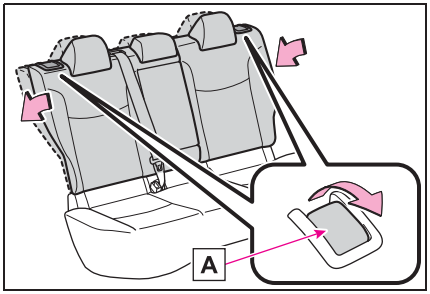
ヘッドレストが天井にあたらないように注意してください。ヘッドレストや天井が損傷するおそれがあります。

リヤシート

レバーの操作で、リクライニングの調整や背もたれを倒すことができます。

調整するには

リクライニング調整レバーAを引いて、背もたれを調整します。



⚠警告

■背もたれを操作するとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

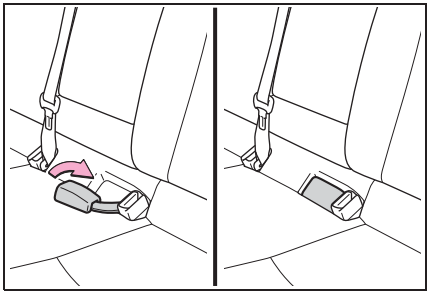
- 同乗者がシートにあたらないようにしてください。
- シートのあいだや動いている部分に手を近付けないようにしたり、体の一部が挟まれないようにしてください。
- シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。

背もたれを前に倒す

1 フロントシートを前方に移動する（→P.96）

2 リヤアームレスト★を格納する（→P.237）

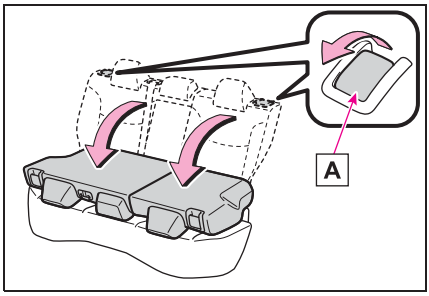
3 リヤ中央席シートベルトのバックルを格納する



4 ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→P.98）

5 リクライニング調整レバーAを引きながら、背もたれを前方に倒す

ロックが確実に解除されるまで、レバーを引いてください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■リヤシートを操作するときは

- 走行中にリヤシートを操作しない

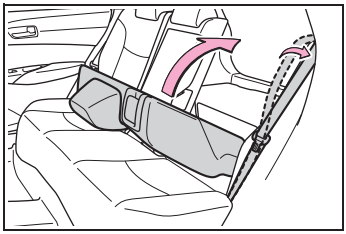
⚠ 警告

- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■背もたれをもとにもどしたあとは

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトを挟み込まないように背もたれをもとにもどしてください。

シートベルトが背もたれ固定フックに挟まり、シートベルトを損傷させるおそれがあります。



ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

⚠ 警告

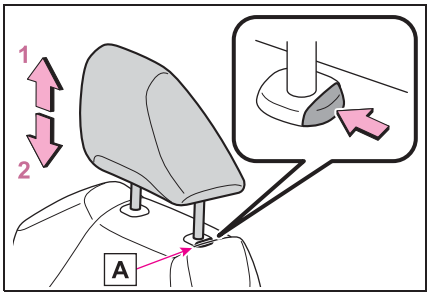
■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

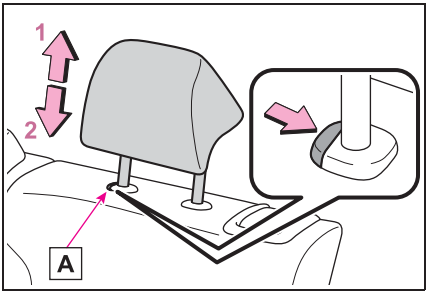
■ フロント席



1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作します。

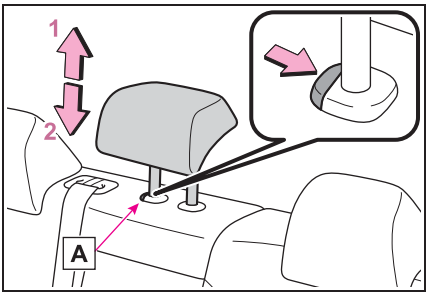
■ リヤ外側席



1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作します。

■ リヤ中央席



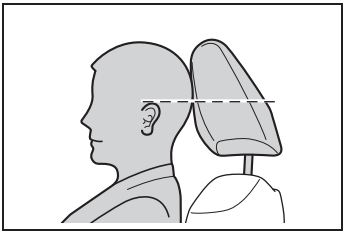
1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作します。

知識

■ヘッドレストの高さについて（フロント席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



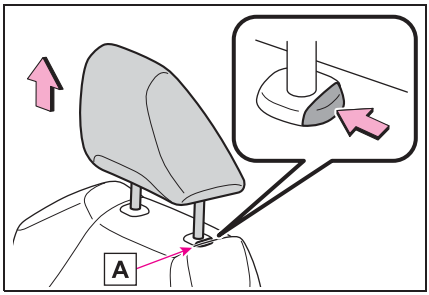
■リヤ席のヘッドレストについて

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

ヘッドレストを取りはずすには

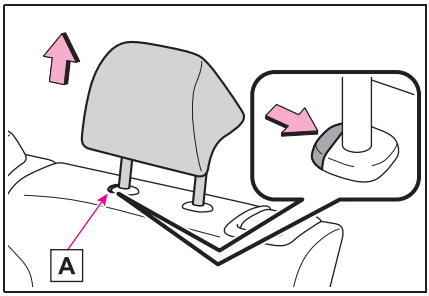
■ フロント席

解除ボタンAを押しながらヘッドレストを引き上げます。



■ リヤ外側席

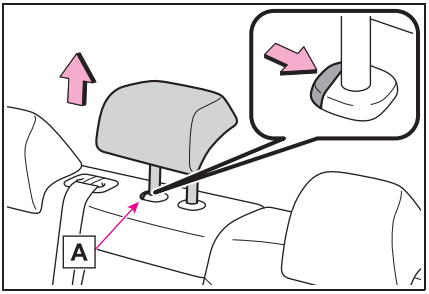
解除ボタンAを押しながらヘッドレストを引き上げます。



■ リヤ中央席

解除ボタンAを押しながらヘッド

レストを引き上げます。

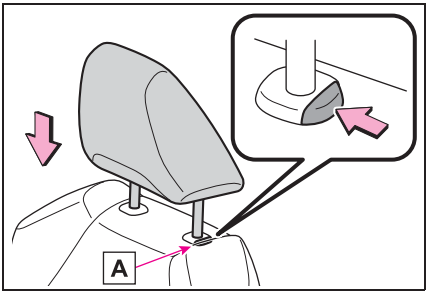


ヘッドレストを取り付けるには

■ フロント席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

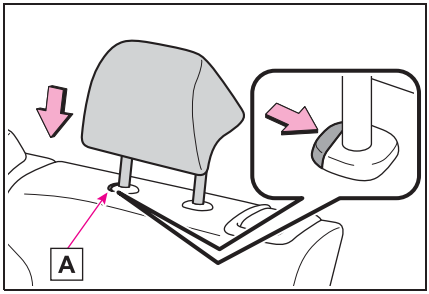
さらに下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作してください。



■ リヤ外側席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

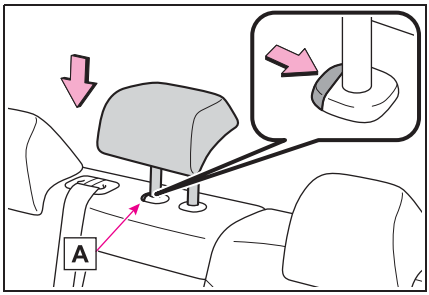
さらに下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作してください。



■ リヤ中央席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

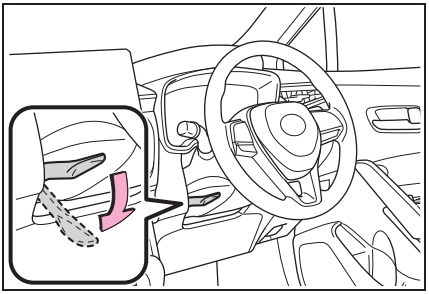
さらに下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作してください。



ハンドル

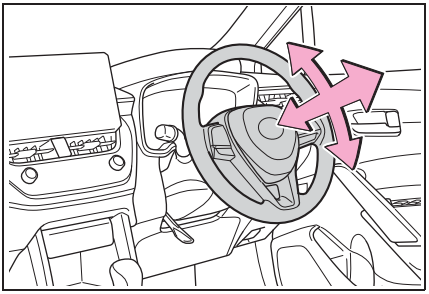
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



⚠ 警告

■走行中の警告

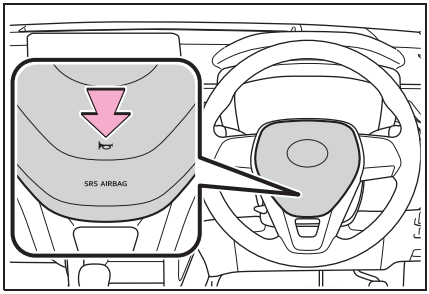
走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



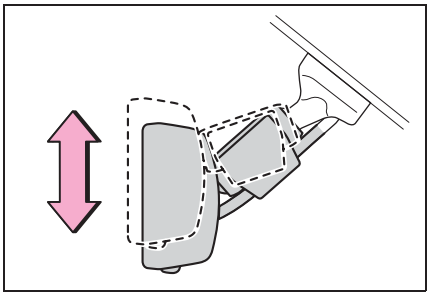
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



⚠ 警告

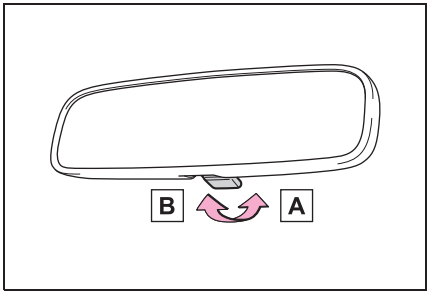
■走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

防眩機能

▶ 手動防眩タイプ装着車

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。



A 通常使用時

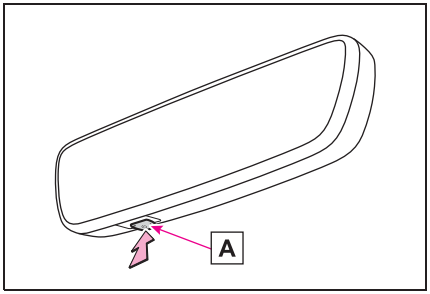
B 防眩時

▶ 自動防眩タイプ装着車

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ ON／OFF

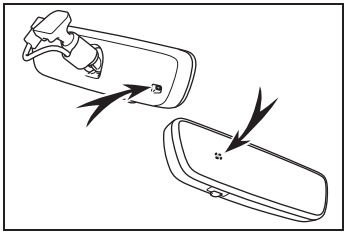
ON のときはインジケーターAが点灯します。エンジンスイッチを ON にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。ボタンを押すと OFF になりインジケーターAが消灯します。



知識

■センサーの誤作動防止（自動防眩タイプ装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

⚠ 警告

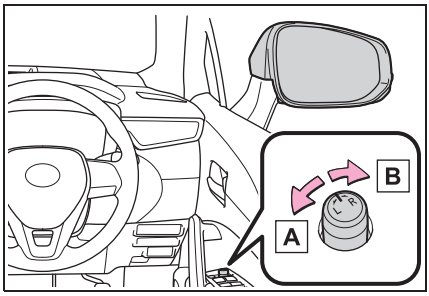
■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

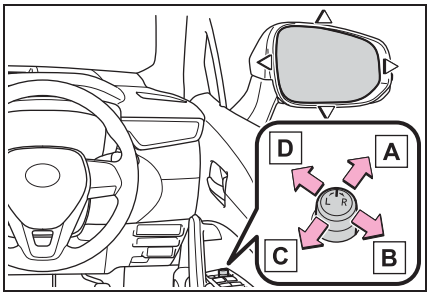
1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす



A 左

B 右

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する



A 右

B 下

C 左

D 上

知識

■鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

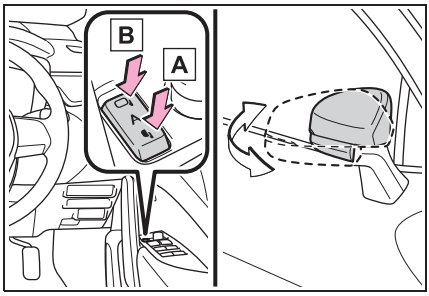
リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P.219）

警告

■ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

ドアミラーを格納・復帰するには



A ミラーを格納する

B ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置 “A” にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー&スタートシステム★やワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■寒冷時にオート作動で使用するとき

寒冷時にオート作動で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.316）

警告

■ミラーが動いているとき

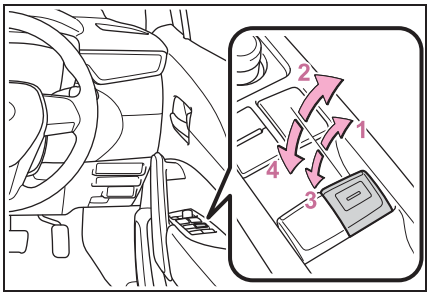
手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウインドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。



1 閉める
2 自動全閉 ※
3 開ける
4 自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジンスイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続ける。または、自動全開の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 エンジンスイッチを ON にする
2 パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で約 5 秒以上引き続ける
4 パワーウインドウスイッチを自動全開の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 1 秒以上押し続ける
5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを自動全開の位置で約 4 秒以上押し続ける
6 再度、パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→P.303）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→P.75）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■窓開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.316）

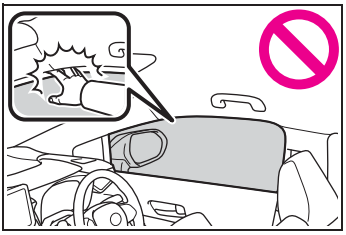
⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.107）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

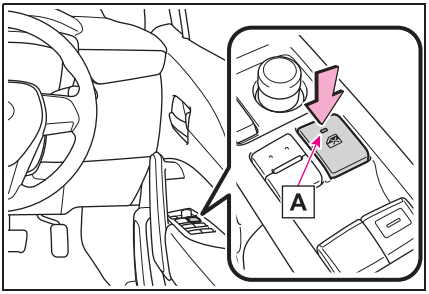
⚠警告

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーターAが点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。



知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 110
荷物を積むときの注意..... 116
4-2. 運転のしかた
エンジン（イグニッション）スイッチ..... 118
オートマチックトランスミッション 122
方向指示レバー 125
パーキングブレーキ..... 126
ブレーキホールド 129
4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ 131
オートマチックハイビーム..... 134
フォグランプスイッチ..... 137
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 138
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ） 140
4-4. 給油のしかた
給油口の開け方 141
4-5. 運転支援装置について
Toyota Safety Sense 143
PCS（プリクラッシュセーフティ） 148
LTA（レーントレーシングアシスト）..... 155
RSA（ロードサインアシスト） 164
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 167
先行車発進告知機能..... 175
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 177
クリアランスソナー 182
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 188
PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 193
パーキングサポートブレーキ（静止物）..... 199
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 202
ドライブモードセレクトスイッチ 203
運転を補助する装置 204
プラスサポート（販売店装着オプション）..... 208
4-6. 運転のアドバイス
寒冷時の運転..... 212

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

安全に走行するには

■ エンジンをかける

→P.118

■ 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P.122）

2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキを解除する（→P.126）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。（→P.122）

■ 駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→P.126）、シフトレバーを P にする（→P.122）

パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

3 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する

4 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※ を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行し

ていると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

●パワーモード選択時に、ブレーキペダルを踏んだとき

■エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

●暑い日に長い上り坂を走行する

●高速走行直後に急減速や急停止をする

⚠警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路わきに停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.268 を参照してください。

⚠警告

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードをおとしてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。
(→P.122)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーを N にすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがＰまたはＮ以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火したりする

・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす

・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートしたりする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしたりすると、荷物を押し込んだりシートを動かしたりしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰに入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをＰにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付かないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したとき

駆動輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

⚠注意

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進したりするおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.283、294を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときや、泥や砂に埋もれてしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッションなどのオイルやフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、エンジン出力を抑制することがあります。

- Rに切りかえたとき※
- PまたはRから、Dなどの前進シフトポジションに切りかえたとき※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにエンジン出力を抑制※します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに“速度抑制

中” が表示されます。

※状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■ドライブスタートコントロールについて

●TRC の作動を停止（→P.205）すると、急発進の抑制制御も停止※します。急発進の抑制制御が作動してぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→P.205）

※後退速度の抑制制御は作動します。

●タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。

●後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。（→P.316）

・エンジンスイッチを ON にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。

・後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元

・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

・パッケージトレイ

・インストルメントパネル

・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

⚠警告

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

●ルーフレール装着車：ルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤや駆動系部品に負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ルーフレールを使用するときは★

ルーフレールをルーフラゲージキャリアとして使用するときは、２つ以上のトヨタ純正キャリアを装着してください。トヨタ純正品以外を装着される場合は、トヨタ純正品に相当するものを装着してください。

ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。

●車両の大きさ（全長、全幅）を超える荷物を積まないでください。

●走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。

●ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。高速走行、急加速、急旋回、急ブレーキなどは避けてください。車両を適切に操作することができなくなることで横転し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●長距離走行、荒れた路面での走行、高速走行をするときは、時おり車両を止めて、荷物が固定した位置にあることを確認してください。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンをかけるには

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.126）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、エンジンは始動しません。

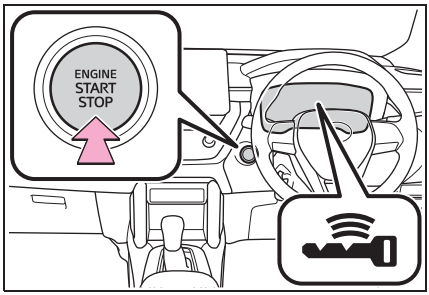
4 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



知識

■エンジンが始動しないとき

●エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.50）
トヨタ販売店へご連絡ください。

●始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムでエンジンを始動することができません。エンジンを始動するには、P.305 を参照してください。

■電子キーの電池の消耗について

→P.72

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.92

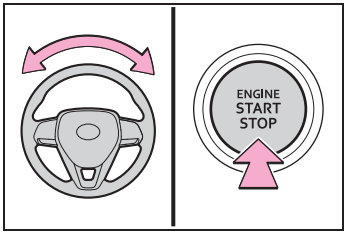
■ご留意いただきたいこと

→P.93

■ステアリングロック機能

●エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

●ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに “ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください” が表示されます。ハンドルを左右にまわしながらエンジンスイッチを短く確実に押してください。



●短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■電子キーの電池交換

→P.256

■エンジンスイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。

●エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、P.303 を参照してください。

⚠警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■エンジンを始動するとき

●エンジンが冷えた状態で空ぶかしをしないでください。

●もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

エンジンを停止するには

1 車両を完全に停止させる
2 パーキングブレーキをかけて（→P.126）、シフトレバーを P の位置にする

メーター内のパーキングブレーキ表示灯

が点灯していることを確認します。

3 エンジンスイッチを押す

エンジンが停止し、メーター表示が消えます。

4 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの “アクセサリー” や “イグニッション ON” の表示が消灯していることを確認する

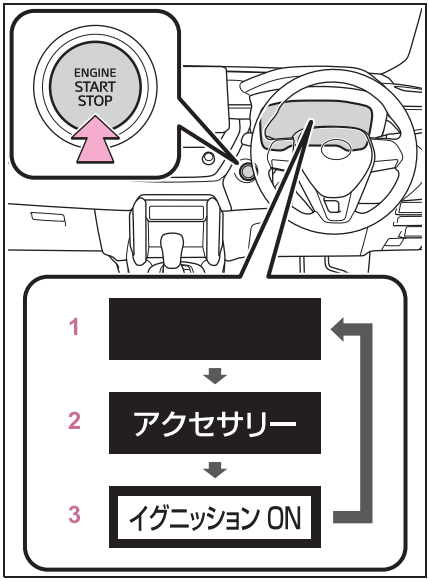
⚠ 警告

■緊急時のエンジン停止方法

- 走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→P.268) ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、シフトレバーを N にし、エンジンスイッチを押してください。

エンジンスイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



1 OFF※

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC

オーディオなどの電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに “アクセサリー” が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに “イグニッション ON” が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外のときは ACC になり、OFF になりません。

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上 ACC か 1 時間以上 ON（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC、または ON にしたまま長時間放置しないでください。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの “アクセサリー” または “イグニッション ON” の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF にはなりません。次の手順で OFF にしてください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. シフトレバーを P の位置にする
3. マルチインフォメーションディスプレイに “アクセサリー” が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを短く確実に押す
4. マルチインフォメーションディスプレイの “アクセサリー” または “イグニッション ON” の表示が消灯していることを確認する

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチが ACC となるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

オートマチックトランスミッション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
M	7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行（→P.124）

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常はDポジションを使用してください。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に走行モードをパワーモードにしても、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が解除されないためエンジンブレーキは効きません。（→P.203）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.115

■G AI-SHIFT について

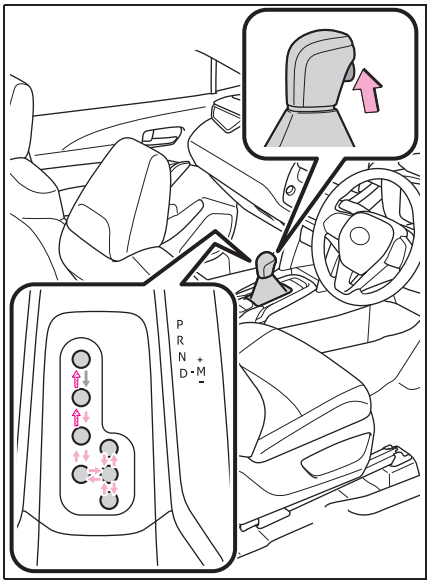
G AI-SHIFTは、運転者の運転操作と走行状況により、自動的にスポーツ走行に適切な変速比を選択します。
G AI-SHIFTは、シフトレバーをDポジションでパワーモードにしているとき自動的に作動します（ノーマルモードにするか、シフトレバーをMポジションにすると機能が解除されます）。

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

シフトレバーの動かし方



⬅：エンジンスイッチがONの状態で、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押しながら操作します。※

⇦：シフトレバーのボタンを押しながら操作します。

←：シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

※ シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを始めに押してもシフトロックは解除されません。

知識

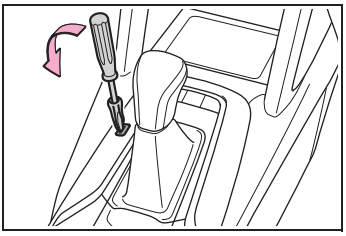
■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。エンジンスイッチが ON でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

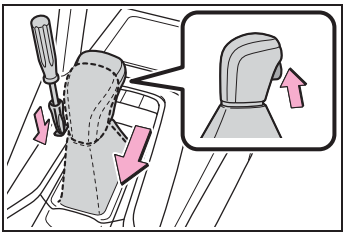
■シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。
シフトロックの解除のしかた：

1 パーキングブレーキをかける
2 エンジンスイッチを OFF にする
3 ブレーキペダルを踏む
4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



5 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す
ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



警告

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

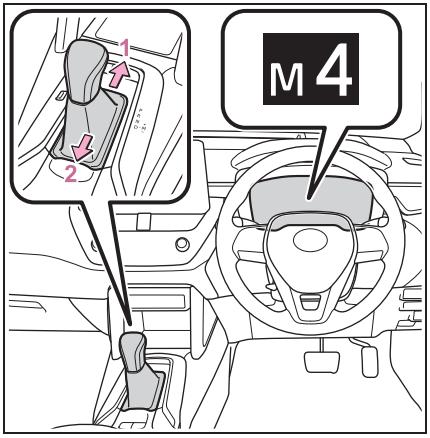
シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。
誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

走行モードの選択

→P.203

7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでの変速段切りかえ

シフトレバーを M ポジションにすると、7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードに切りかわります。シフトレバーの操作で思い通りの変速段を選択し、運転することができます。シフトレバーの “－” 側または “＋” 側の操作で変速段を選択することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 速ずつ変速します。
M1 から M7 の中で選択した変速段がメーターに表示されます。

M ポジションで走行しているときでも、エンジン回転数が上がりすぎそうなとき、または下がりすぎそうなときは、自動的に変速段が切りかわる場合があります。

知識

■変速段機能

- エンジンブレーキ力は、7 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

■M ポジションで走行中に停車したときは

- 停車すると自動的にM1 にシフトダウンされます。
- 停止後走行するときはM1 からの発進となります。
- 停車後は M1 に固定されます。

■シフトダウン制限警告ブザー（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

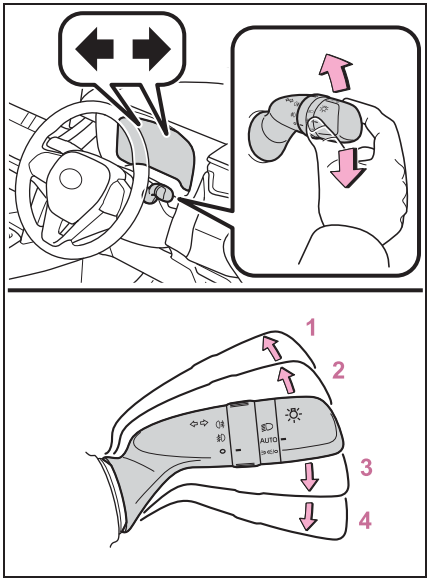
■シフトレバーを M にしても、M 表示灯が点灯しないときまたは点滅したときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



1 左折

2 左側へ車線変更
（レバーを途中まで動かして離す）

左側方向指示灯が 5 回点滅します。

3 右側へ車線変更
（レバーを途中まで動かして離す）

右側方向指示灯が 5 回点滅します。

4 右折

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

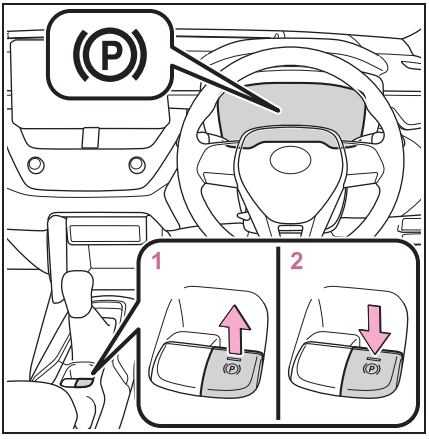
自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモードのときは、パーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

作動後、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

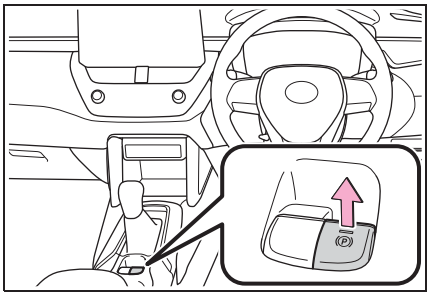
・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

解除後、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。

■ オートモードを ON にする

停車中に、“EPB シフト連動機能 ON” がマルチインフォメーションディスプレイに表示されるまでスイッチを引き続ける



オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

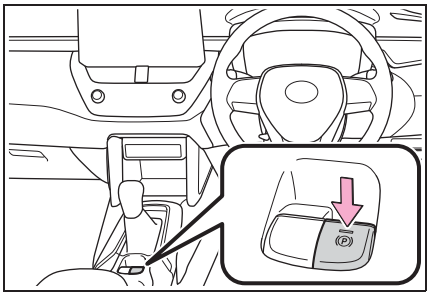
- シフトレバーをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。
- シフトレバーをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

急なシフトレバー操作を行うと、オートモードが作動しない場合があります。
その場合、手動でパーキングブレーキを操作してください。(→P.126)

■ オートモードを OFF にする

停車中に、“EPB シフト連動機能 OFF” がマルチインフォメーションディスプレイに表示されるまでスイッチを押し続ける



知識

■パーキングブレーキの作動

- エンジンスイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- エンジンスイッチが ON 以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

■パーキングブレーキ自動解除機能について

アクセルペダルをゆっくりと踏むとパーキングブレーキが自動で解除されます。
次の条件をすべて満たすと自動解除機能が作動します。

- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- シフトレバーが前進もしくは後退の位置にある
- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合は、手動で解除してください。

■パーキングブレーキ自動作動機能について

次の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

- ブレーキを踏んでいない
- 運転席ドアが開いている
- 運転席のシートベルトを装着していない
- シフトレバーがPもしくはN以外の位置にある
- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB が連続で操作されましたしばらくお待ちください” と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システム過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB 動作が途中で停止しました” または “EPB 現在使用できません” と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても表示が消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON 以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

●パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。

■パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■駐車するとき

→P.110

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “EPB がロックされています ” と表示されます。

■ブレーキ警告灯が点灯したとき

→P.275

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.212

⚠警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

⚠注意

■駐車するとき

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にし、車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■故障などでパーキングブレーキが解除できないとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

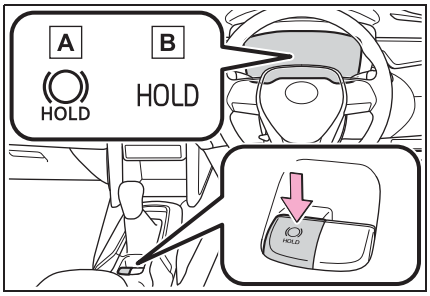
ブレーキホールド

シフトレバーが D・M または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーが D または M のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）A が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）B が点灯します。



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON にできません。

●運転席ドアが閉まっていない

●運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

●運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

●ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→P.126）

■トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドス

タンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに”BrakeHold 故障” が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.275

⚠警告

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

⚠注意

■駐車するとき

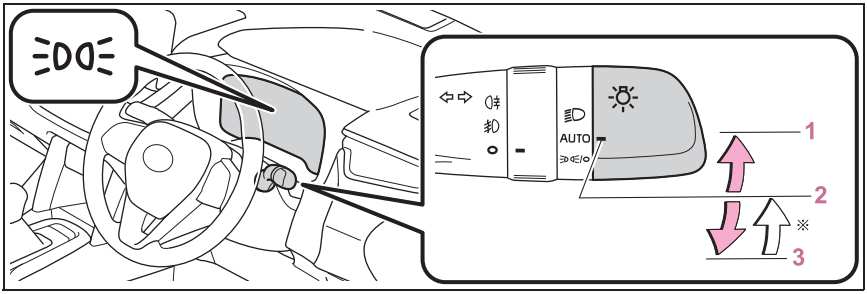
ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように ☼ スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを 3 ≡D⊂/○ の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2 AUTO の位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1 ≡D	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2 AUTO※1	デイタイムランニングランプ装着車：デイタイムランニングランプ（→P.132）が点灯 デイタイムランニングランプ非装着車：ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3 ≡D⊂/○※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯※2

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

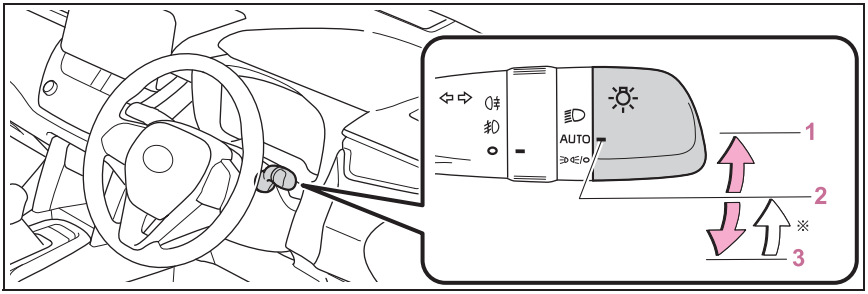
※1 操作するたびに、2 AUTO による点灯状態と 3 ≡D⊂/○ による点灯状態が切りかわります。

※2 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると 2 AUTO による点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

スイッチを 3 の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に 1 か 3 の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2 AUTO の位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3	ヘッドランプ・スモールランプ・デイタイムランニングランプ★（→P.132）が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

■AUTO モードの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■デイタイムランニングランプ★

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチをAUTOにすると、デイタイムランニングランプが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します。）
デイタイムランニングランプは夜間の使用を意図したものではありません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

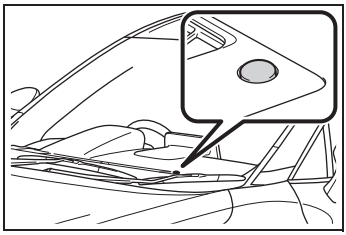
■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機

能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチを ACC または OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを ON にするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから ≡D○/○ または ≡D○ の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能 ※

日中での走行時、ランプスイッチが AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが ACC または OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

●エンジンスイッチを ON にしたとき

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアまたはバックドアを開閉したとき

■カスタマイズ機能

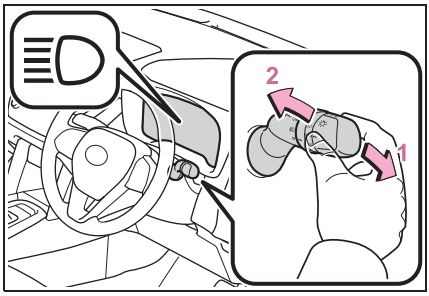
機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.316)

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

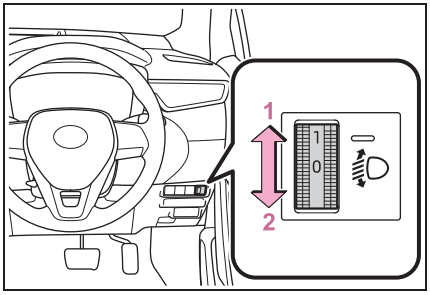
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。



1 上向きに調整
2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0.5
全乗員	なし	1.5
全乗員	ラゲージルーム満載時	2
運転者	ラゲージルーム満載時	3.5

オートマチックハイビーム

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

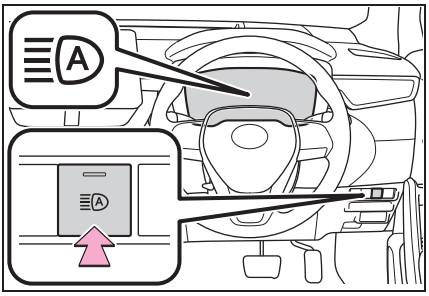
オートマチックハイビームを使うには

1 ランプスイッチを または AUTO の位置にする

2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯

します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいない
・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両がランプを点灯している
・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■カメラセンサーの検知について

●次のような状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
・前方カメラが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき

・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

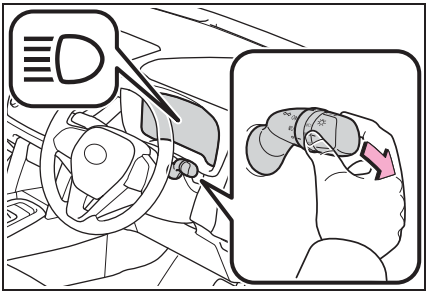
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

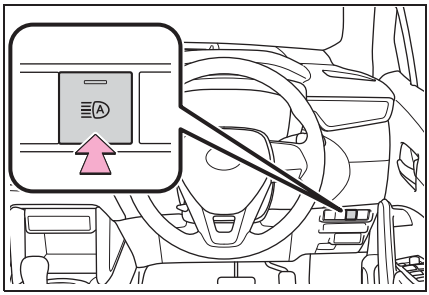


■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

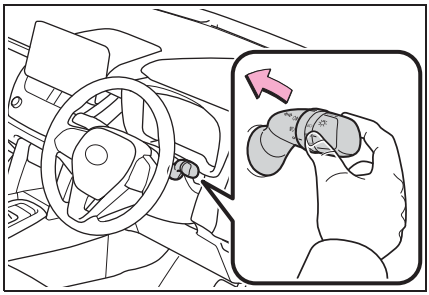
オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。



■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



知識

■一時的なロービームへの切りかえについて

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

フォグランプスイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

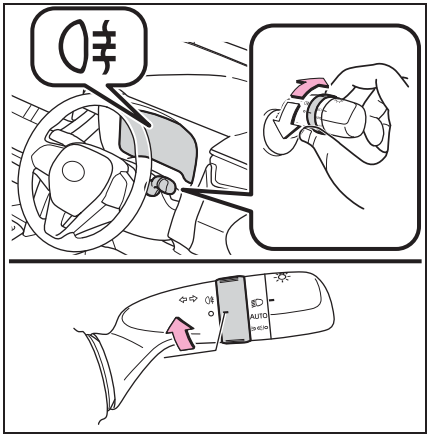
雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた

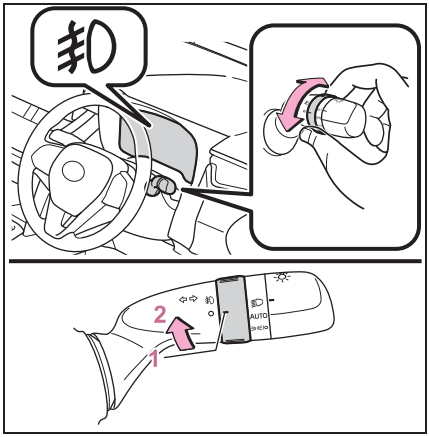
▶ リヤフォグランプ装着車

リヤフォグランプを点灯する

操作後に手を離すと O の位置までもどります。再度操作すると消灯します。



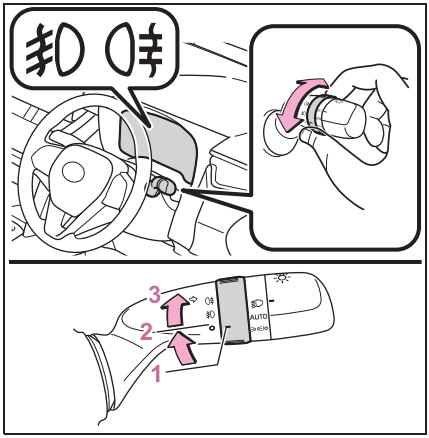
▶ フロントフォグランプ装着車



1 O 消灯する

2 点灯する

▶ フロント&リヤフォグランプ装着車



1 O 消灯する

2 フロントフォグランプを点灯する

3 フロント&リヤフォグランプを点灯する

3 の操作後に手を離すと の位置までもどります。

再度 3 の操作をするとリヤフォグランプのみ消灯します。

知識

■点灯条件

▶フロントフォグランプ装着車

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

▶リヤフォグランプ装着車

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

▶フロント&リヤフォグランプ装着車

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：フロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグランプについて

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー&ウォッシャー（フロント）

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

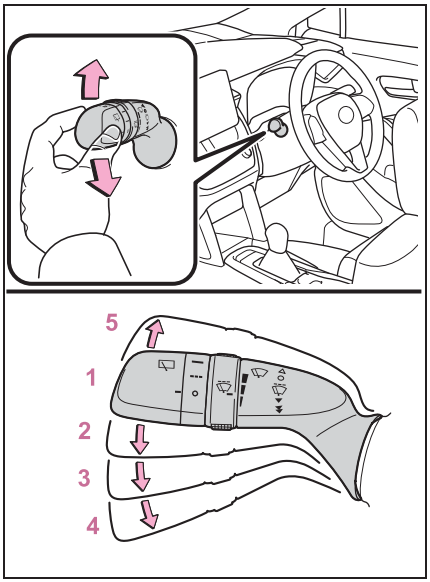
注意

■フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。



1 停止

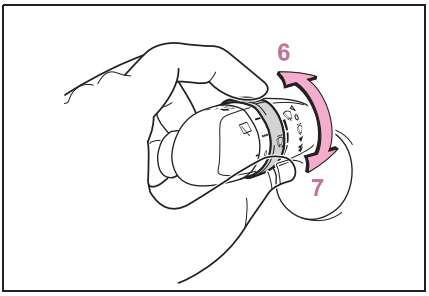
2 間欠作動（INT）

3 ▼ 低速作動（LO）

4 ▼▼ 高速作動（HI）

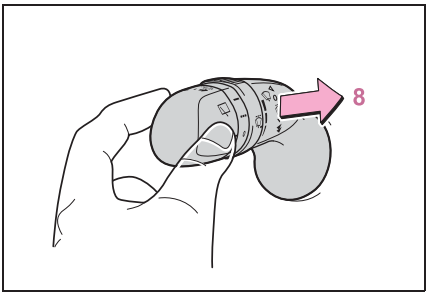
5 △ 一時作動（MIST）

間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。（間欠時間調節式ワイパー装着車）



6 間欠ワイパーの作動頻度（増）

7 間欠ワイパーの作動頻度（減）



8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■走行中にエンジンを緊急停止したときは

エンジンを停止したときにワイパーが作動していた場合は、高速作動でワイパーの作動が継続します。車両停止後にエンジンスイッチを ON にすると通常作動を再開し、運転席ドアを開けるとワイパーの作動を停止します。

⚠警告

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

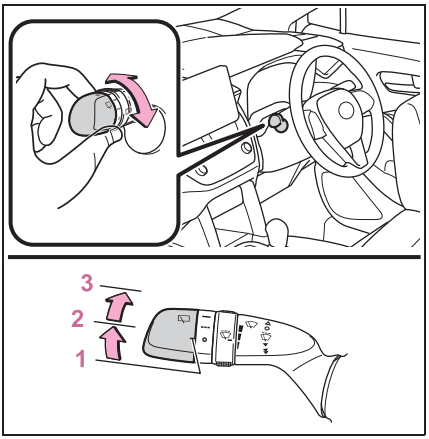
⚠ 注意

■リヤウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

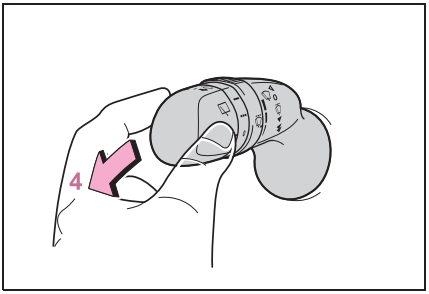
次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーまたはウォッシャーが作動します。



1 O 停止

2 ▪▪▪ 間欠作動（LO）

3 ▬ 通常作動（HI）



4 ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■バックドア開連動リヤワイパー停止機能

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。

⚠ 注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類について

- 無鉛レギュラーガソリン
- バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

⚠警告

■給油するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。
  除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。
  また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
  すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠注意

■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

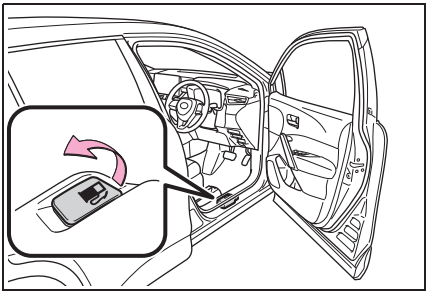
- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

⚠ 注意

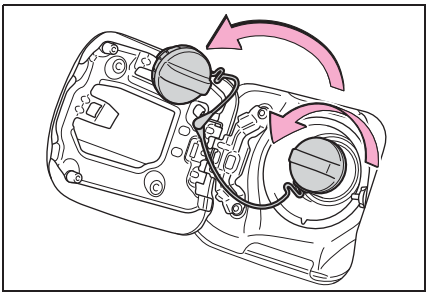
※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

給油口を開けるには

1 オープナーを上げて、給油扉を開ける



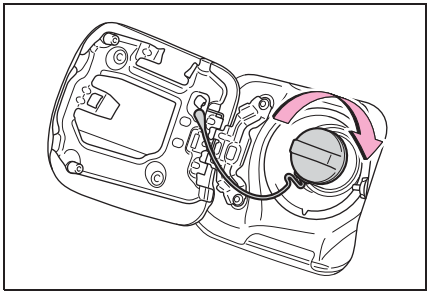
2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



給油口の閉め方

キャップを “カチッ” と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠ 警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→P.148

■ LTA（レーントレーシングアシスト）

→P.155

■ AHB（オートマチックハイビーム）

→P.134

■ RSA（ロードサインアシスト）

→P.164

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

→P.167

■ 先行車発進告知機能

→P.175

⚠ 警告

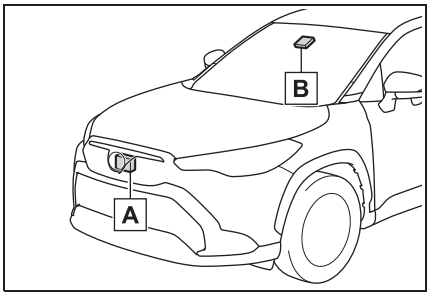
■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。



A レーダー

B 前方カメラ

⚠ 警告

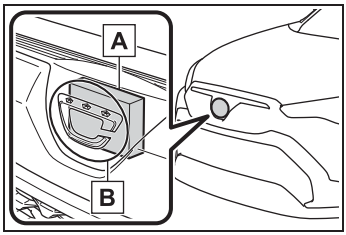
■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく



A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への強い衝撃を避ける

レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

・ レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき

・ フロントバンパーを交換したとき

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

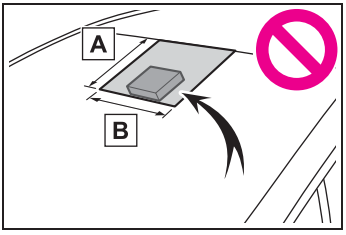
●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで

B 約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）

⚠警告

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.219）

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する

フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●前方カメラに液体をかけない

●前方カメラに強い光を照射しない

●前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない

フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。

レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●前方カメラに強い衝撃を加えない

●前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない

●前方カメラを分解しない

●インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない

●ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない

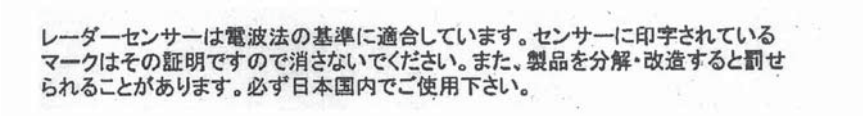
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする

●ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■レーダーの取り扱い



■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンなどを使って、汚れや付着物を取り除く （フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.219）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
“プリクラッシュセーフティ 現在使用できません” が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ 炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
・ 暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
・ 車両周辺の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき
その場合には “ プリクラッシュセーフティ 現在使用できません ” が表示されます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.148）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON/OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.150）

システムの作動対象

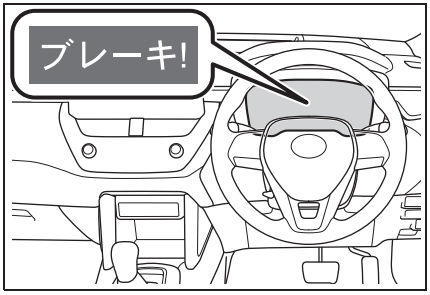
システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
  プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P.152

・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P.153

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。
対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●けん引されるとき

●けん引するとき

●トラック・船舶・列車などに積載するとき

●車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき

●点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき

●事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●オフロード走行やスポーツ走行をするとき

●タイヤの空気圧が適正でないとき

●著しく摩耗したタイヤを装着しているとき

⚠ 警告

- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.316）から、プリクラッシュセーフティの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

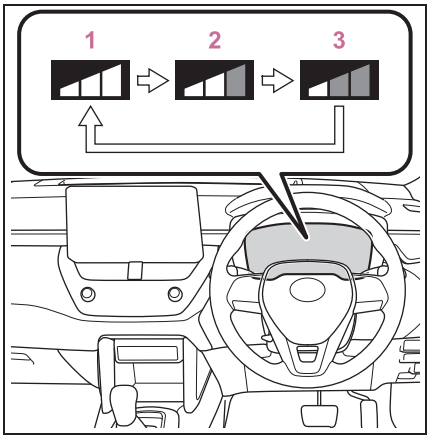
エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.316）から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはエンジンスイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。



1 早い
2 中間
初期設定
3 遅い

知識

■システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。
各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

ただし、次のときシステムは作動しません。

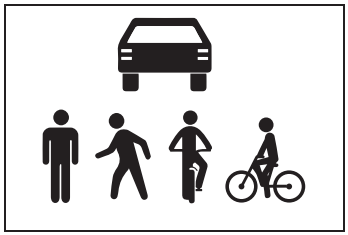
●バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトレバーが R のとき

●VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→P.153）
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

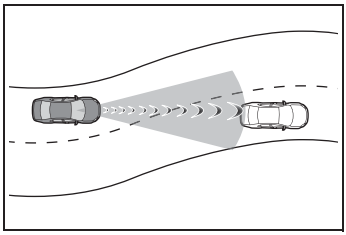
●アクセルペダルを強く踏み込む

●ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

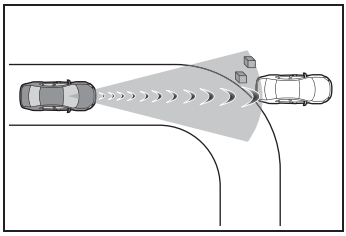
■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

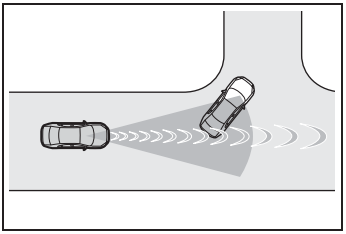
・作動対象などのすぐそばを通過するとき
・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



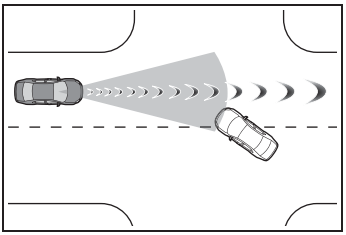
・作動対象などに急接近したとき
・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



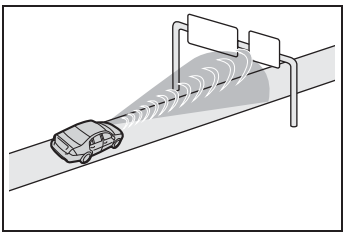
・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



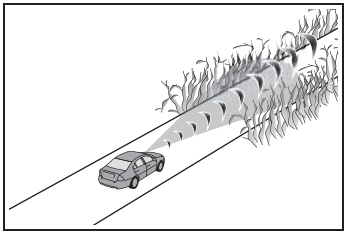
・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
・自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



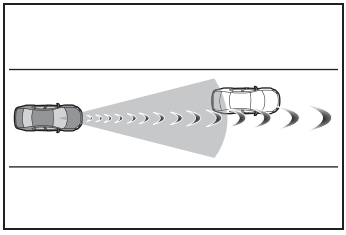
・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・洗車機を使用するとき
・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



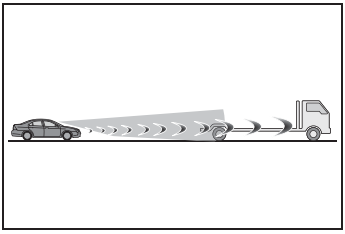
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

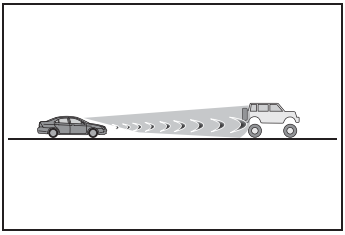
●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が自車の中心軸からずれているとき



・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
・前方車両がオートバイのとき
・前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
・前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

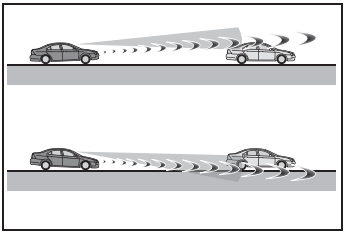


・前方車両の最低地上高が極端に高いとき



・前方車両の荷台から荷物がはみ出して

いるとき
・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・自車が横すべりしているとき
・車両姿勢が変化しているとき



・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき

●例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止（→P.205）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

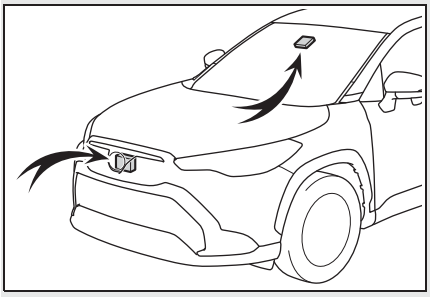
●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します” が表示されます。

LTA（レーントレーシングアシスト）

白（黄）線が整備された道路を走行中、車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.167）の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します

白（黄）線または走路※を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



⚠警告

■LTA をお使いになる前に

- LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 雪道を走行しているとき
- 水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- 車両けん引時

⚠警告

■LTA の故障、または誤作動を防ぐために

●ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。

●サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

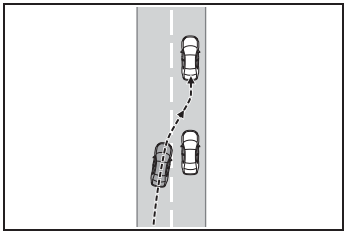
●ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

●フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

●先行車追従表示中（→P.160）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



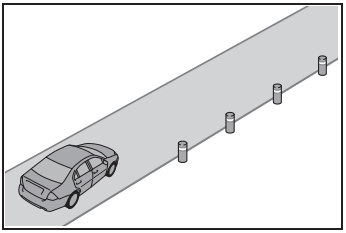
●先行車追従表示中（→P.160）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

●先行車追従表示中（→P.160）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）

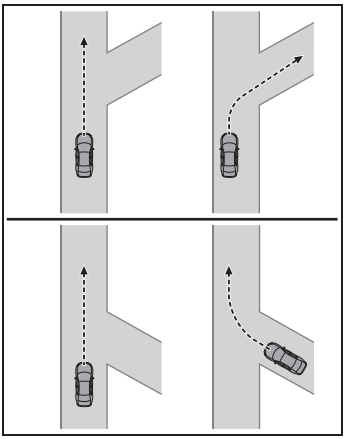
●先行車追従表示中（→P.160）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

●急カーブを走行しているとき

●路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）

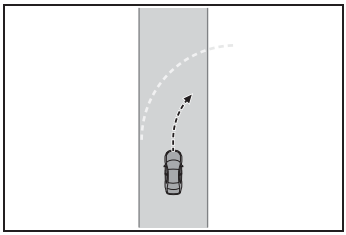


●分岐・合流路などを走行するとき



⚠警告

●道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



●白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき

●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき

●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき

●コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき

●アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき

●照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき

●トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき

●対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき

●坂道を走行しているとき

●左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき

●舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき

●車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき

●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき

●先行車との車間距離が極端に短くなったとき

●走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき

●夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき

●横風を受けているとき

●周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき

●車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

●構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき

●メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき

●冬用タイヤなどを装着しているとき

●過度な高速走行をしているとき

LTA に含まれる機能

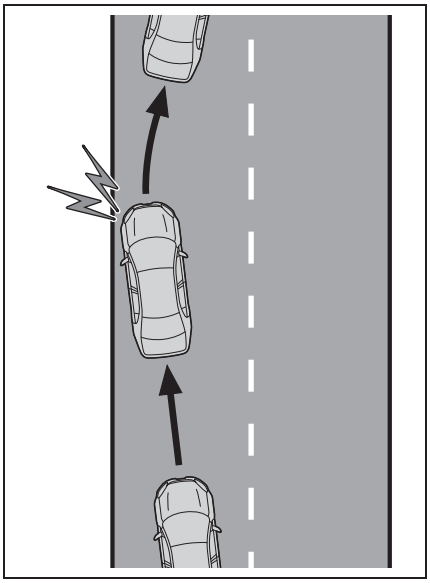
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路※内の中央付近にもどってください。

BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱警報機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



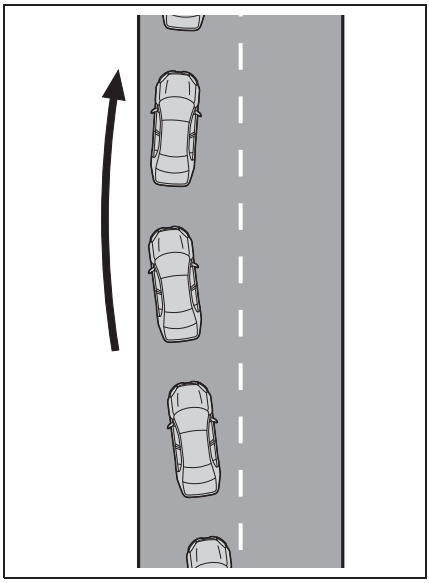
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

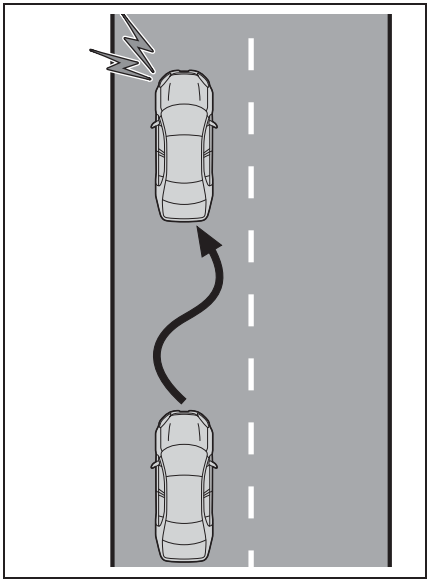
BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱抑制機能が作動します。

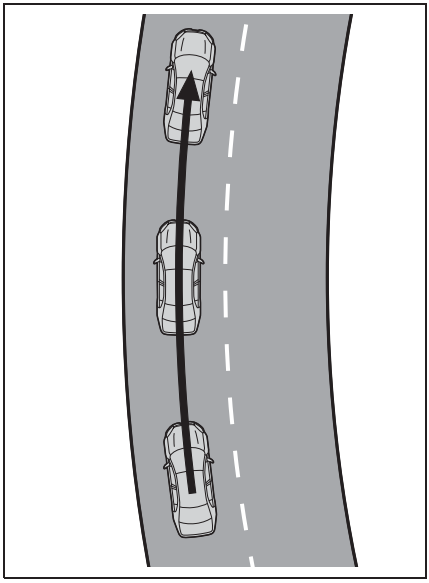
※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。





■ **車線維持支援機能**

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。

一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

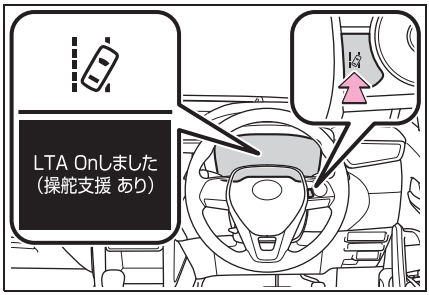
設定のしかた

LTA を ON にするには LTA スイッチを押す

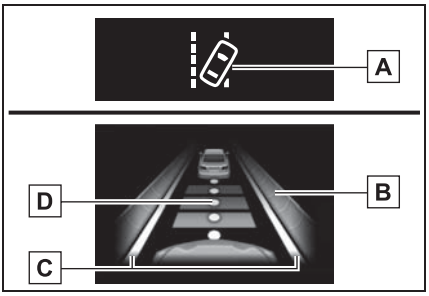
LTA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LTA を ON ／ OFF すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



マルチインフォメーションディスプレイ表示



A LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

B ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

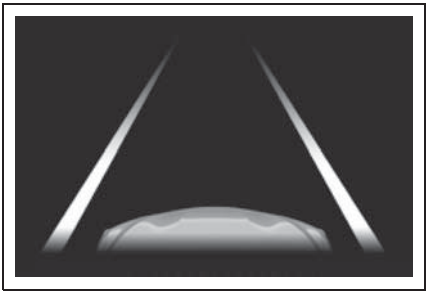
片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起が作動中

C 車線逸脱警報機能表示

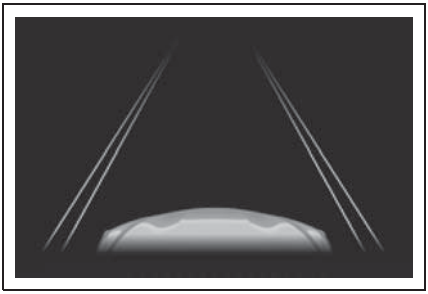
マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

D 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自

らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき
・車速が 50km/h 以上のとき※1
・システムが白（黄）線または走路※2を認識しているとき（白［黄］線または走路※2が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・方向指示レバーを操作していないとき（BSM 装着車：方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→P.163）

※1車線維持支援機能作動中は約 50km/h 以下でも作動します

※2アスファルトと草・土・縁石等の境界

●車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・マルチインフォメーションディスプレイの⚙で“操舵支援”を“有”に設定しているとき（→P.316）
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→P.162）が行われていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・マルチインフォメーションディスプレイの⚙で“ふらつき検知”を“有”に設定しているとき（→P.316）
・車速が約 50km/h 以上のとき
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・システムの異常が検知されていないとき（→P.163）

●車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき
・マルチインフォメーションディスプレイの⚙で“操舵支援”を“ON”かつ“センタートレース”を“ON”に設定しているとき（→P.316）
・システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき
・車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→P.163）
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→P.162）が行われていないとき

・車線中央付近を走行しているとき
・車線逸脱抑制機能が作動していないとき

■機能の一時解除

●作動条件（→P.161）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●車線維持支援機能作動中に、作動条件（→P.161）が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

●車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。

●これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

●車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

■車線逸脱警報機能について

●外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。

●BSM 装着車：となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

●車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※アスファルトと草・土・縁石等の境界

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●システムの作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

●車線維持支援機能作動中にカーブを曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

●車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

■ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

● “LTA 故障 販売店で点検してください”

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

● “LTA 現在利用できません”

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

● “LTA 現在の車速では使用できません”

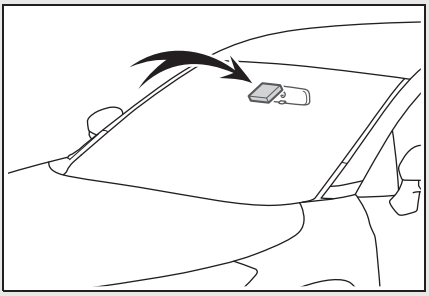
車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。
（カスタマイズ一覧：→P.316）

RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラまたはナビゲーションシステム★（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音で運転者に告知します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠警告

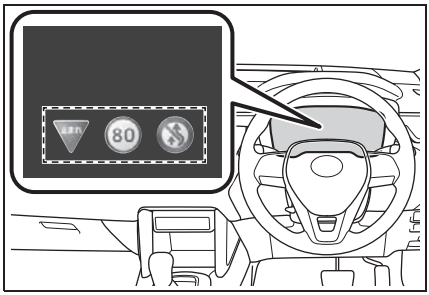
■RSA をお使いになる前に

RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

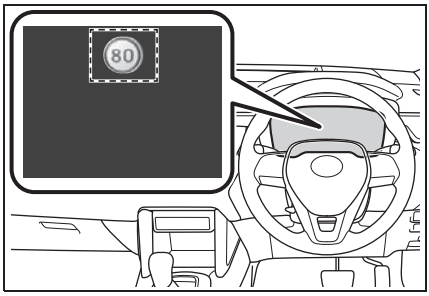
● 運転支援機能情報を選択したときは、最大３つの標識を表示できます。（→P.62）



● 運転支援機能情報以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。（→P.62）

・最高速度標識

・車両進入禁止標識（告知時のみ）



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道

路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。

最高速度

車両進入禁止

一時停止

はみ出し通行禁止

終わり ※

※ マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

■設定のしかた

1 メーター操作スイッチの ❮ または ❯ を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ❮ または ❯ を押して を選択し、OK を押す

■RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- ●前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ●汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- ●悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- ●強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- ●標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- ●電光標識のコントラストが低いとき
- ●標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- ●前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- ●運転の状況（曲がる、車線変更等）が誤って判断されたとき
- ●標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- ●先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- ●システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- ●側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ●ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- ●重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- ●十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- ●トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- ●ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- ●ナビゲーションシステムを利用できないとき
- ●マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、エンジンスイッチを OFF にすると、次回エンジンスイッチを ON にしたときには再度同じ標識が表示されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「RSA 故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.316）

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

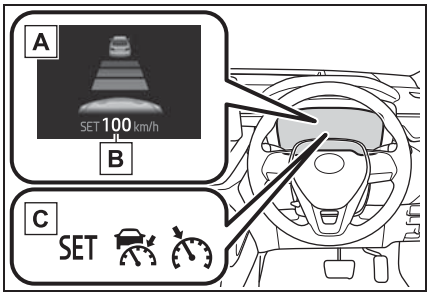
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→P.169）
- 定速制御モード（→P.172）

システムの構成部品

■ メーター表示

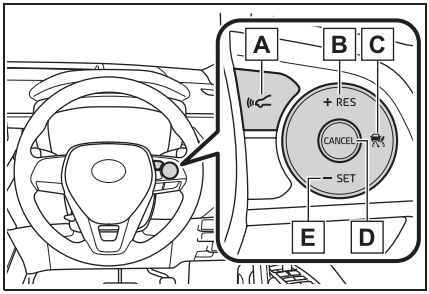


A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

C 表示灯

■ 操作スイッチ



A 車間距離切りかえスイッチ

B “+RES” スイッチ

C クルーズコントロールメインスイッチ

D キャンセルスイッチ

E “-SET” スイッチ

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
  次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
  - センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P.174
  - 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P.174

⚠警告

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときはクルーズコントロールメインスイッチでシステムを OFF にしてください。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●歩行者や自転車等が混在している道

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

●高速道路や自動車専用道路の出入り口

●センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

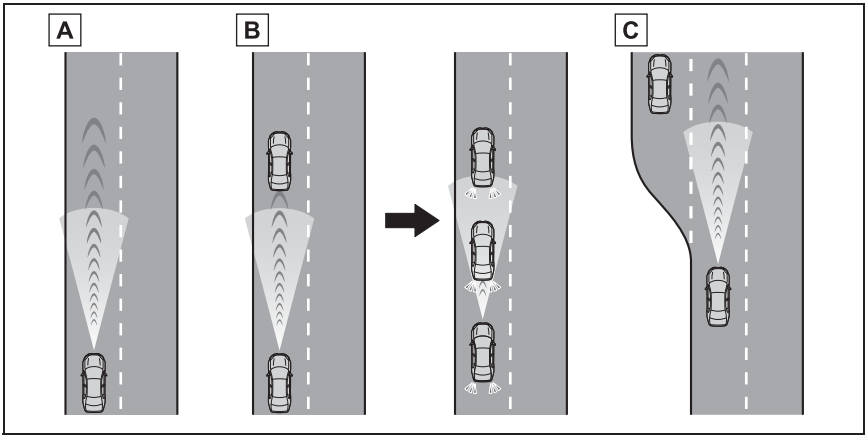
⚠警告

- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



A 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

B 減速走行 — 追従走行：
設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“+RES” スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

C 加速走行：
　設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

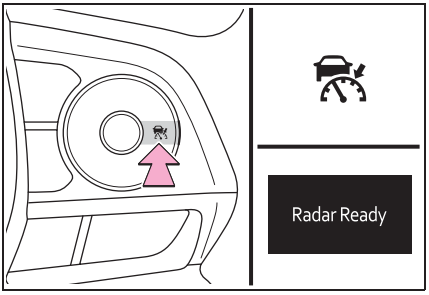
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

1 クルーズコントロールメインスイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。OFF にするには再度スイッチを押します。

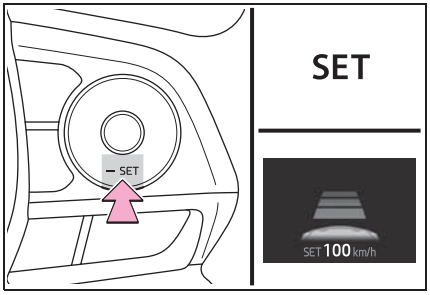
クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→P.172）



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

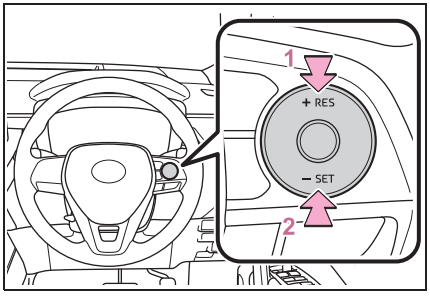
クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “+RES” スイッチまたは “-SET” スイッチを押します。



1 速度を上げる（車間制御モードの制御停車中は除く）

2 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを押し続けて速度を

かえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

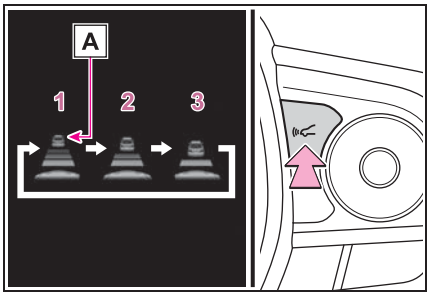
定速制御モード（→P.172）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



1 長い
2 中間
3 短い

先行車がいる場合、先行車マークAも表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。

（車速 80km/h で走行している場合）

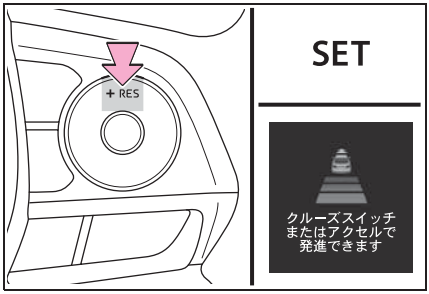
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

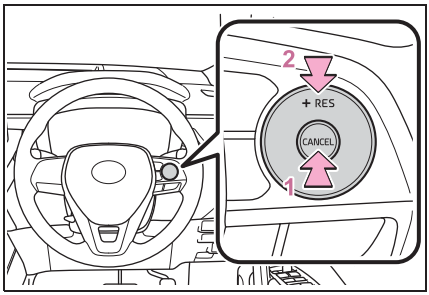
制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、“+RES” スイッチを押す

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。



制御を解除する・復帰させる



1 制御を解除するには、キャンセ

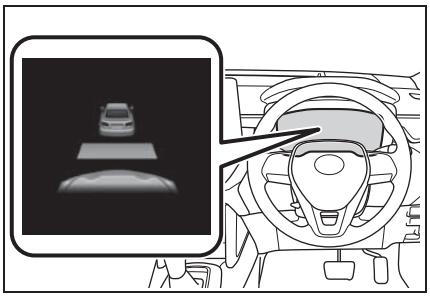
ルスイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

2 制御を復帰させるには、“+RES” スイッチを押す

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

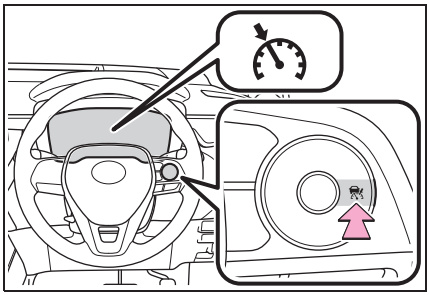
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。
レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

1 クルーズコントロールが OFF の状態で、クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続ける

クルーズコントロールメインスイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

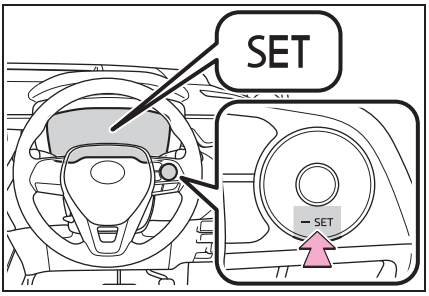
クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる（→P.170）

制御を解除する・復帰させる

(→P.171)



知識

■設定条件について

●シフトレバーが D のとき設定できます。

●車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。

(ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30km/h に設定されます)

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中に “+RES” スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき
・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき

●車速が約 30km/h 未満になったとき

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

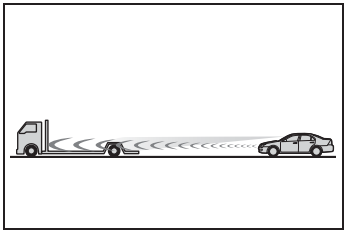
走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。(→P.146, 281)

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

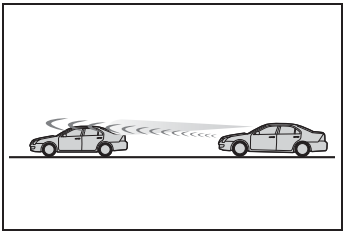
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.172）も作動しないおそれがあります。

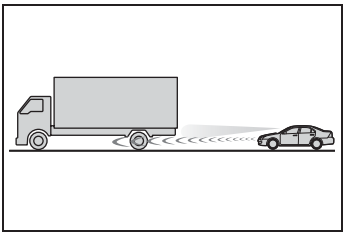
- ●先行車が急に割り込んできたとき
- ●先行車が低速で走行中のとき
- ●同じ車線に停車中の車がいるとき
- ●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



- ●同じ車線を二輪車が走行中のとき
- ●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合
- ●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



- ●先行車の車高が極端に高いとき

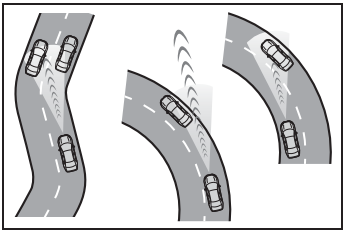


■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

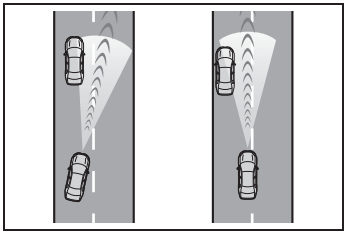
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ●カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



●先行車が急ブレーキをかけた場合

●道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合

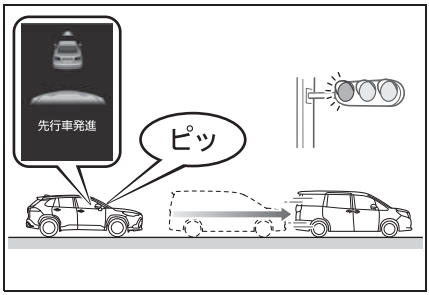
●アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

●シフトレバーがP・R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーがNで停止しているとき

●ブレーキホールドが作動中のとき

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制御停車中のとき

■先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラ

とレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

●自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき

●先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき

●坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき

●先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき

●先行車がオートバイ・自転車などのとき

●先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき

●悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき

●前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき

●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき

●プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS 警告灯が点滅または点灯しているとき

●右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

●悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき

●坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■先行車発進告知機能の設定を変更するには

●先行車発進告知機能の ON ／ OFF

システムの ON ／ OFF を切りかえることができます。

1 メーター操作スイッチの ❮ または ❯ を押して ⚙ を選択する

2 ∧ または ∨ を押して “車両設定” を選択し、OK を長押しする

3 ∧ または ∨ を押して “先行車発進告知” を選択し、OK を押す

4 ∧ または ∨ を押して “先行車発進告知” を選択し、OK を押す

●先行車発進告知機能の告知距離

告知する距離を切りかえることができます。

1 メーター操作スイッチの ❮ または ❯ を押して ⚙ を選択する

2 ∧または∨を押して“車両設定”を選択し、OKを長押しする

3 ∧または∨を押して“先行車発進告知”を選択し、OKを押す

4 ∧または∨を押して“告知距離”を選択し、OKを押す

BSM（ブラインドスポットモニター）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

⚠警告

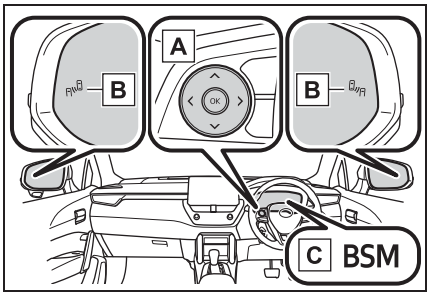
■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

ブラインドスポットモニターの ON／OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C BSM 表示灯

ブラインドスポットモニターが ON のときに点灯します。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “BSM 現在使用できません” が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “BSM 故障 販売店で点検してください” が表示されたときは

センサーの故障や電圧異常などが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.316)

■後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202 -LSC077

C3-001

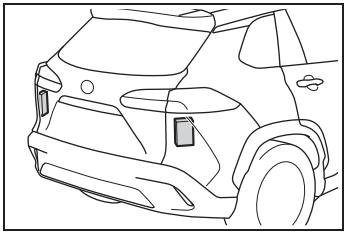
⚠警告

■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→P.178）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→P.181）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない

●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなったりするおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
・センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

●センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

ブラインドスポットモニターのON／OFFを切りかえるには

メーター操作スイッチを使ってON／OFFを切りかえます。

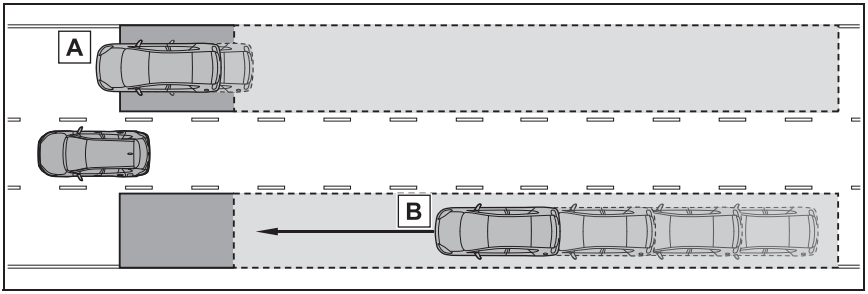
1 ❮または❯を押して⚙を選択する

2 ∧または∨を押して⛐を選択し、OKを押す

ブラインドスポットモニターの作動

■ 検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

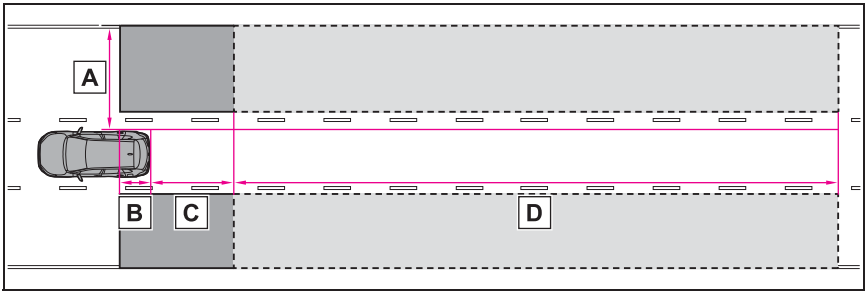


A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※1

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域 ※2

※1車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くに

いる状況で点灯・点滅します。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●ブラインドスポットモニターがONのとき

●シフトレバーがR以外のとき

●車速が約16km/h以上のとき

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき

●小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき

●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など※

●対向車

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●同じ車線を走行する後続車※

●2つ隣の車線を走行する他車※

●大きい速度差で自車が追いこす他車※

※状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・ブラインドスポットモニターをONにした直後

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったと

き
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

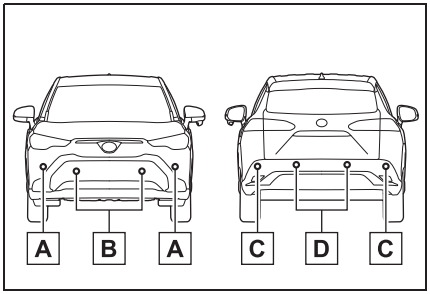
クリアランスソナー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディア画面の距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類

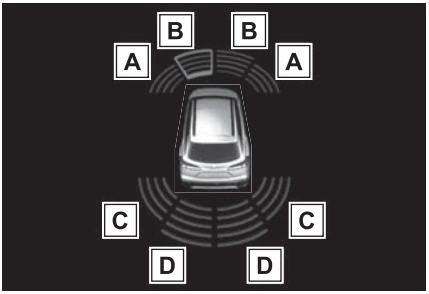


A フロントコーナーセンサー
B フロントセンターセンサー
C リヤコーナーセンサー
D リヤセンターセンサー

■ クリアランスソナーの表示のしかた

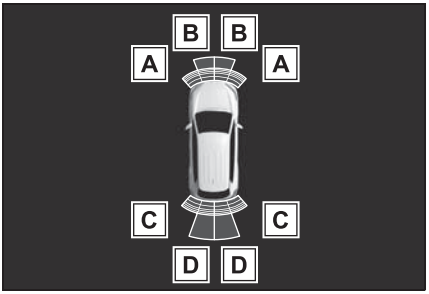
壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディア画面の作動表示が点灯します。

● マルチインフォメーションディスプレイの表示



A フロントコーナーセンサー作動表示
B フロントセンターセンサー作動表示
C リヤコーナーセンサー作動表示
D リヤセンターセンサー作動表示

● マルチメディア画面の表示



A フロントコーナーセンサー作動表示
B フロントセンターセンサー作動表示
C リヤコーナーセンサー作動表示
D リヤセンターセンサー作動表示

システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON ／ OFF を切りかえます。（→P.63）

1 〈 または 〉 を押して ⚙ を選択する

2 ∧ または ∨ を押して P を選択し、OK を押す

クリアランスソナー機能が OFF の時は、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.54）が点灯します。

OFF（停止）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ から P を ON（作動）にし、システム作動状態にしないとクリアランスソナーは復帰しません。（エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。

⚠ 警告

- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後バンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 自走式洗車機を使用する場合は、システムを OFF にしてください。

知識

■作動条件

- エンジンスイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトポジションが P 以外にあるとき

■マルチインフォメーションディスプレイに “クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください” が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。
氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “クリアランスソナー使用できません” が表示されたときは

センサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した場合に復帰します。

■センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る

（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

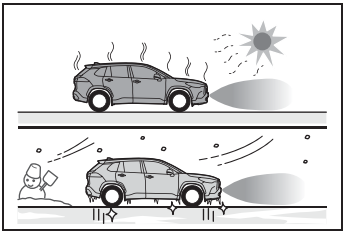
■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●炎天下や寒冷時



●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●大雨や水しぶきがかかったとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

●超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

●風が強いとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき

●車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

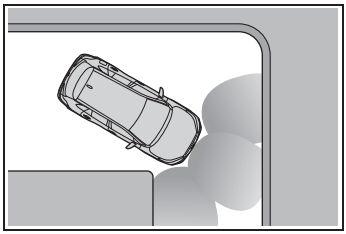
●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●狭い道路を走行するとき



●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき

●地面にわだちや穴がある場合

●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時

●急な登坂路や降坂路を走行するとき

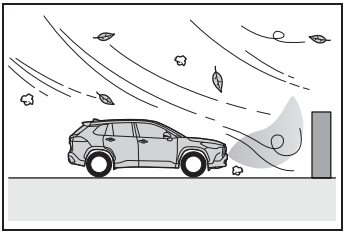
●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●大雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき



●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

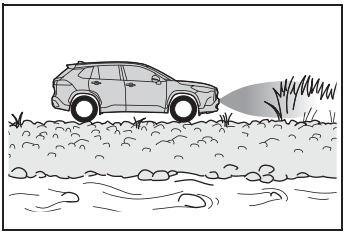
●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

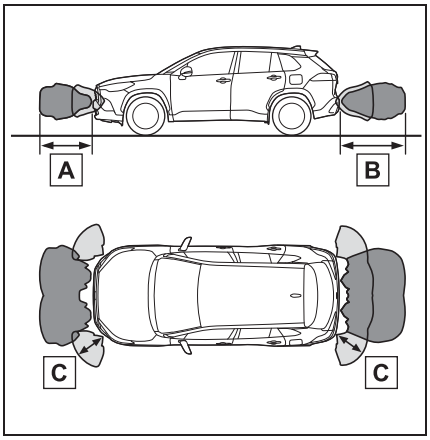
●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

システムの作動範囲について

■ 静止物を検知できる範囲



A 約 100cm

B 約 150cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ ブザー音と静止物までのおおよその距離

静止物を検知すると、ブザーが鳴り同時に音声案内を行います。複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

● ブザー音：断続音 ※

フロントセンターセンサー：約 100cm ～ 60cm

リヤセンターセンサー：約 150cm ～ 60cm

● ブザー音：速い断続音 ※

約 60cm ～ 45cm

● ブザー音：非常に速い断続音 ※

約 45cm ～ 30cm

● ブザー音：連続音「ピー」

約 30cm 以下

※ 静止物との距離が近づくと、断続音「ピピ」の断続時間が短くなります。ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動ミュート機能）

ブザーの音量について

■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。
クリアランスソナー、RCTA のブザー音を一括で調整します。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→P.63）

1 〈 または 〉 を押して ⚙ を選択する

2 ∧ または ∨ を押して P⚠ を選択し、OK を押し続ける

3 音量を選択し、OK を押す

1,2,3 の間で音量が切りかわります。

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

OK を押すとクリアランスソナー、RCTA のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- エンジンスイッチを OFF にしたとき

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

⚠警告

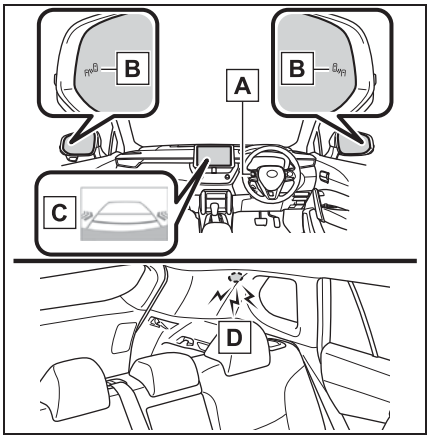
■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。（→P.177）

■システムを正しく作動させるために

→P.179

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上でRCTA 機能の ON ／ OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

C マルチメディア画面

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面に検知した側の RCTA アイコン（→P.190）が点灯します。

イラストは両後方から車両が接近している例です。

D RCTA ブザー

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

設定のしかた

メーター操作スイッチを使って ON ／ OFF を切りかえます。（→P.63）

1 〈 または 〉 を押して ⚙ を選択する

2 ∧ または ∨ を押して“RCTA” を選択し、OK を押す

RCTA 機能が OFF の時は、RCTA OFF 表示灯（→P.54）が点灯します。
エンジンスイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “RCTA 現在使用できません” が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

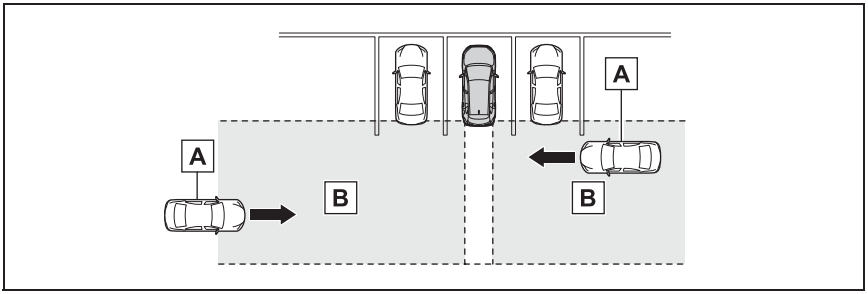
■ 後側方レーダーセンサーについて

→P.179

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



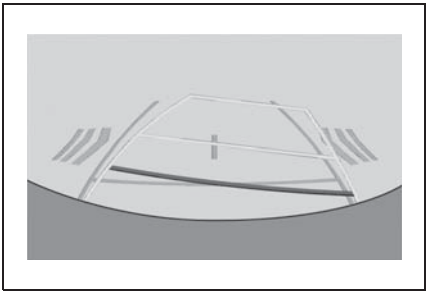
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

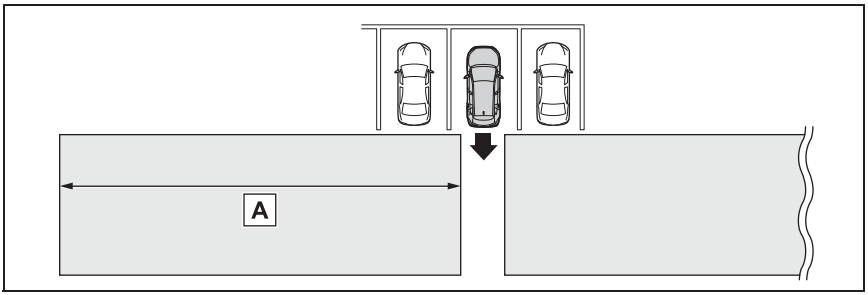
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
28km/h（速い）	20m
8km/h（遅い）	5.5m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●エンジンスイッチが ON のとき

●RCTA 機能が ON のとき

●シフトポジションが R のとき

●自車の車速が約 8km/h 以下のとき

●接近する他車の車速が約 8km/h ～ 28km/h のあいだのとき

■ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。
クリアランスソナー、RCTA のブザー音を一括で調整します。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。(→P.63)

1 〈 または 〉 を押して ⚙ を選択する

2 ∧ または ∨ を押して “RCTA” を選択し、OK を押し続ける

3 音量を選択し、OK を押す

1,2,3 の間で音量が切りかわります。

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

OK を押すとクリアランスソナー、RCTA のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

●シフトポジションを切りかえたとき

●車速が一定値以上になったとき

●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

●使用中の機能を OFF にしたとき

●エンジンスイッチを OFF にしたとき

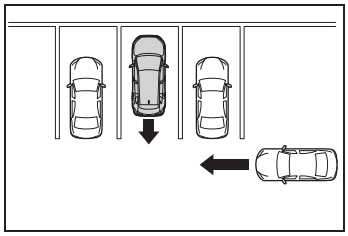
■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物

●小型の二輪車・自転車・歩行者など

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両

●センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

●センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

●泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

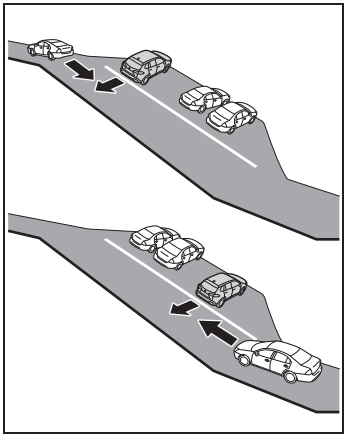
●大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

●複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

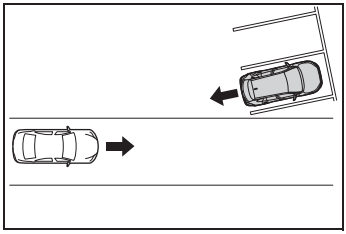
●車両が高速で接近するとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

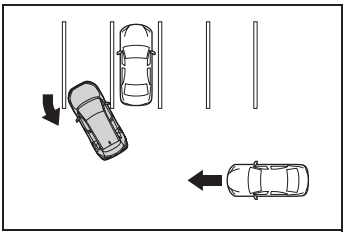
●勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



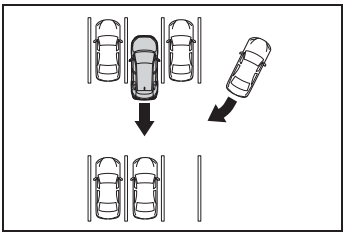
・斜めの駐車場から出庫するとき



・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・炎天下や寒冷時
・ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
・自車が旋回しているとき



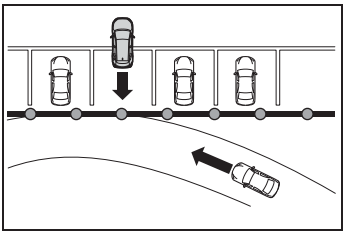
●旋回しながら車両が近づいてきたとき



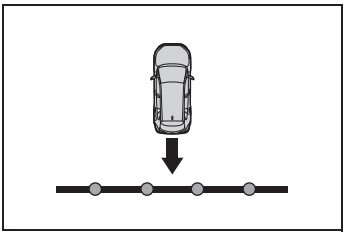
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

●駐車場に面した道を車両が走行しているとき

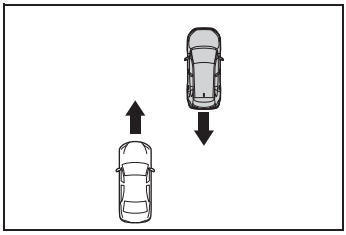


●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

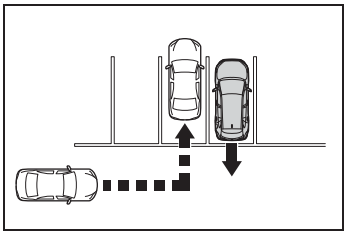


●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●車両が自車の横を通過するとき



●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



●自車近くに室外機などの回転体があるとき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

●動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

●ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

●グレーチングや側溝

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（静止物）、後退時に後方接近車両を検知するパーキングサポートブレーキ（後方接近車両）があります。

駐車支援機能

■ **パーキングサポートブレーキ（静止物）★**

→P.199

■ **パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★**

→P.202

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。
道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。
センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

⚠注意

■マルチインフォメーションディスプレイに“パーキングサポートブレーキ 現在使用できません”が表示され、PKSB OFF 表示灯が点灯したときは

エンジンスイッチを ON にした直後に、上記表示が出ることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。一定距離の走行で使用可能となりますが、使用できない場合は安全な場所に車を停止し、カメラレンズの汚れを取り除いてください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキ（静止物）、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）を一括で ON/OFF します。

メーター操作スイッチを使って ON ／ OFF を切りかえます。（→P.63）

1 〈 または 〉 を押して ⚙ を選択する

2 ∧ または ∨ を押して を選択し、OK を押す

PKSB システムを OFF した場合、PKSB OFF 表示灯（→P.54）が点灯します。

OFF（停止）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ から を ON（作動）にし、システム作動状態にしないと PKSB（パーキングサポートブレーキ）は復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディア画面、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● エンジン出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチメディア画面表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“加速抑制中です”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● エンジン出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面表示：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ブレーキ！”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面表示：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ

表示：“ブレーキ！”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチメディア画面表示：“ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直してください”
アクセルが踏まれていない場合は“ブレーキを踏んでください”が表示されます。

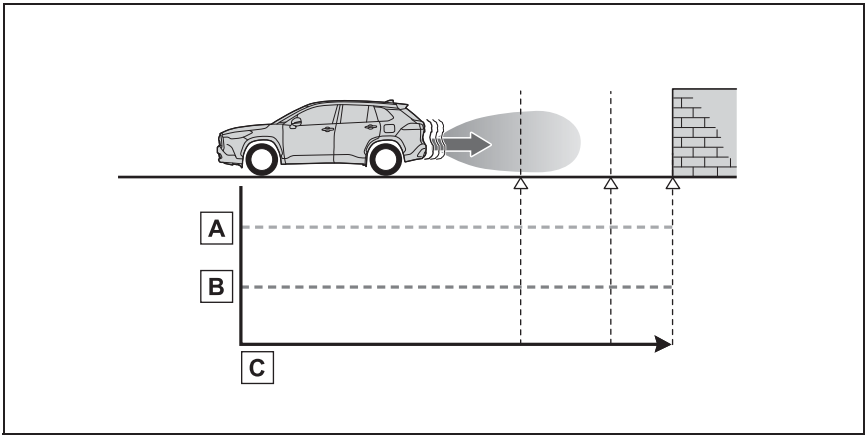
PKSB OFF 表示灯：点灯

ブザー：ポーン（単発音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物や後方接近車両）を検知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御：図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

● 図 1（PKSB（パーキングサポートブレーキ）非作動時）

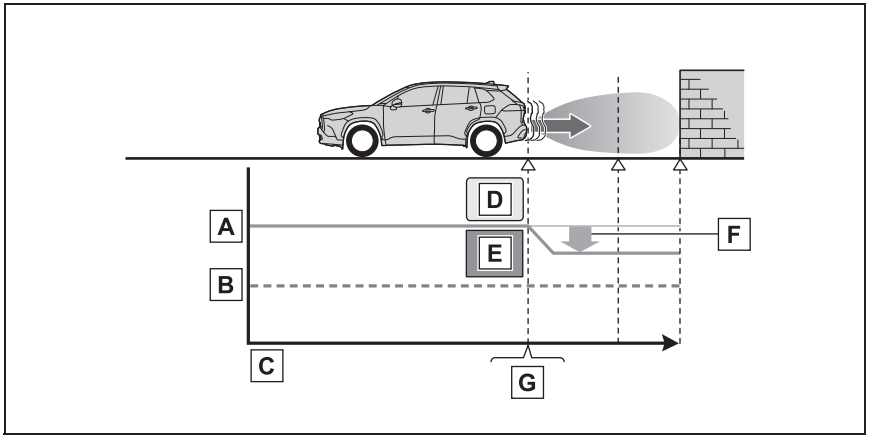


A エンジン出力

B 制動力

C 時間

● 図 2（エンジン出力抑制制御時）



A エンジン出力

B 制動力

C 時間

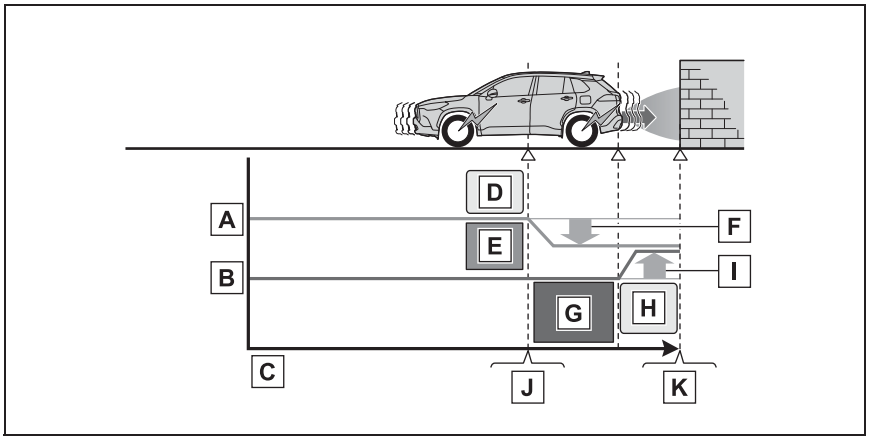
D エンジン出力抑制制御開始

E 作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき

F エンジン出力を抑える

G 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示 “ブレーキ！”

● 図 3（エンジン出力抑制制御かつブレーキ制御時）



A エンジン出力

B 制動力

C 時間

D エンジン出力抑制制御開始

E 作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき

F エンジン出力を抑える

G 作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき

H ブレーキ制御開始

I ブレーキ制御を上げる

J 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示 “ブレーキ！”

K 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示 “アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直してください”

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したあとに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON に（→P.195）するか、エンジンスイッチをいったん OFF にしてから再度、ON にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、PKSB OFF 表示灯が消灯します。

●進行方向の作動対象がなくなった状態で車両を走行させた

●車両の進行方向が入れかわった（前進から後退、または後退から前進に切りかえた）

■マルチインフォメーションディスプレイに “パーキングサポートブレーキ 現在使用できません” が表示され、PKSB OFF 表示灯が点灯したときは

クリアランスソナーセンサーのバンパー周辺の汚れを取り除いてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “パーキングサポートブレーキ 現在使用できません” と “クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください” が表示され、PKSB OFF 表示灯が点灯したときは

●センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、またはセンサーが汚れていなくても表示がでるときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●センサーが凍結している可能性があります。氷が解ければ正常に復帰します。

●センサー表面に水が断続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した場合に復帰します。

パーキングサポートブレーキ（静止物）★

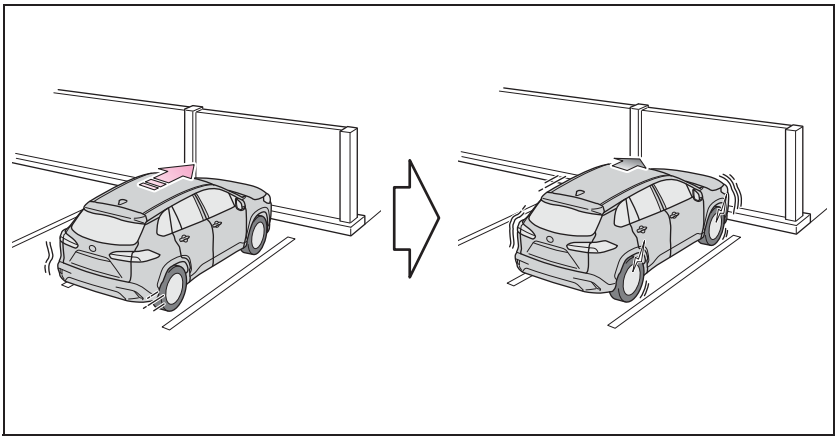
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

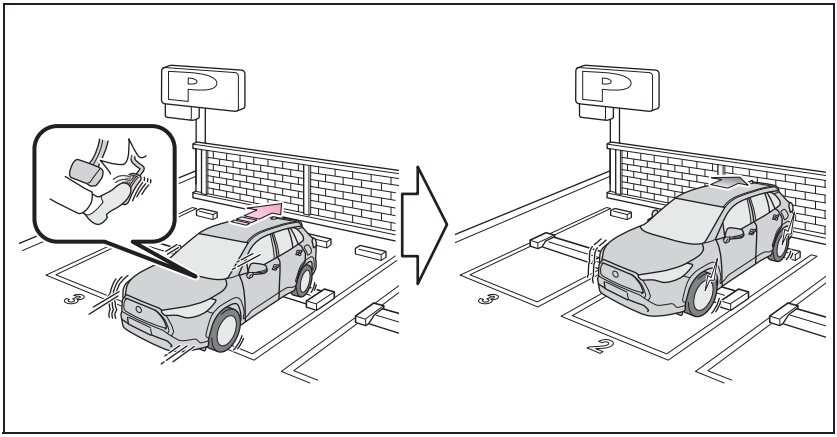
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

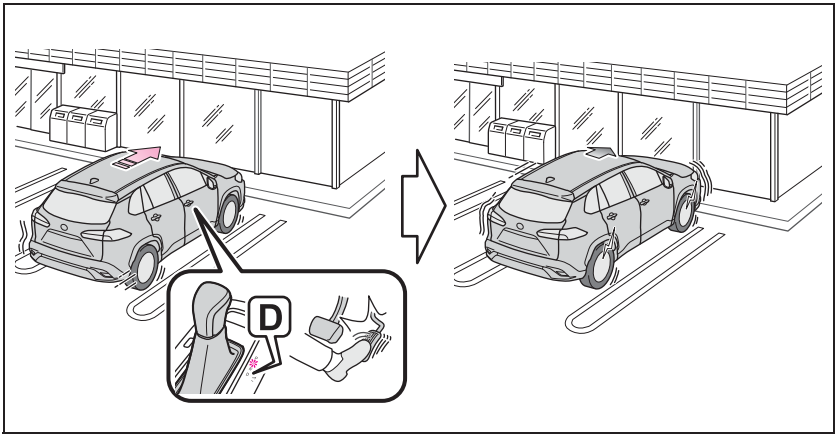
■ **低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトレバーを D に入れ前進してしまったとき



センサーの種類

→P.182

⚠ 警告

■システムを正しく作動させるために

→P.183

■万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは

→P.198

■洗車時の注意

→P.184

知識

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯（→P.53, 54）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・エンジン出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.187）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.185

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.186

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

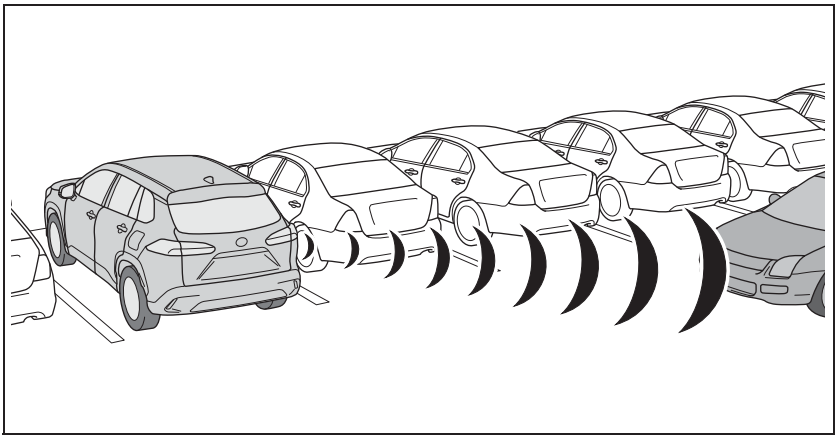
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ 後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



センサーの種類

→P.182

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.179

知識

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯（→P.53, 54）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- 車速が約 15km/h 以下
- 後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
- シフトポジションが R のとき
- 後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御

・エンジン出力抑制制御作動中
・接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・自車後側方への接近車両がなくなったとき

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約２秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・自車後側方への接近車両がなくなったとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲は、RCTA の検知範囲（→P.190）とは異なります。そのため、RCTA が障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.191

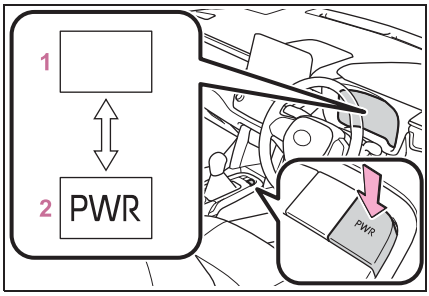
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.192

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには



ドライブモードセレクトスイッチを押すたびに、ノーマルモード、パワーモードの順で切りかわります。

1 ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、通常の走行に適しています。

2 パワーモード

トランスミッションとエンジンの制御により、アクセル操作に対する反応を早め、力強い加速が可能です。

パワーモード表示灯が点灯します。

知識

■パワーモードの自動解除

パワーモードを選択して走行後、エンジンスイッチを OFF にすると、自動でノーマルモードにもどります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト（ACA）

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

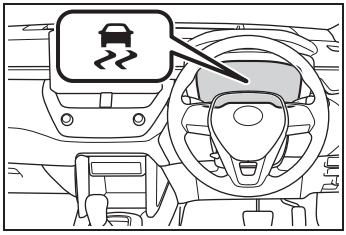
■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

知識

■TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



■TRC を停止するには

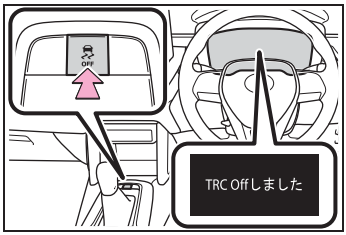
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されます。

もう一度 OFF スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。



■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に OFF スイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されます。※

もう一度 OFF スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS 装着車は、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P.154）

■ OFF スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときにシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーをPまたはNの位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありませ

ん。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

●エンジンスイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

●TRC・VSC が作動可能状態

●旋回中に加速しようとするとき

●車両が外側に膨らんでいるとシステムにより判断された

●ブレーキを踏んでいない

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。
10 分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。

ただし次のいずれかのとき、システムは作動しません。

●車速が約 10km/h 未満のとき

●構成部品が破損したとき

■セカンダリーコリジョンブレーキの自動解除

次のとき、自動的にセカンダリーコリジョンブレーキが解除されます。

●車速が約 10km/h 未満になったとき

●作動して一定時間経過したとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

⚠ 警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRCやVSCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

●アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。

●アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

⚠ 警告

■セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
（→P.315）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートは、急アクセル時加速抑制によって運転者を補助し、安全なドライブを支援します。

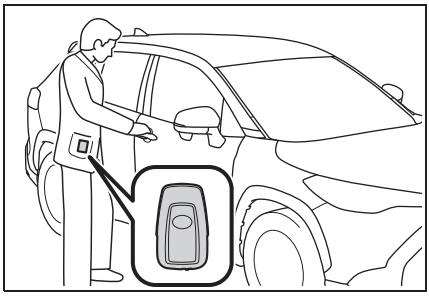
プラスサポートを使用するためには、サテンゴールドに加飾された電子キー（プラスサポート用スマートキー、以下、「サポキー」といいます）が必要です。

プラスサポートを使用するには

■ プラスサポートを始動するには

1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する
（→P.75）

エンジンスイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作動可能になりません。

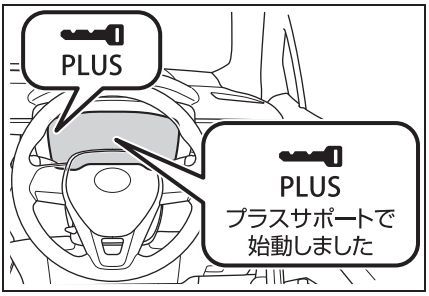


2 通常の手順でエンジンを始動する
（→P.118）

3 “プラスサポートで始動しました” というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

エンジンスイッチを OFF にするまで、

プラスサポートが作動可能な状態になります。



4 メーター操作スイッチの⮌を押してメッセージを非表示にする

⮌を押すまで、“プラスサポートで始動しました”のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子キーを携帯してドアを解錠し、エンジンを始動したときは、プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

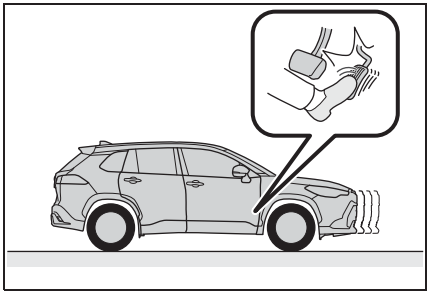
⚠ 警告

■ プラスサポートを正しく使用するために

- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。
- エンジンの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください（→P.54）。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジンの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。

⚠ 警告

- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。
- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもエンジンの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。
- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、エンジンの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

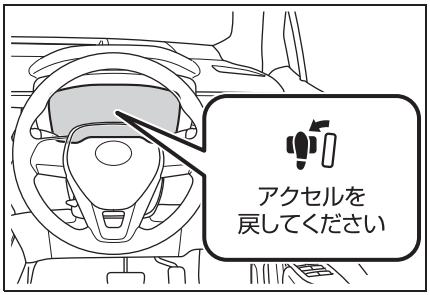
■右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、プラスサポートによりエンジンの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



知識

■急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

- シフトポジションがP・N以外のとき
- 車速が約30km/h以下のとき
- アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、エンジンの出力抑制量を少なくし、前進時は約30km/h、後退時は約12km/h※までゆるやかに加速します。

- 加速抑制作動中にアクセルペダルを約5秒間踏み続けたとき
- 加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

●方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約 2 秒間

●ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約 2 秒間

●急な上り坂に自車がいるとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

●車両の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響
・急アクセル時加速抑制作動中にブレーキオーバーライドシステムが作動したとき

■加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

●車両の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響
・車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
・惰性走行から急いで加速しようとしたとき
・ETC ゲート通過後に急加速したとき
・ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→P.251）

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●前 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う

●取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

⚠警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

●LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

注意

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するときは

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。
パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、必ず輪止め※1 をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないこと※2を確認してください。

※1輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※2ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受

けてください。

室内装備・機能 5

5-1. エアコンとデフォッガーの使い方

オートエアコン 216

ステアリングヒーター／シートヒーター 223

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 225

5-3. 収納装備

収納装備一覧 227

ラゲージルーム内装備 230

5-4. その他の室内装備の使い方

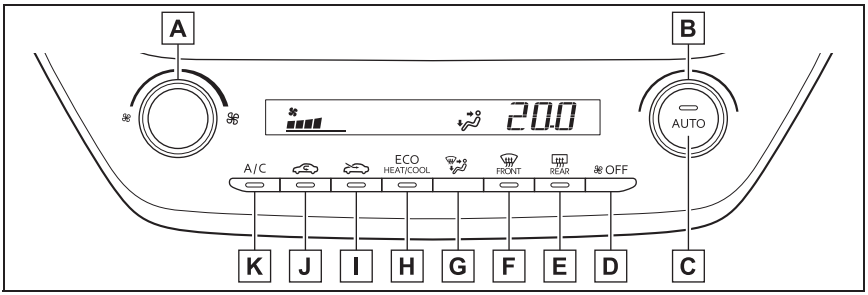
その他の室内装備 232

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

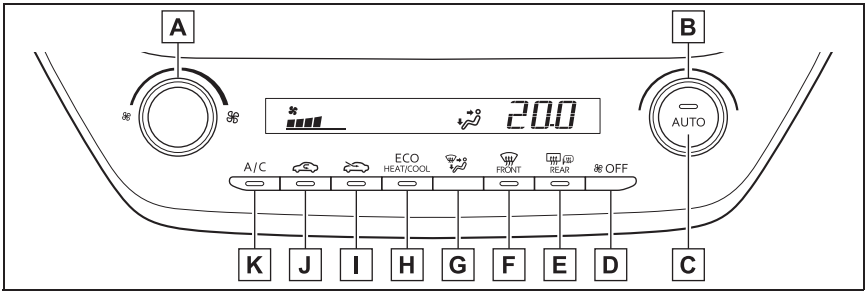
エアコン操作スイッチについて

▶ シングルエアコン（A タイプ）



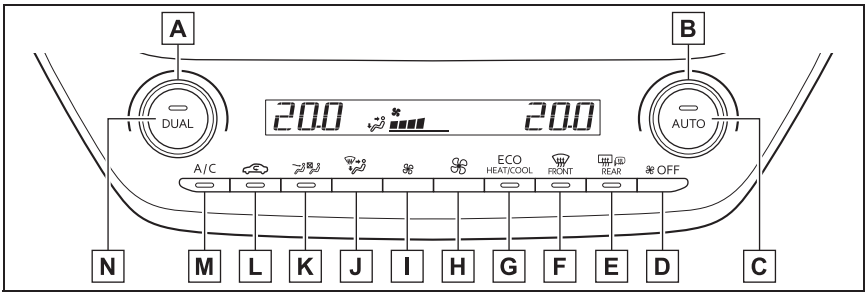
A 風量調整スイッチ
B 温度調整スイッチ
C AUTO スイッチ
D OFF スイッチ
E リヤウインドウデフォッガー
F フロントデフロスタースイッチ
G 吹き出し口切りかえスイッチ
H エコ空調スイッチ
I 外気導入スイッチ
J 内気循環スイッチ
K 冷房・除湿スイッチ

▶ シングルエアコン（B タイプ）



A 風量調整スイッチ
B 温度調整スイッチ
C AUTO スイッチ
D OFF スイッチ
E リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチ
F フロントデフロスタースイッチ
G 吹き出し口切りかえスイッチ
H エコ空調スイッチ
I 外気導入スイッチ
J 内気循環スイッチ
K 冷房・除湿スイッチ

▶ デュアルエアコン



A 助手席側温度調整スイッチ
B 運転席側温度調整スイッチ
C AUTO スイッチ
D OFF スイッチ

E リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチ
F フロントデフロスタースイッチ
G エコ空調スイッチ
H 風量増スイッチ
I 風量減スイッチ
J 吹き出し口切りかえスイッチ
K S-FLOW モードスイッチ
L 内外気切りかえスイッチ
M 冷房・除湿スイッチ
N DUAL スイッチ

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを右へまわし、下げるときは左へまわす

冷房・除湿スイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

▶ シングルエアコン

風量を増やすときは風量調整スイッチを右へまわし、減らすときは風量調整スイッチを左へまわす

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

▶ デュアルエアコン

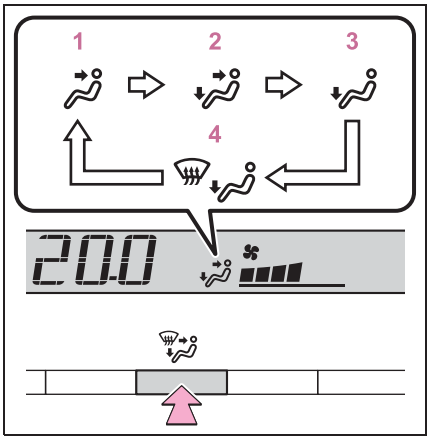
風量を増やすときは風量増スイッチを押し、減らすときは風量減スイッチを押す

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを押す

押すたびに次のように吹き出し口が切りかわります。



1 上半身に送風
2 上半身と足元に送風
3 足元に送風
4 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえる（シングルエアコン装着車）

● 内気循環に切りかえるときは、内気循環スイッチを押す

内気循環スイッチの作動表示灯が点灯します。

● 外気導入に切りかえるときは、外気導入スイッチを押す

外気導入スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ 内気循環／外気導入を切りかえる（デュアルエアコン装着車）

内外気切りかえスイッチを押す

押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは、表示灯が点灯します。

■ 冷房・除湿機能

冷房・除湿スイッチを押す

ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

冷房・除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスタースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ エコ空調モード

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

エコ空調スイッチを押す

エコ空調モードが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

知識

■ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿機能を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- 冷房・除湿機能を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度により、自動的に切りかわる場合があります。

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

冷房・除湿機能を ON にしても冷房・除湿機能が働かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがありま

す。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

●駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

■エアコンフィルターについて

→P.254

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.316)

⚠警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター作動中の警告★

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

オート設定で使用する

1 AUTO スイッチを押す
2 温度を設定する
3 冷房・除湿スイッチを押す

押すたびに冷房・除湿機能の ON/OFF が切りかわります。

4 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

フロント席集中送風モード (S-FLOW) ★

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。助手席に乗員がいない場合は、運転席のみへの送風に切りかわることがあります。無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

● リヤ席に乗員を検知していない
● フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない

作動中は、 が点灯します。

■ 手動でフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえる

フロント席集中送風モードは、スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

を押し、送風を切りかえます。

- 表示灯が点灯：フロント席のみへの送風
- 表示灯が消灯：全席への送風

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■送風の自動制御について

- 車室内を快適に保つために、エンジン始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。
- エンジン始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

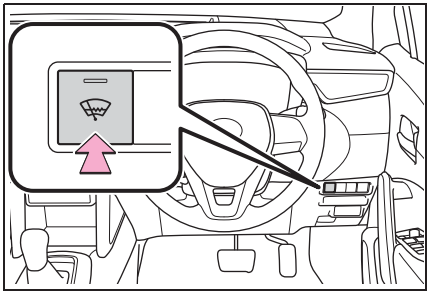
■送風の手動制御について

手動でフロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

■送風を自動制御にもどすには

1. 表示灯が消灯している状態でエンジンスイッチを OFF にする。
2. 60 分以上経過後にエンジンスイッチを ON にする。

フロントワイパーデアイサー★



フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■フロントワイパーデアイサー作動中の警告

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）★

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- DUAL スイッチを押す
- 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになり作動表示灯が点灯します。

作動表示灯が点灯しているときに DUAL

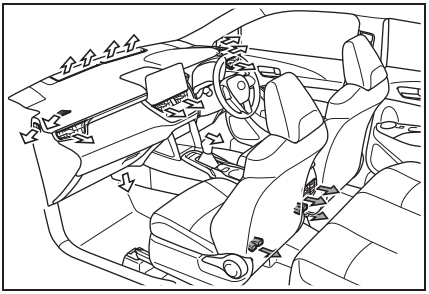
スイッチを押すと、左右独立モードがOFF になり、助手席の設定温度が運転席と同じ設定温度になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口の配置・操作

■ 吹き出し口の位置

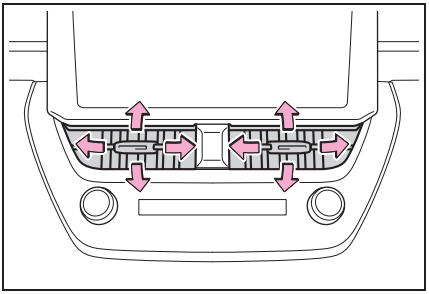
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



⬅：仕様により設定の有無あり

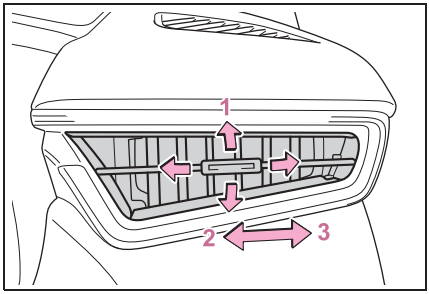
■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ センター



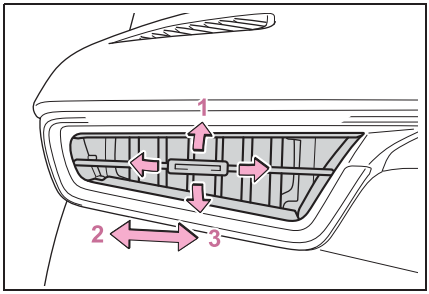
風向きを調整する

▶ 運転席サイド



1 風向きを調整する
2 吹き出し口を開ける
3 吹き出し口を閉じる

▶ 助手席サイド

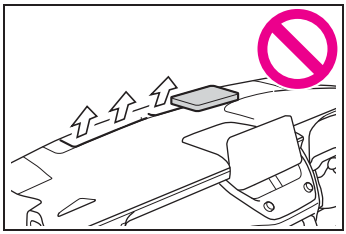


1 風向きを調整する
2 吹き出し口を閉じる
3 吹き出し口を開ける

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



ステアリングヒーター★／シートヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

● シートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

⚠ 警告

■低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

⚠ 注意

■シートヒーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■バッテリーあがりを防ぐために

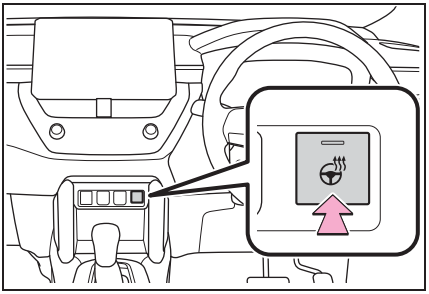
エンジンが停止した状態で使用しないでください。

操作スイッチについて

■ ステアリングヒーター

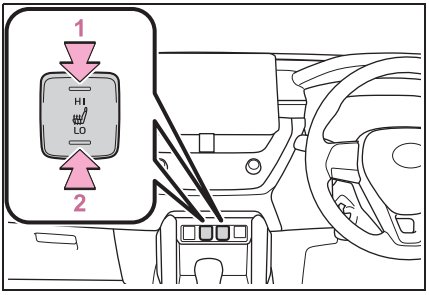
システムの ON ／ OFF を切りかえる

作動中は作動表示灯が点灯します。



■ シートヒーター

スイッチを押してシートヒーターを作動させる



1 HI（強）

2 LO（弱）

作動中は作動表示灯が点灯します。

作動を停止するときは、押した側と反対側のスイッチを軽く押してください。スイッチが中立の位置にもどり、作動表示灯が消灯します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

⚠ 警告

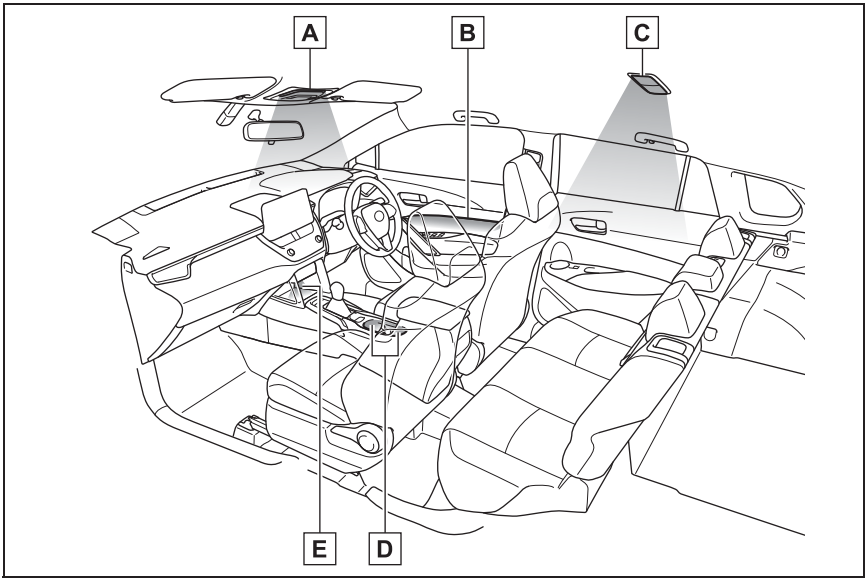
■異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 長時間連続使用しないでください。
- 毛布・クッションなどを使用しないでください。

室内灯一覧

室内灯の位置



A フロントインテリア／パーソナルランプ（→P.225, 226）

B ドアトリム照明★

C リヤインテリアランプ（→P.226）

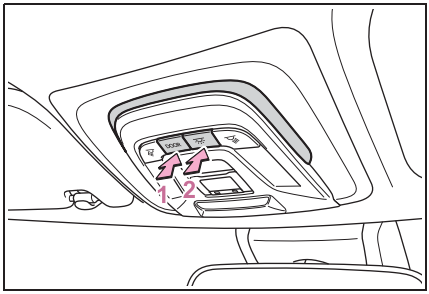
D カップホルダ照明★

E センタートレイ照明★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インテリアランプを操作するには

■ フロント



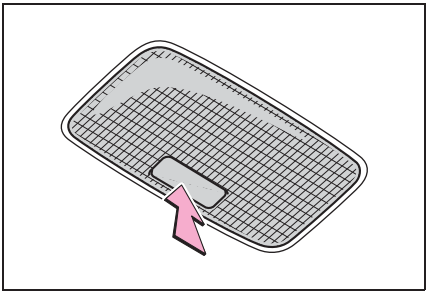
1 ドア連動を ON・OFF する

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえます。

2 ランプを点灯・消灯する

ドア連動 ON にしていると、ドアの開閉に連動してランプが点灯・消灯します。

■ リヤ

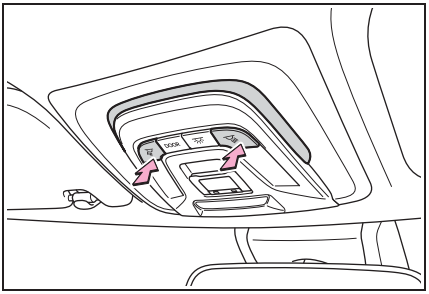


ランプを点灯・消灯する

フロントインテリアランプをドア連動 ON にしていると、ドアの開閉に連動してリヤインテリアランプが点灯・消灯します。

フロントインテリアランプに連動して点灯しているときは、スイッチを押しても消灯しません。

パーソナルランプを操作するには



ランプを点灯・消灯する

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。
手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。
（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。）

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.316）

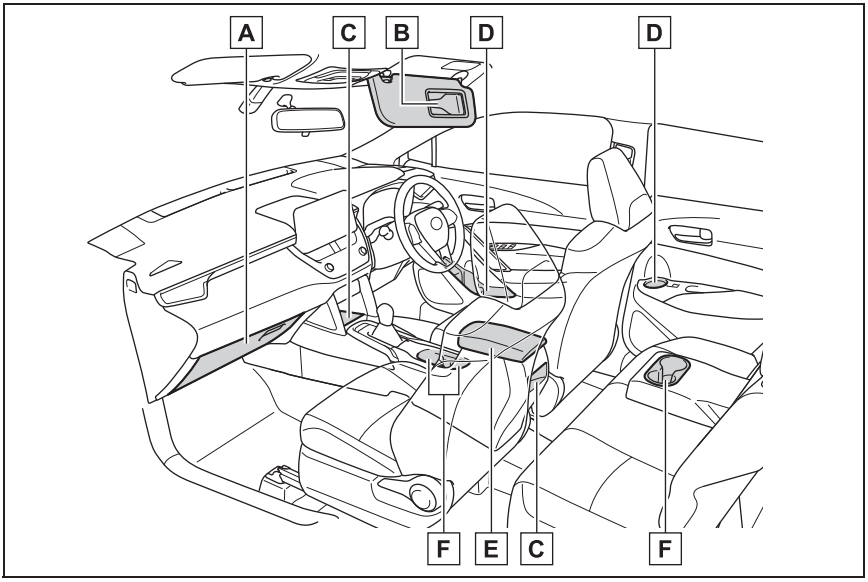
注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧

収納装備の位置



A グローブボックス（→P.228）

B カードホルダー（→P.230）

C オープントレイ★（→P.229）

D ボトルホルダー（→P.228）

E コンソールボックス（→P.229）

F カップホルダー★（→P.228）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

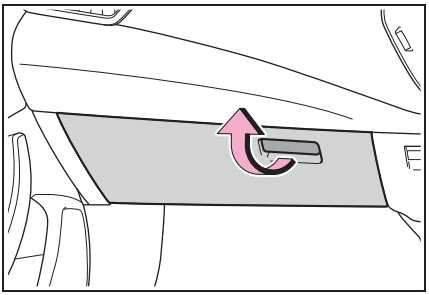
■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス



レバーを引いて開ける

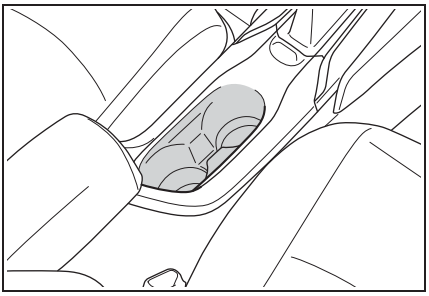
⚠警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

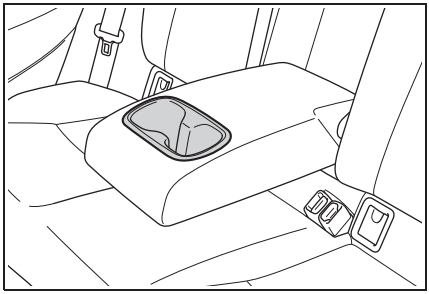
カップホルダー

▶ フロント



▶ リヤ★

アームレストを手前に倒す



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

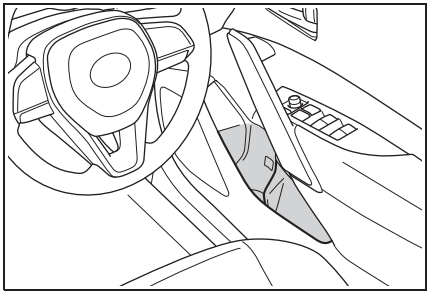
⚠警告

■収納してはいけないもの

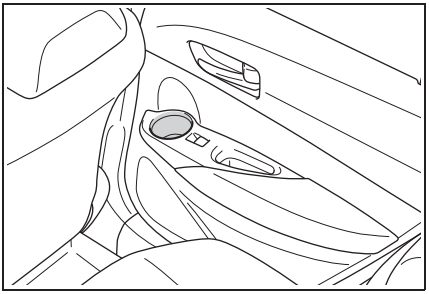
カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

ボトルホルダー

▶ フロント



▶ リヤ



知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

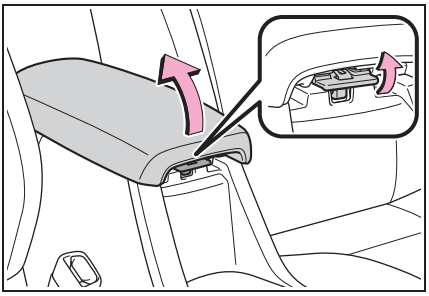
●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

⚠警告

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。
ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

コンソールボックス



レバーを引いてふたを開ける

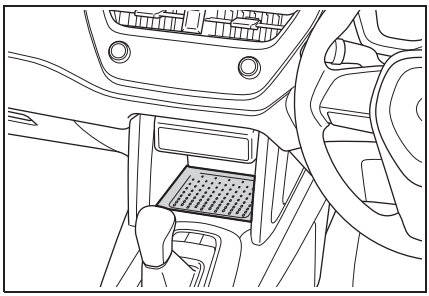
⚠警告

■走行中の警告

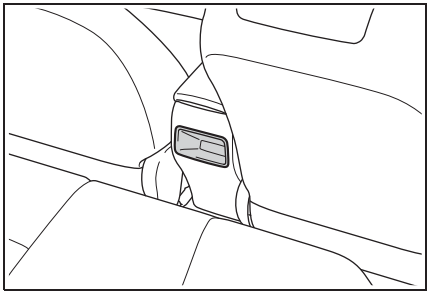
コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

オープントレイ★

▶ フロント



▶ リヤ



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

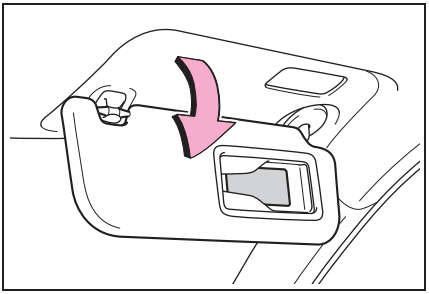
⚠ 警告

■走行中の警告

オープントレイにものを置くときは、次の注意事項を守ってください。
急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛び出し、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。
- トレイの端よりも高くものを積み重ねないでください。
- トレイの端からはみ出してものを置かないでください。

カードホルダー

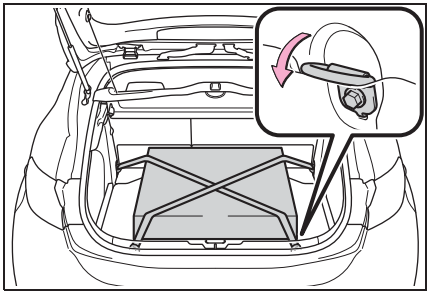


バイザーを下ろす

ラゲージルーム内装備

デッキフック

フックを使って荷物を固定することができます。

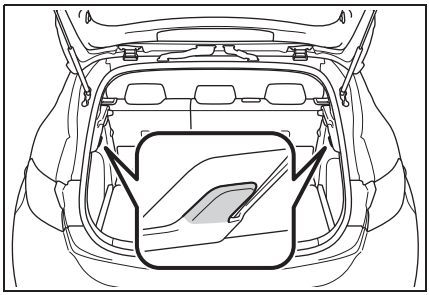


⚠ 警告

■デッキフックを使用しないときは

必ずデッキフックをもとの位置にもどしておいてください。

買い物フック



⚠ 警告

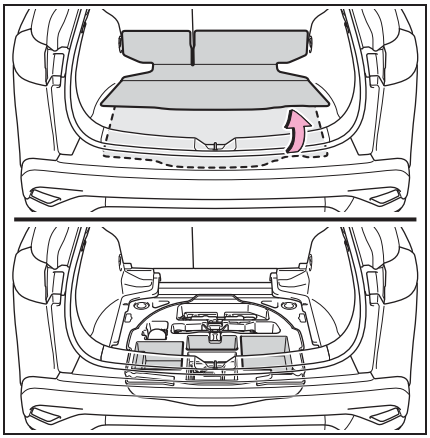
■買い物フックの破損を防ぐために

2kg 以上のものを買い物フックに吊り下げないでください。

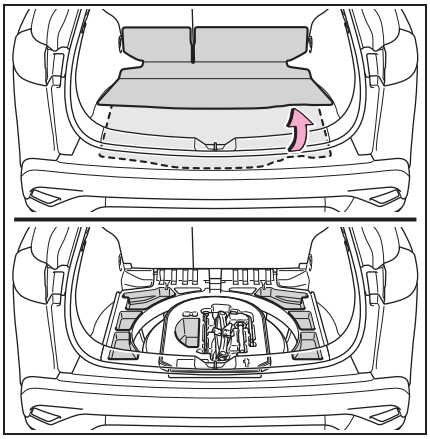
ラゲージアンダートレイを使うには

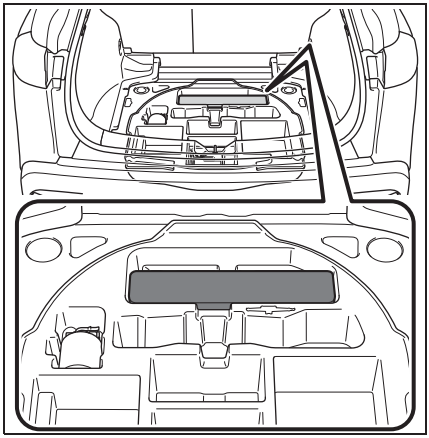
デッキボードを持ち上げる

▶ A タイプ



▶ B タイプ





停止表示板収納スペース（パンク修理キット装着車）

ラゲージルームに停止表示板を収納することができます。

停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

その他の室内装備

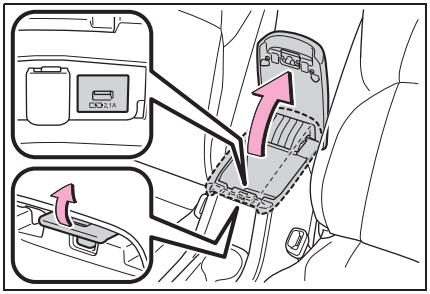
充電用 USB 端子

DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）の電源としてお使いください。
この USB 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。
また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 充電用USB端子を使用するには

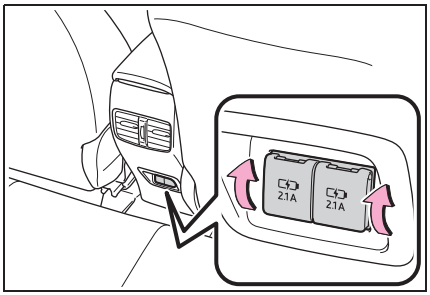
● フロント★

フタを開けて使用する



● リヤ★

フタを開けて使用する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■充電用 USB 端子の作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

注意

■充電用 USB 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

⚠注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、充電用USB 端子を長時間使用しないでください。

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）★を使うには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

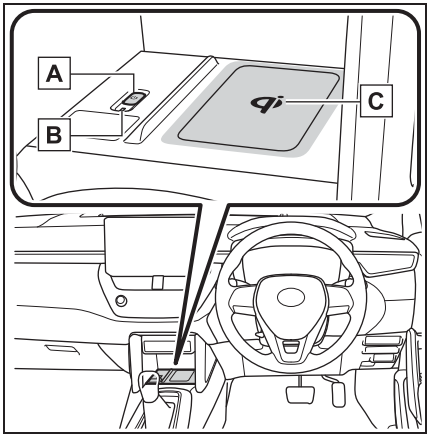
■「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の登録商標です。

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電エリアより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 各部の名称



A 電源スイッチ

B 作動表示灯

C 充電エリア

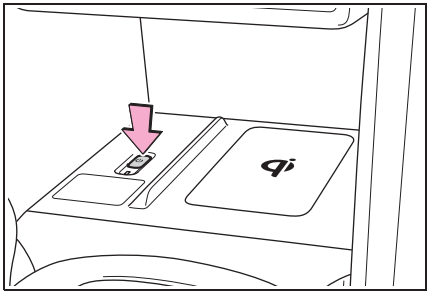
■ 充電する

1 電源スイッチを押す

押すごとに ON と OFF が切りかわります。

ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。

ワイヤレス充電器の電源の状態（ON／OFF）はエンジンスイッチを OFF にしても記憶されます。



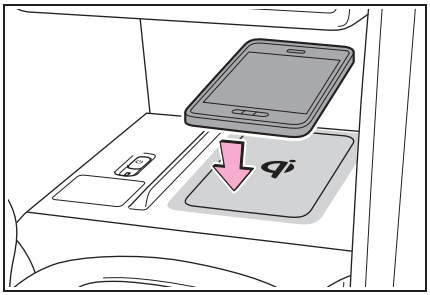
2 充電エリアに携帯機器を置く

携帯機器の充電面が下になるように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。



■ **再充電機能**

- 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。
- 携帯機器が移動すると、いったん充電が停止しますが、ただちに充電を再開します。

■ **作動表示灯の点灯状況**

作動表示灯	状況
消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）
	充電完了時 ※
橙（点灯）	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
	充電中
緑と橙が交互に点灯	次のような携帯機器が急速充電されます ●WPC Ver 1.2.4 に準拠した急速充電対応デバイス。 ●7.5W 充電可能な iPhone（iPhone 8 以降）

※ 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

■ **作動表示灯が点滅したときは**

エラーが発生した場合の作動表示灯の状況と、想定される原因の対処方法は次の通りです。

- 1 秒間に 1 回の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
車両とワイヤレス充電器の通信不良	トヨタ販売店へお問い合わせください。

- 3 回連続の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
異物検知：携帯機器と充電エリアの間に異物がある	携帯機器と充電エリアのあいだにある異物を取り除いてください。
携帯機器のずれ：置かれた場所から携帯機器がずれている	携帯機器を充電エリアの中央付近に置き直してください。

●４回連続の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
ワイヤレス充電器内の温度上昇	いったん充電を停止し、しばらく待ってから充電を開始してください。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■使用できる携帯機器について

●ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。

●携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

■携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバーやアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中に、AM ラジオにノイズが入るときは

ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ノイズが低減するか確認してください。ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

■充電についての留意事項

●車室内で電子キーを検出できない場合は、充電することができません。ドアの開閉時は、一時的に充電が停止することがあります。

●充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

■作動中の音について

電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、携帯機器を検出中は“ジー”と作動音がしますが、異常ではありません。

■清掃について

→P.245

警告

■運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

⚠ 警告

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと装置の故障や損傷、発火、発熱によるやけどにつながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器のあいだに金属物を挟まない
- 充電エリアや携帯機器にアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 布などをかぶせて充電しない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 強い力や衝撃をかけない

⚠ 注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電
- 充電エリアと携帯機器のあいだに異物がある
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっている
- 携帯機器の充電面を上にして置いた
- 携帯機器の置き場所が充電エリアからずれている
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
  - アルミ箔などの金属の貼られたカード
  - アルミ箔を使用したタバコの箱
  - 金属製の財布やかばん
  - 小銭
  - カイロ
  - CD や DVD などのメディア
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせください。

■故障やデータ破損を防止するために

- 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。
- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

注意

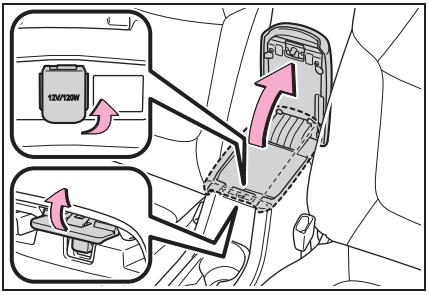
■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

アクセサリーソケットを使うには

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

■作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■エンジンスイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF することができなくなる場合があります。

注意

■ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12V/10A（消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

■ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

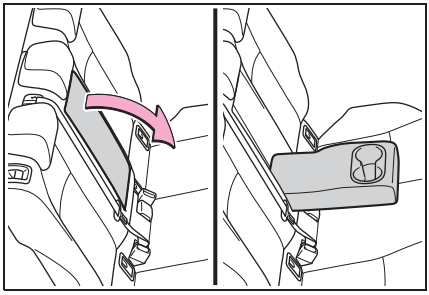
■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

リヤアームレスト★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手前に倒して使用します。



注意

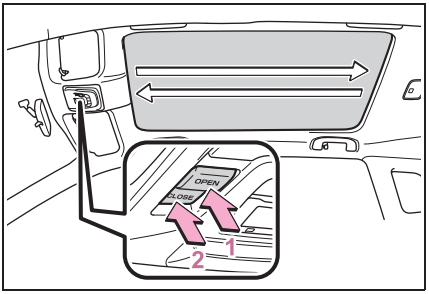
■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

電動サンシェード★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 電動サンシェードを開閉する



1 短押し：開ける
　長押し：自動全開 ※
2 短押し：閉める
　長押し：自動全閉 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチをもう一度押します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間は電動サンシェードの操作ができます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

次の状況で異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

●電動サンシェードを閉めるとき

■電動サンシェードが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

1 車を停止する
2 エンジンスイッチを ON にする
3 スイッチの CLOSE 側を押し続け、反転後も約 10 秒間スイッチを押し続けると閉じ切り作動を開始します。※
4 電動サンシェードが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※ 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

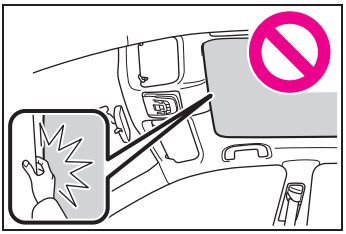
以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■電動サンシェードを開閉するときは

●電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



●お子さまには、電動サンシェードの操作をさせないでください。
電動サンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

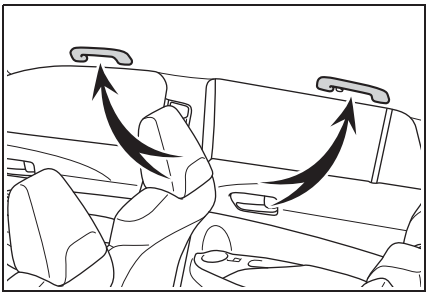
⚠ 警告

■やけどやけがを防ぐために

ルーフの下側と電動サンシェードの隙間にはふれないでください。
手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



⚠ 警告

■アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

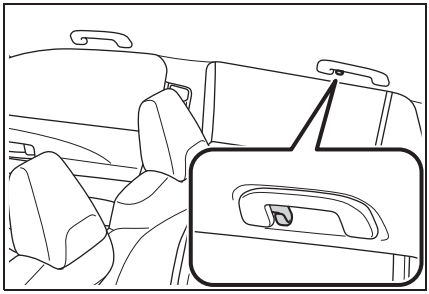
⚠ 注意

■破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

コートフックを使うには

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。

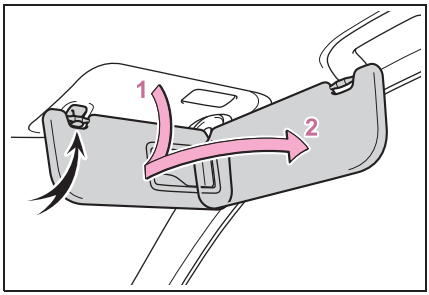


⚠ 警告

■コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

サンバイザーを使うには



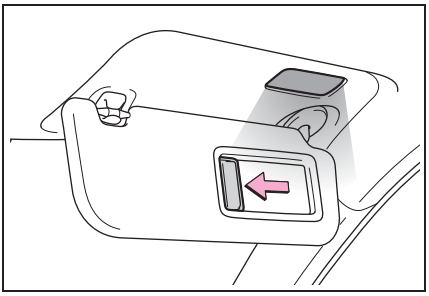
1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける

バニティランプ装着車：ランプが点灯します。



知識

■バッテリーあがりを防ぐために

バニティランプ装着車：エンジンスイッチが OFF の場合、バニティランプが点灯したままのときは約 20 分後に自動消灯します。

注意

■使用しないときは

バニティミラーを必ず閉じてください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で長時間ランプを点灯しないでください。

お手入れのしかた 6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 242
内装の手入れ 245

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 248
ガレージジャッキ 249
ウォッシャー液の補充 250
タイヤについて 251
タイヤ空気圧について 253
エアコンフィルターの交換 254
電子キーの電池交換 256
ヒューズの点検・交換 258
電球（バルブ）の交換 260

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うとき

●お車を洗う前に：
・ドアミラーを格納する
・パワーバックドア★を停止する

走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

●洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり破損したりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■洗車などで車に水をかけたとき（スマートエントリーシステム装着車）

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.92）

■ホイール・ホイールキャップについて

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

⚠警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。
やけどをするおそれがあります。

■リヤバンパーについて

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

●BSM★

●RCTA★

●PKSB★

●クリアランスソナー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと

・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと

・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき

・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと

・ほこり・泥などで激しく汚れたとき

・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

⚠ 注意

■ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

■高圧洗浄機を使用するときは

●バックカメラ装着車：洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。
部品故障の原因になるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品

・ステアリング部品

・サスペンション部品

・ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

室内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

⚠警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
  電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。
  (→P.28)
  電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- おくだけ充電（ワイヤレス充電器）★(→P.233)をぬらさないでください。
  発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート・ハンドル以外：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

・ハンドル：シンナーなどの有機溶剤、アルコール類を含むクリーナー

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
(→P.143)

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

● 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

知識

■サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

本革部分の手入れをするには

● 掃除機などでほこりや砂を取り除く

● 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。

● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

⚠ 注意

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
  特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

合成皮革部分の手入れをするには

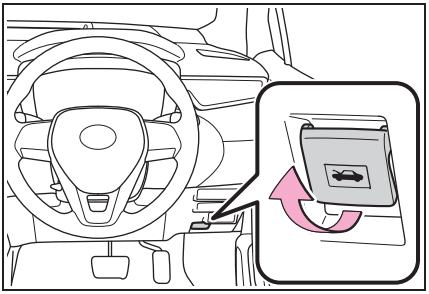
- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

ボンネット

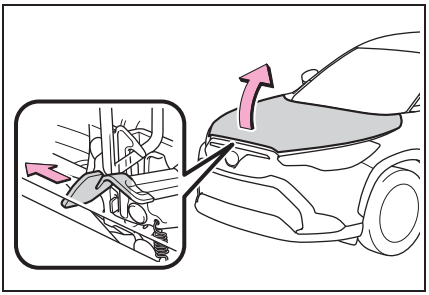
ボンネットを開けるには

1 ボンネット解除レバーを引く

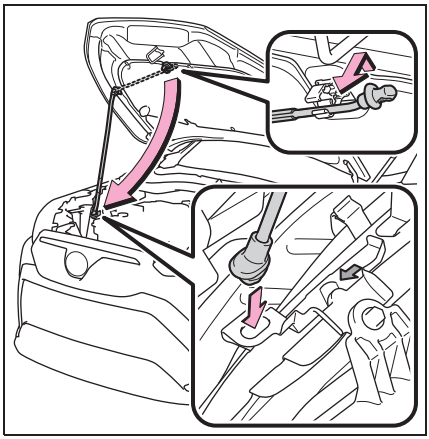
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを左方向に押して、ボンネットを開ける



3 ボンネットステーをステー穴に差し込む

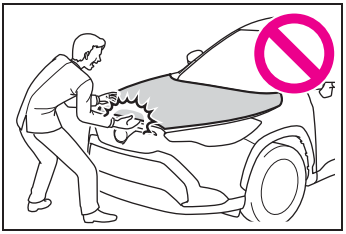


⚠警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ボンネットを閉めるとき



手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットステーをステー穴に差し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく差し込まれているか確認してください。

⚠ 注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ボンネットを閉めるときは

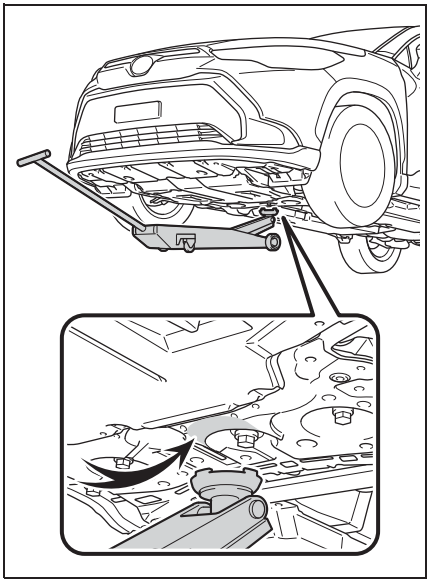
ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ボンネットステーが差し込まれた状態で閉めると、ボンネットが損傷するおそれがあります。

ガレージジャッキ

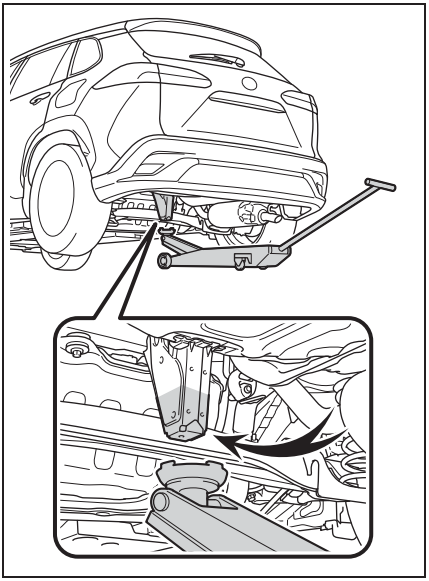
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側



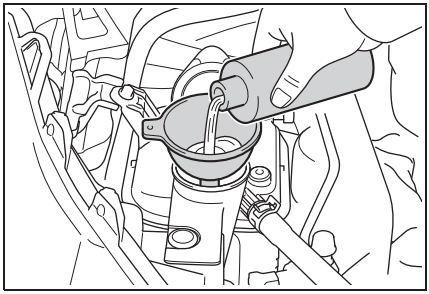
■ リヤ側



ウォッシャー液の補充

補充をするには

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補充してください。



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。
水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

■タイヤ空気圧について

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

▶215/60R17 96H

前輪：230kPa（2.3kg/cm^2）※

後輪：230kPa（2.3kg/cm^2）※

▶225/50R18 95V

前輪：230kPa（2.3kg/cm^2）※

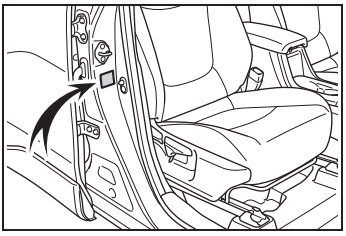
後輪：230kPa（2.3kg/cm^2）※

▶応急用タイヤ★

420kPa（4.2kg/cm^2）※

※ タイヤが冷えているときの空気圧

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■タイヤのバルブについて

タイヤを交換するときは、バルブに変形・亀裂・損傷がないか点検してください。

⚠警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない

⚠ 警告

●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

●他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●破裂などの修理できない損傷を与える

●車両が横すべりする

●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。P.298
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。
オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止（アルミホイール装着車）

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

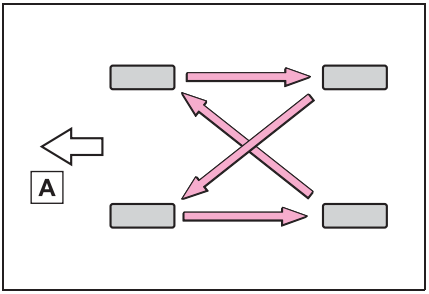
段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーション

をおすすめします。



A 前側

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。(→P.315)

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

⚠ 警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

⚠ 注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

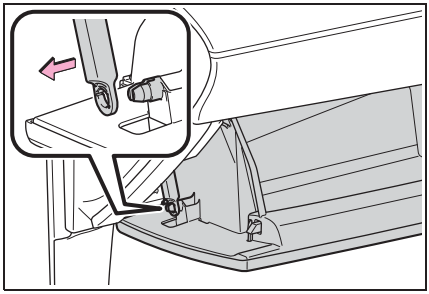
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

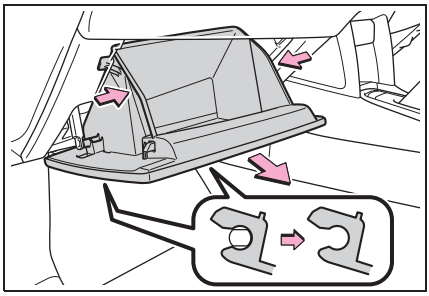
交換するには

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

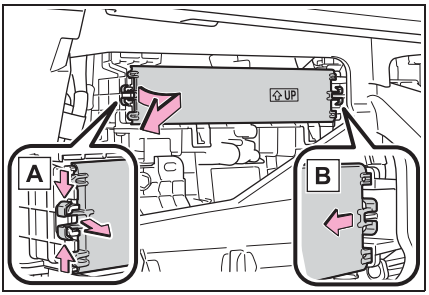


3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずしてとりはずす

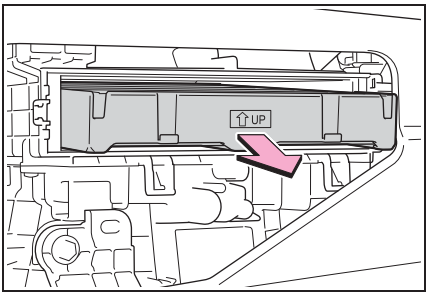


4 フィルターカバーのロックをはずし（A）、ツメからフィル

ターカバーを抜き（B）、フィルターカバーを取りはずす

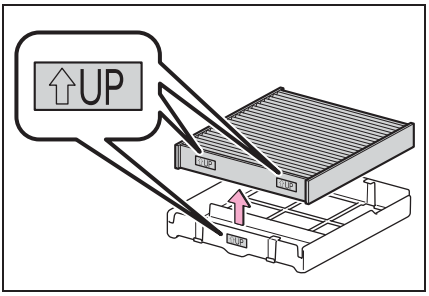


5 フィルターケースを取りはずす



6 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

“⇧UP”マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km［7500km※1］ごと、ただし12ヶ月をこえないこと※2

※1大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

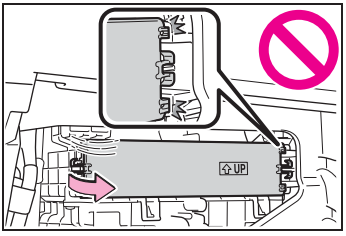
注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

知識

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム★・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

事前に準備するもの

- マイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

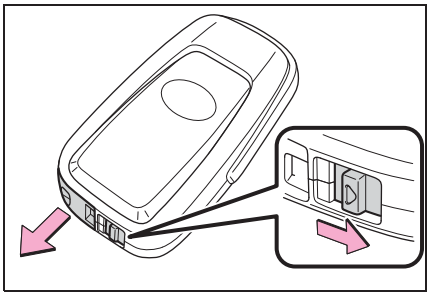
知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

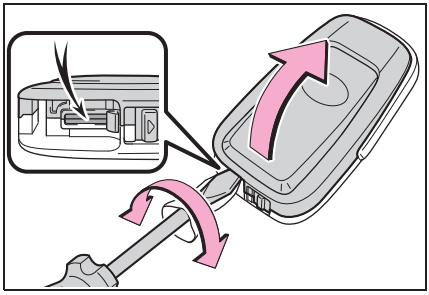
電池を交換するには

1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

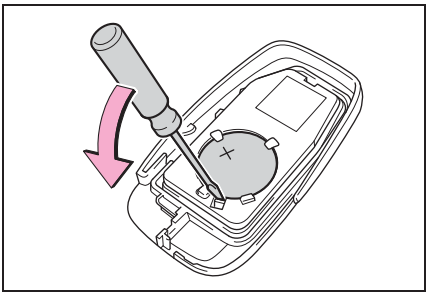


3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付け

ます。



4 カバーを取り付け、メカニカルキーを差し込む

5 ボタン（🔒または🔓）を操作して、ドアが施錠または開錠されることを確認する

⚠警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠注意

■電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

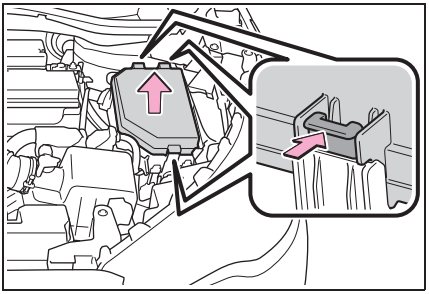
ヒューズの点検・交換をするには

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム

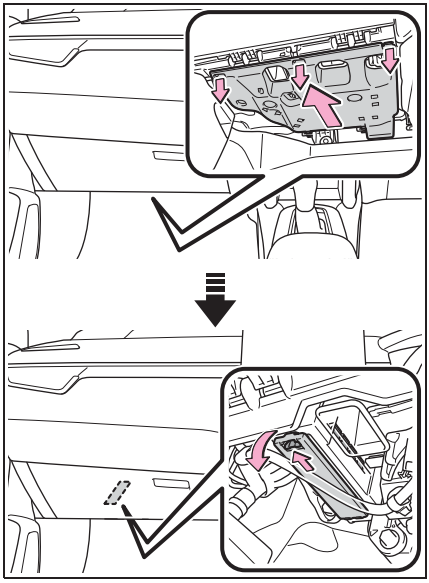
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



▶ 助手席足元

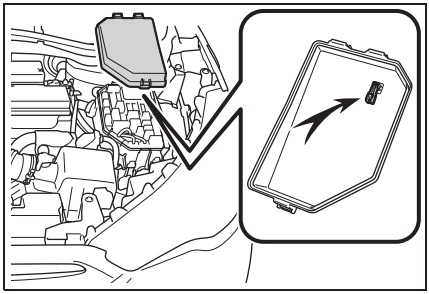
足元のカバーをとりはずし、ヒューズボックスのカバーをとりはずす

ヒューズボックスのカバーを取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。

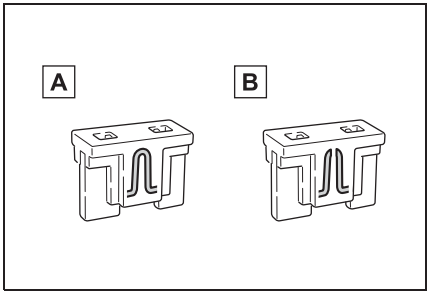


3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する



A 正常

B ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

知識

■ヒューズを交換したあとは

●カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P.315）

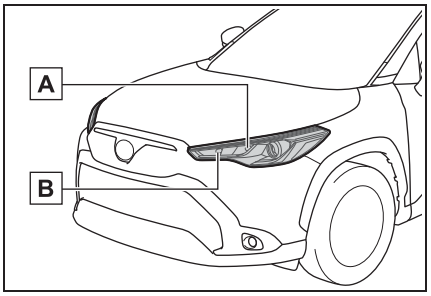
パワーバックドア★の作動停止

→P.89

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

バルブ位置

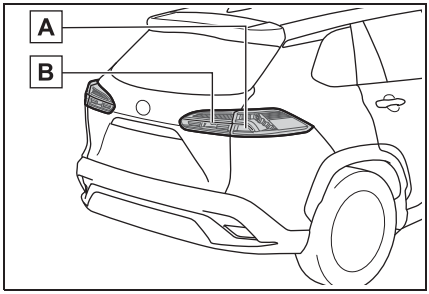
■ フロント



A 車幅灯（バルブタイプ）★

B フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）★

■ リヤ



A リヤ方向指示灯／非常点滅灯

B 後退灯

■ トヨタ販売店で交換が必要な電球

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ
- フロント方向指示灯／非常点滅灯（LED タイプ）★
- 車幅灯／デイタイムランニングランプ★
- フロントフォグランプ★
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 制動灯
- ハイマウントストップランプ
- リヤフォグランプ★
- 番号灯

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■LED ランプについて

次のランプ以外は、数個の LED で構成さ

れています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

●車幅灯（バルブタイプ）★

●フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）★

●リヤ方向指示灯／非常点滅灯

●後退灯

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

●レンズ内側に大粒の水滴が付いている

●ランプ内に水がたまっている

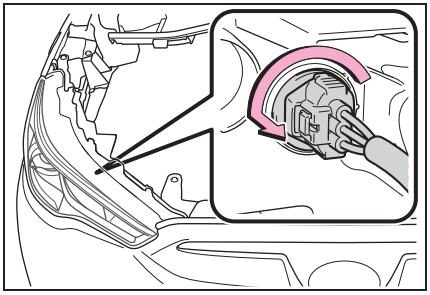
■電球（バルブ）を交換するとき

→P.259

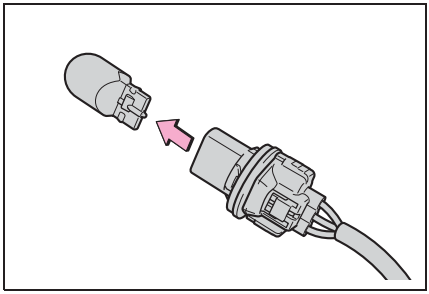
電球交換のしかた

■ 車幅灯（バルブタイプ）

1 ソケットをまわして取りはずす



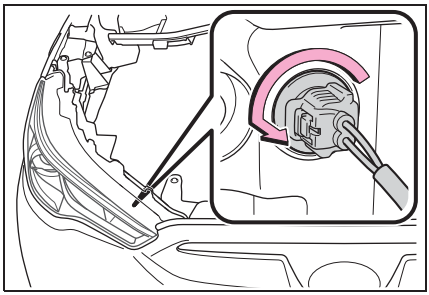
2 電球を取りはずす



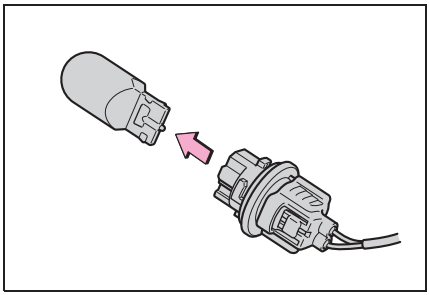
3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）

1 ソケットをまわして取りはずす



2 電球を取りはずす

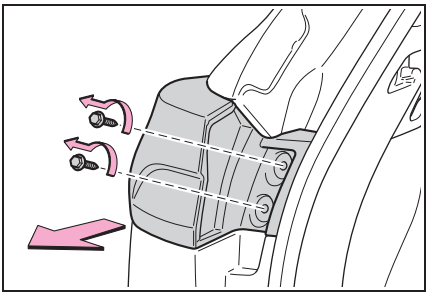


3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

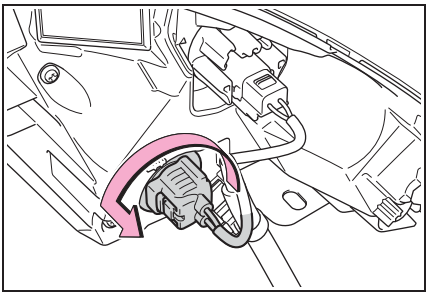
■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

1 バックドアを開ける

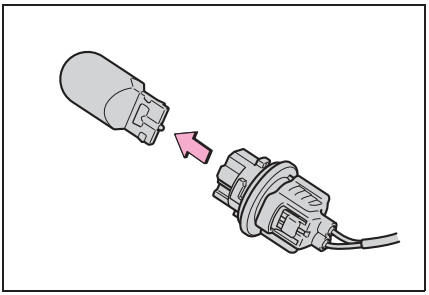
2 ボルト（2 本）をはずし、ランプ本体をまっすぐ後方に引き、取りはずす



3 ソケットをまわして取りはずす



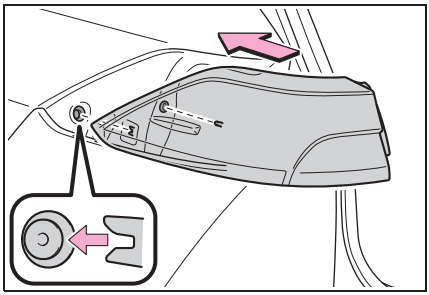
4 電球を取りはずす



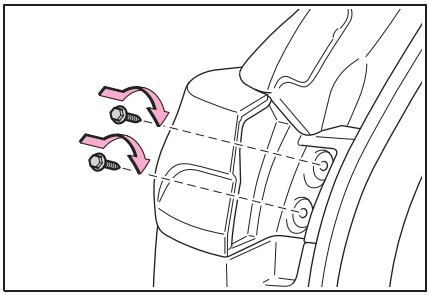
5 電球とソケットを取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

6 ランプ本体を取り付ける

タブの位置を合わせ、ランプ本体を車両前方へ押して取り付けます。



7 ボルト（2 本）を取り付ける

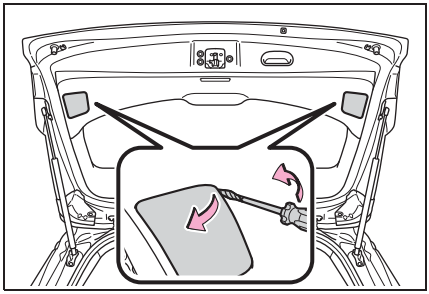


■ **後退灯**

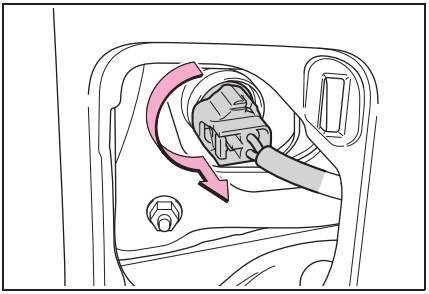
1 バックドアを開け、カバーを取りはずす

マイナスドライバーなどを挿し込み、図のように取りはずします。

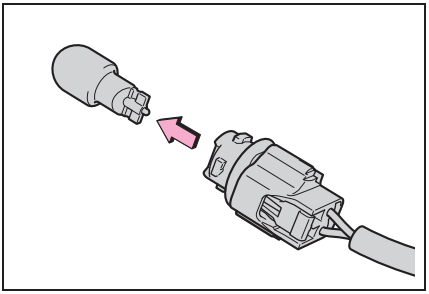
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。



2 ソケットをまわして取りはずす



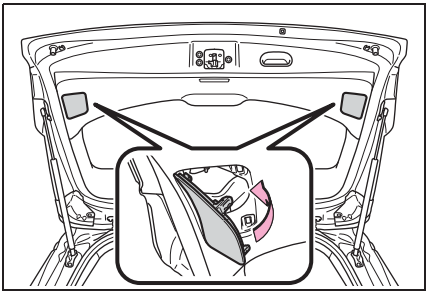
3 電球を取りはずす



4 電球とソケットを取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

5 カバーを取り付ける

カバーのツメを取り付け部に合わせて、取り付けます。



⚠警告

■けがを防ぐために

バルブ交換を実施する前に、エンジンスイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- 発熱を防ぐために、電球を取り付ける前に W（ワット）数を確認してください。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは 266
非常点滅灯（ハザードランプ） 267
発炎筒 267
車両を緊急停止するには 268
水没・冠水したときは 269

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 271
フューエルポンプシャットオフシステム 274
警告灯がついたときは 275
警告メッセージが表示されたときは 281
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車） 283
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車） 294
エンジンがかからないときは 301
キーをなくしたときは 302
電子キーが正常に働かないときは 303
バッテリーがあがったときは 305
オーバーヒートしたときは 308
スタックしたときは 310

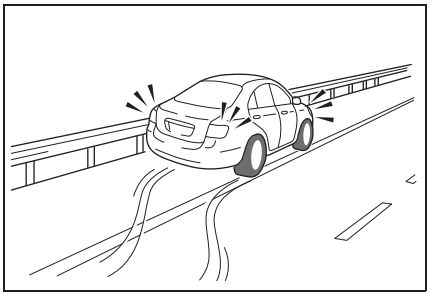
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

● 非常点滅灯（→P.267）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



● 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

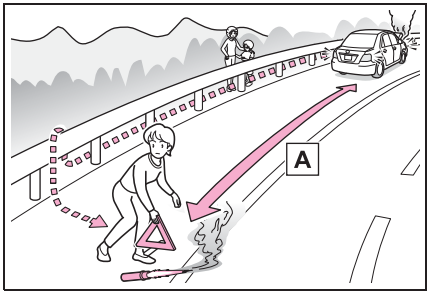
1 同乗者を避難させる

2 車両の 50m 以上後方（A）に発炎筒（→P.267）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

● 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。

● 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでくださ

い。



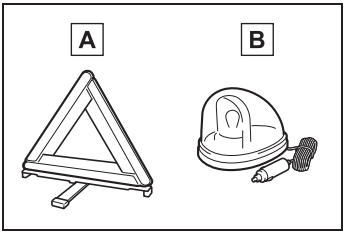
3 その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。

●停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。



A 停止表示板

B 停止表示灯

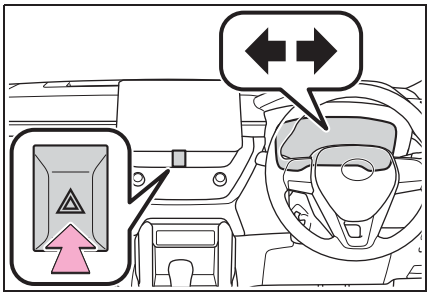
非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

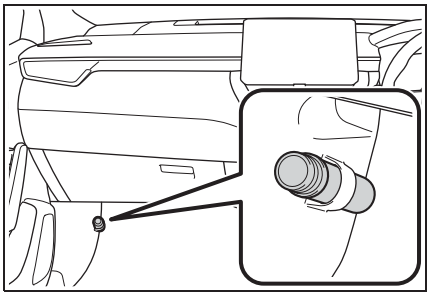
- エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
  非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。
  （衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

発炎筒

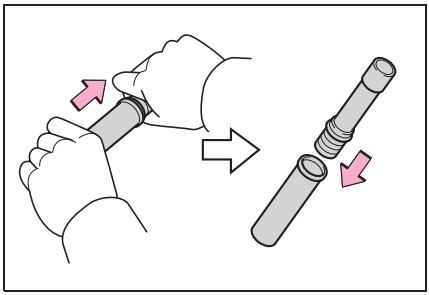
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



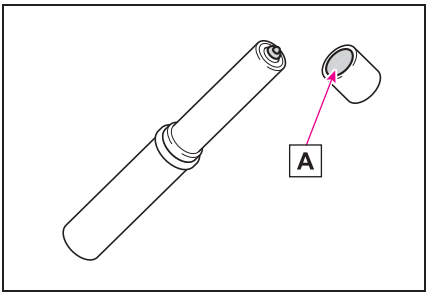
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車両を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

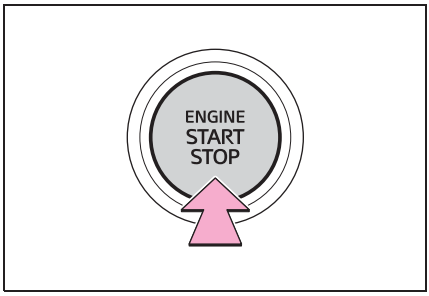
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

⚠ 注意

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

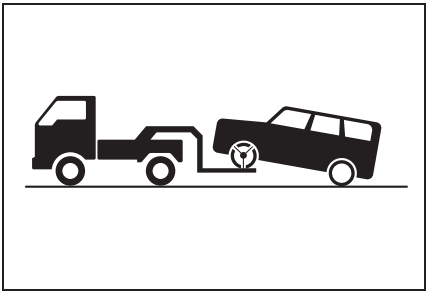
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは

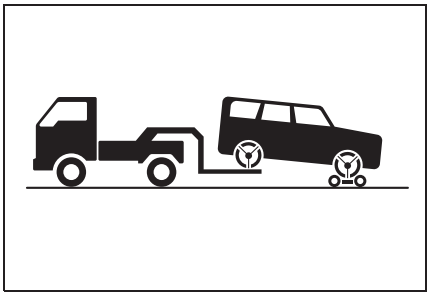


パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。

(→P.127)

▶ うしろ向きにけん引するときは



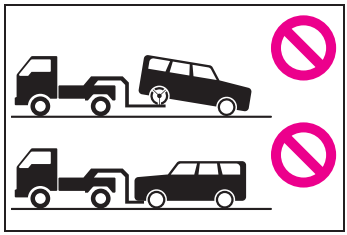
台車を使用して前輪を持ち上げる

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

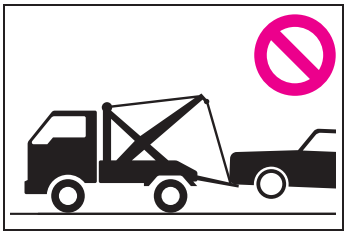
必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



⚠注意

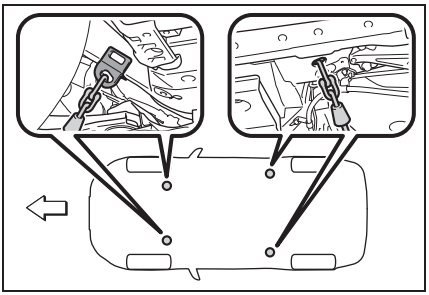
■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

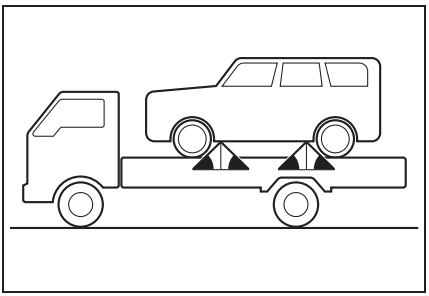


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する



⚠注意

■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

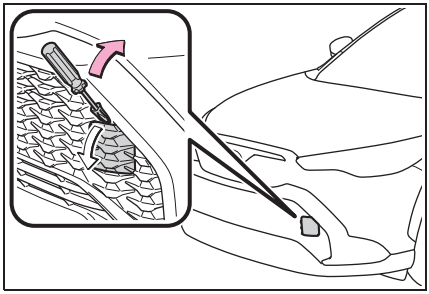
他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

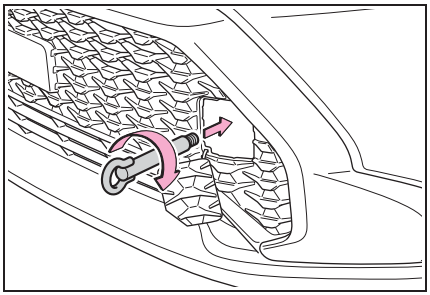
1 ラゲージルーム内のホイールナットレンチ★、マイナスドライバー★、けん引フックを取り出す（→P.285,295）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

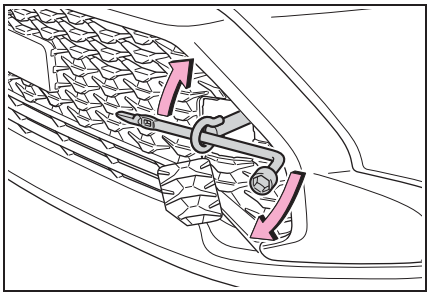
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

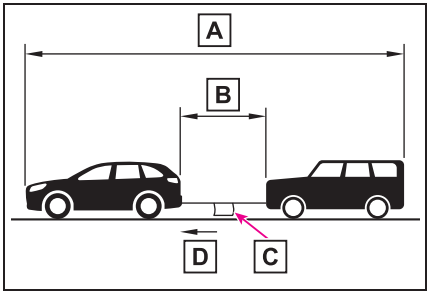


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを ON にしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。
（→P.127）

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。
シフトレバーがシフトできないときは：→P.123

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて★

ラゲージルームに搭載されています。
（→P.285,295）

★：トヨタ販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●エンジンスイッチを OFF にしないでください。ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない

・速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する

・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

・この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

エンジンを始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

1 エンジンスイッチを ACC または OFF にする

2 エンジンを再始動する

⚠ 注意

■エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （赤色）	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

■ ブレーキ警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	パーキングブレーキシステムの異常 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ 高水温警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 → **ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.308）に従ってください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 充電警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

■ 油圧警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●エンジンの異常 ●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 ●トランスミッション電子制御システムの異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ABS &ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ペダル誤操作警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントロールが作動 **→ ただちにアクセルペダルを離してください。** ●パーキングサポートブレーキ（静止物）★作動時 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** ●速く強くアクセルペダルを踏み込んだことにより、急アクセル時加速抑制★が作動 **→ アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。** ブザーが鳴らなかった場合： アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動 **→ アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （赤色／黄色）	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 7L 以下になった **→ 燃料を補給する**

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する** **助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。**

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**

※ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯し続けているとき）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。
リヤドアを開けると、ブザー吹鳴条件が解除されます。

■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （橙色）	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.163）**

■ クリアランスソナー OFF 表示灯★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （点灯）	クリアランスソナーの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.184）**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RCTA OFF 表示灯★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（点滅）	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** レーダーセンサー周辺のリヤバンパー（→P.179）に汚れや付着物がある **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.189）**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB OFF 表示灯★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（点灯）	ブザーが鳴った場合： PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.198, 281）**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PCS 警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
（点滅または点灯）	警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージに従ってください。（→P.146, 281）** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 **→ P.154**

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅）	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性があります。 **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

■ ブレーキホールド作動表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅）	ブレーキホールドシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

知識

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■リヤ席シートベルト非着用警告灯の作動について

●リヤドアを開閉すると約60秒間点灯します。

●いずれかのリヤシートベルトを脱着すると点灯し続けます。点灯し続けているときに、リヤドアを開閉すると約60秒後に消灯します。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

⚠警告

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。
また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→P.275）に従ってください。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

メッセージの内容によってブザーが鳴る場合があります。
状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■“駐車時はPレンジに入れてください”が表示されたときは

駐車時は P にしてください。

■ “エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください” が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■ “エンジン停止のためハンドルが重くなります” が表示されたときは

走行中にエンジンが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ “バッテリー保護のため自動で電源をOff しました” が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにして約 5 分間その回転数を保持し、バッテリーを充電してください。

■ “ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください” が表示されたときは

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●LED ヘッドランプ

●オートマチックハイビーム

■前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。(→P.146, 275)

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●オートマチックハイビーム

●RSA（ロードサインアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

■レーダーの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。(→P.146, 275)

●PCS(プリクラッシュセーフティ)

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

■ “クルーズコントロール 一時使用不可 取扱書を確認ください” が表示されたときは

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。(要因および対処方法 →P.146)

■ “クルーズコントロール現在使用できません” が表示されたときは

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を再設定してください。

■ “アクセルを戻してください” が表示されたときは

次の機能が作動したときに表示されます。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

●ドライブスタートコントロール (→P.115)

●プラスサポート（販売店装着オプション）（→P.210）

■販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

● “エンジン冷却水高温” が表示されたときは、対処方法（→P.308）に従ってください。

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・“スマートエントリー&スタートシステム故障”

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

・“故障のためブレーキ力が低下します”
・“充電システム故障”
・“エンジン油圧不足”

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P.283）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠警告

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

● 地面が固く平らで安全な場所に移動する
● パーキングブレーキをかける
● シフトレバーを P にする
● エンジンを停止する

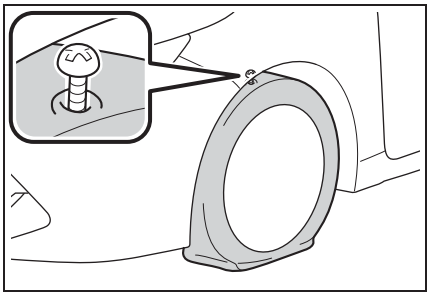
● 非常点滅灯を点滅させる

● タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき

●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき

●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき

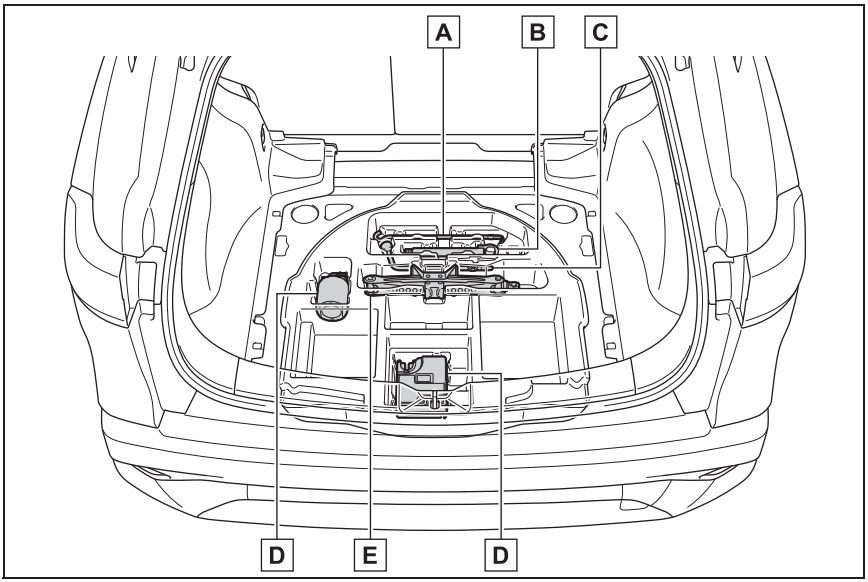
●タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき

●ホイールが破損しているとき

●2本以上のタイヤがパンクしているとき

●1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



A ジャッキハンドル★

B けん引フック

C ホイールナットレンチ★

D タイヤパンク応急修理キット

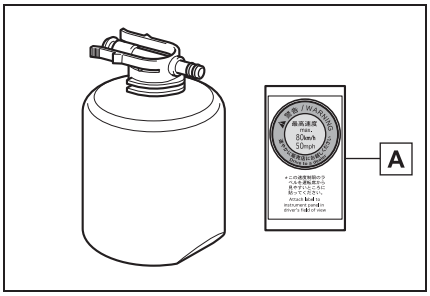
E ジャッキ※★

※ ジャッキの使い方（→P.296）

★：トヨタ販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。

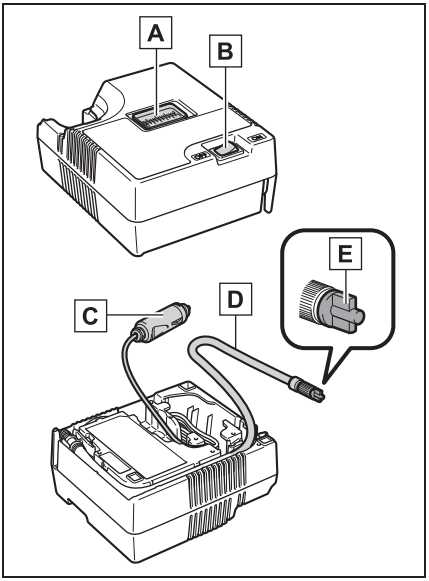
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

▶ ボトル



A 速度制限ラベル

▶ コンプレッサー



A 空気圧計
B 電源スイッチ
C 電源プラグ
D ホース
E 空気逃がしキャップ

知識

■応急修理キットについて

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が-30℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■応急修理キットの点検について

●パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。

●有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠警告

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

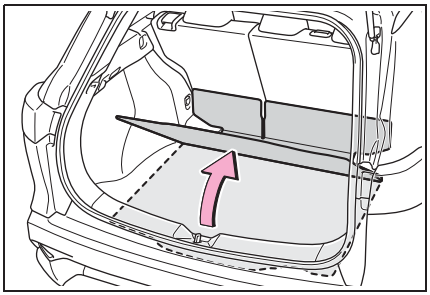
⚠ 警告

■パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

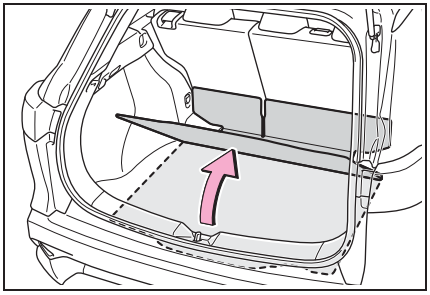
1 デッキボードを開く



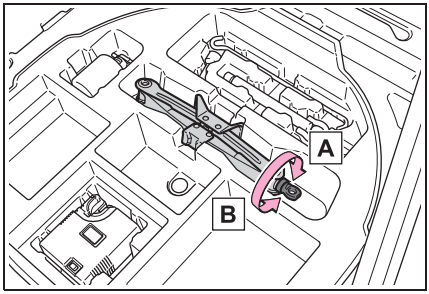
2 応急修理キットを取り出す（→P.285）

ジャッキ★の取り出し方

1 デッキボードを開く



2 ジャッキをゆるめて取りはずす



A 締まる

B ゆるむ

ジャッキを収納するときは、ジャッキを締めてトレイへ押し付けてください。

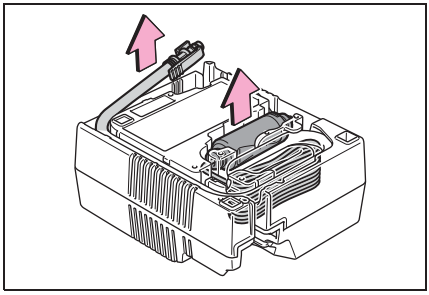
★：トヨタ販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。

応急修理するときは

1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

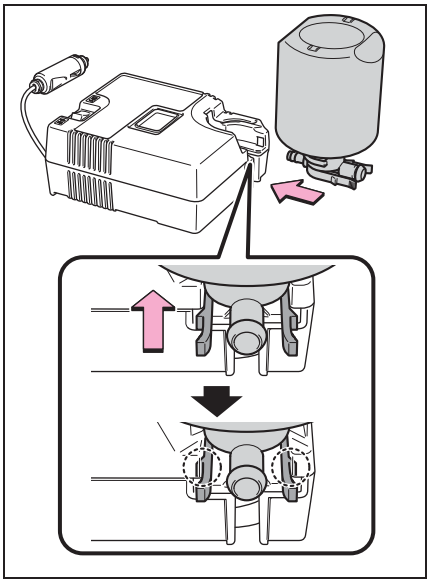
ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。（手順 **10** へ）

2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



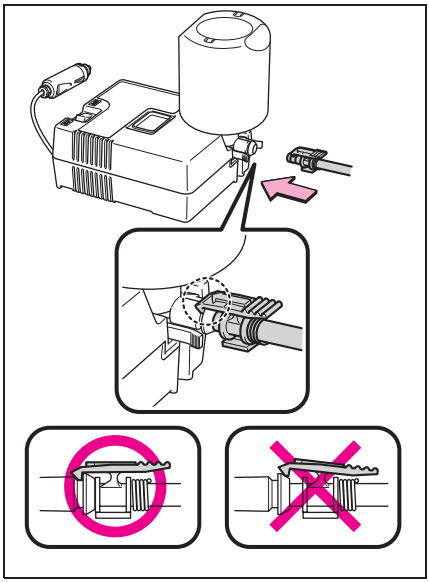
3 ボトルをコンプレッサーに接続する

図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。

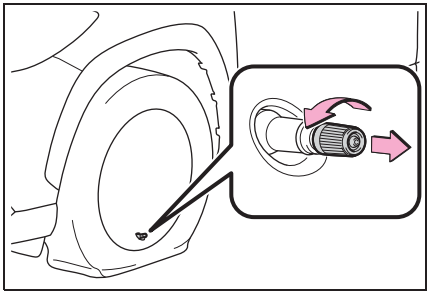


4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。



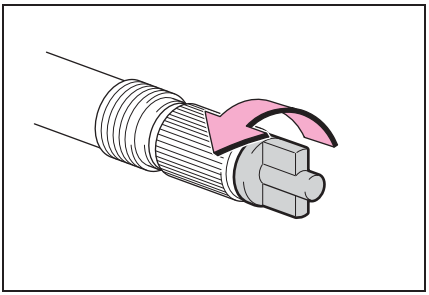
5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



6 ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす

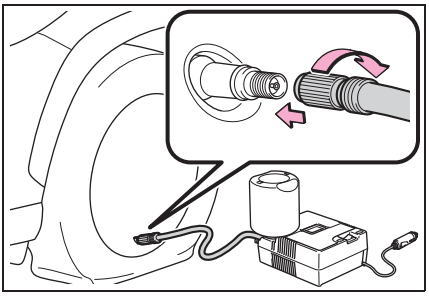
空気逃がしキャップは再度使用するため、

なくさないように保管してください。

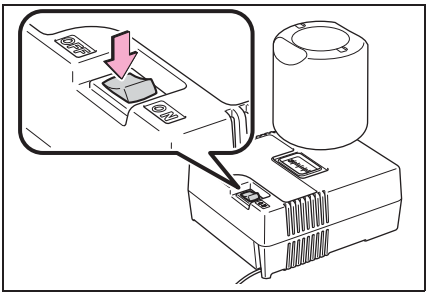


7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

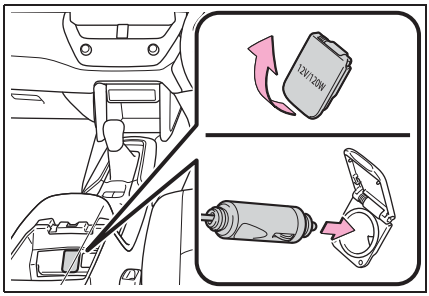
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



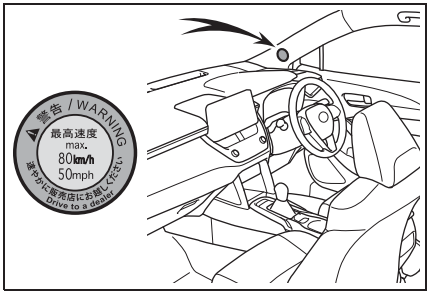
8 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する



9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P.237）

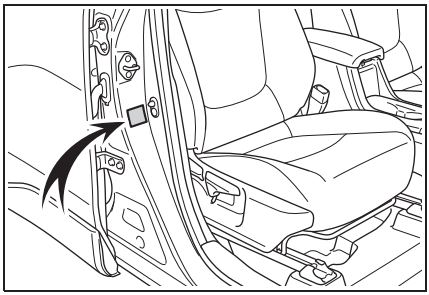


10運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける



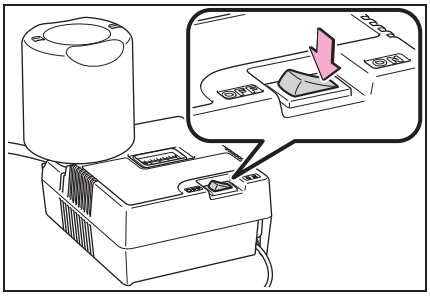
11タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→P.251）

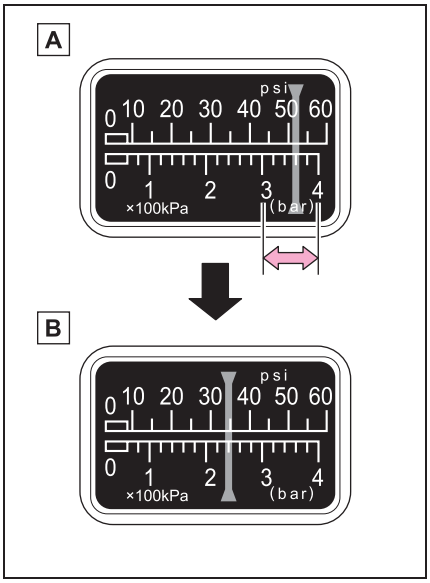


12エンジンを始動する

13コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



14空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する



A 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa（3.0 ～ 4.0kg/cm^2）まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチを ON にしてから約 1 ～ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ～ 20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
（→P.291, 315）

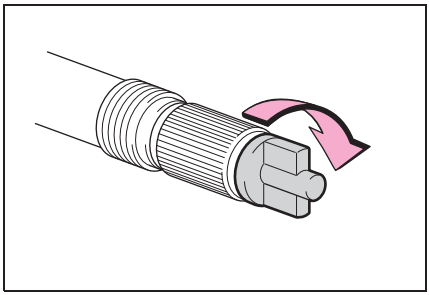
15コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

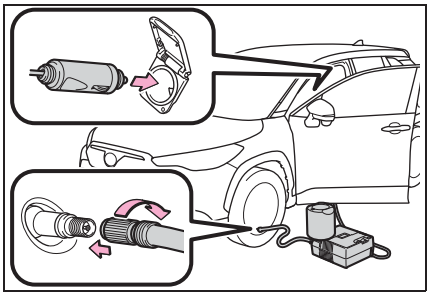


18いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

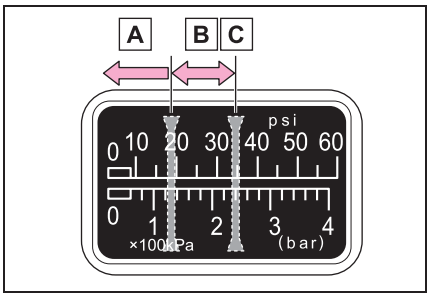
19タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5 km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

20走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください



21コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する



A 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

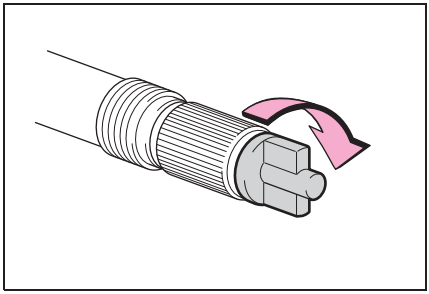
B 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ

C 空気圧が指定空気圧（→P.315）の場合：手順 **23** へ

22コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5 km 走行後にあらためて手順 **20** から実施する

23ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

25急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、走行距離が約100km 以内、80km/h 以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

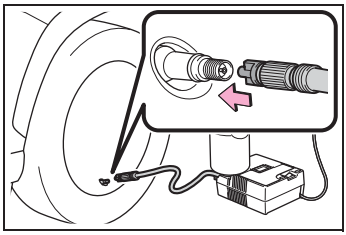
トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

⚠警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
  走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
  手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

⚠ 警告

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください

●応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

・空気圧を確認してください。
130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■応急修理をするとき

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

●応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。

●応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。（タイヤについての詳しい説明は P.251 を参照してください）

⚠警告

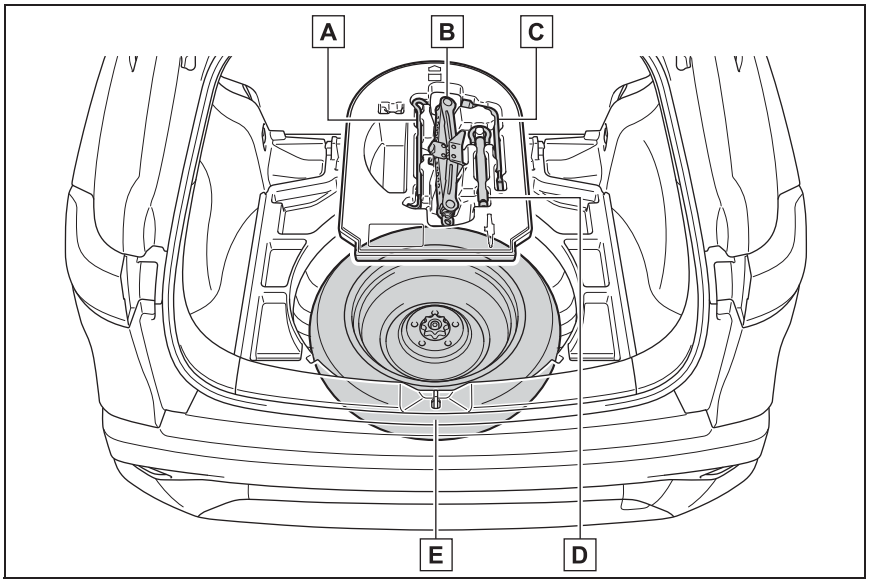
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

工具とジャッキの位置



A ジャッキハンドル

B ジャッキ

C ホイールナットレンチ

D けん引フック

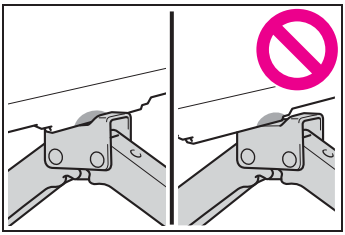
E 応急用タイヤ

⚠ 警告

■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける（→P.296）



- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない

⚠ 警告

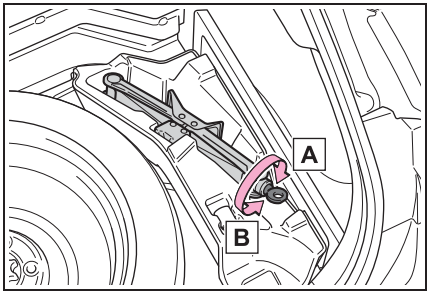
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキ★の取り出し方

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

1 デッキボードを開く（→P.231）

2 ジャッキをゆるめて取りはずす



A 締まる

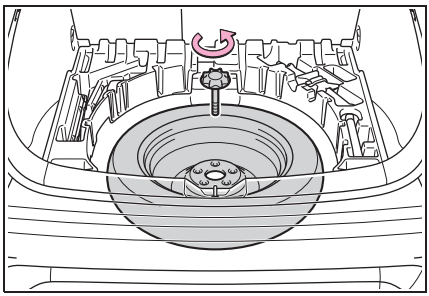
B ゆるむ

ジャッキを収納するときは、ジャッキを締めてトレイへ押し付けてください。

応急用タイヤの取り出し方

1 デッキボードを開く（→P.231）

2 留め具をはずし、スペアタイヤを取り出す



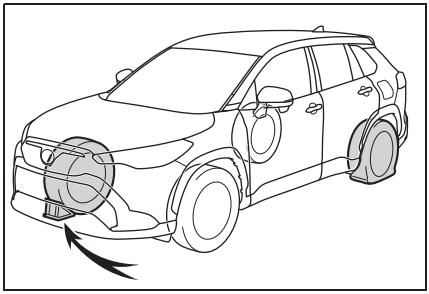
⚠ 警告

■応急用タイヤを収納するとき

ボディと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

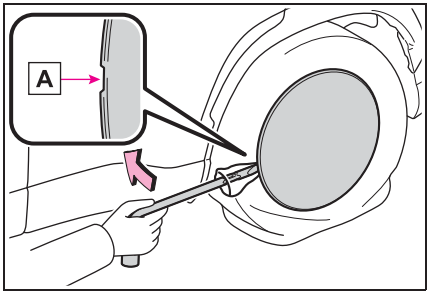


パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左側前輪	右側後輪うしろ
右側前輪	左側後輪うしろ
左側後輪	右側前輪前
右側後輪	左側前輪前

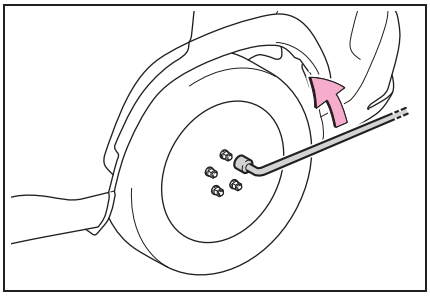
※輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

2 ホイールキャップをはずす（スチールホイールのみ）

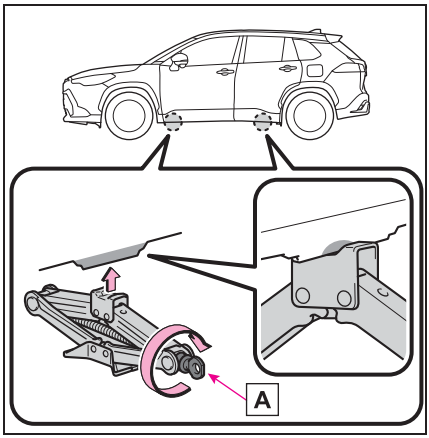
ホイールナットレンチを、ホイールキャップ外周上にある切り欠き部Aに挿入してください。
傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。



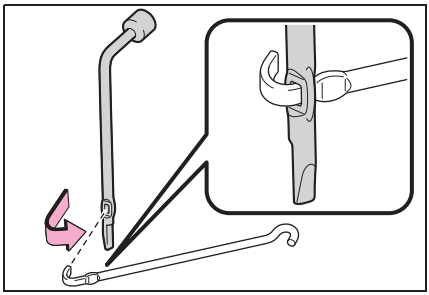
3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



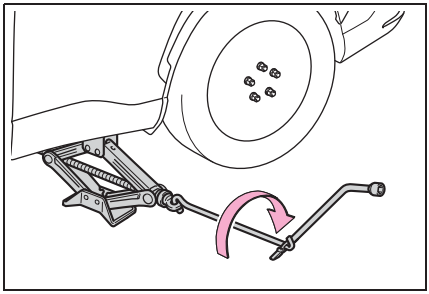
4 ジャッキ頭部の凹み部が、ジャッキセット位置の中央あたりに軽くあたるまで、ジャッキのA部を手でまわす



5 ホイールナットレンチをジャッキハンドルに組み付ける



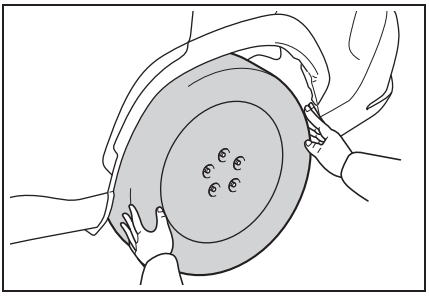
6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイー

ルの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



⚠警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

・ホイールの交換後は、すぐに103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める

・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

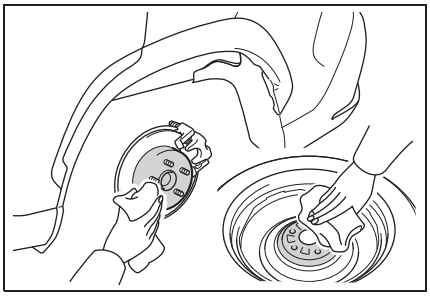
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける。

応急用タイヤの取り付け

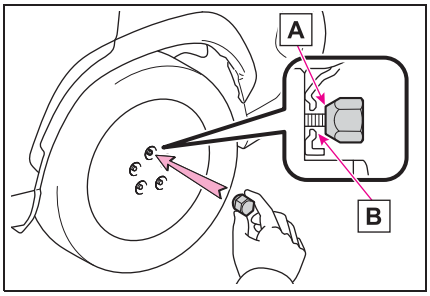
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



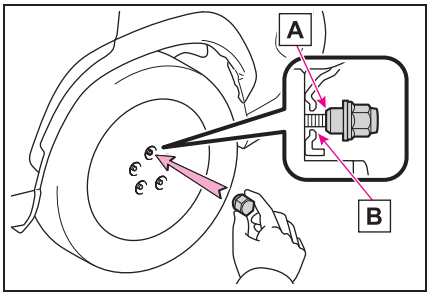
2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

スチールホイールから応急用タイヤにかえるとき：ナットのテーパー部A がホイールのシート部B に軽くあたるまでまわす

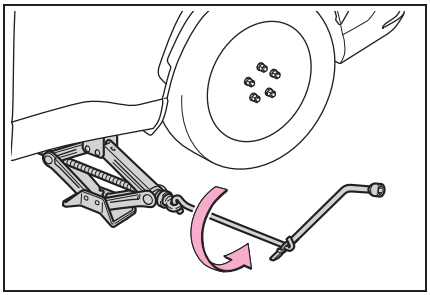


アルミホイールから応急用タイヤにかえ

るとき：ナットのテーパー部Aがホイールのシート部Bに軽くあたるまでまわす

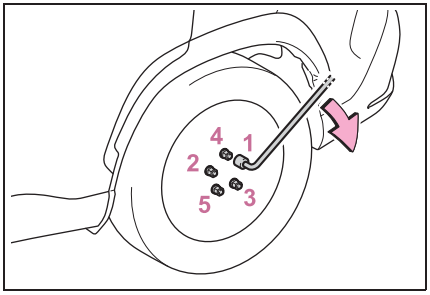


3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：103N・m（1050kgf・cm）



5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。（→P.315）

■応急用タイヤを装着しているとき

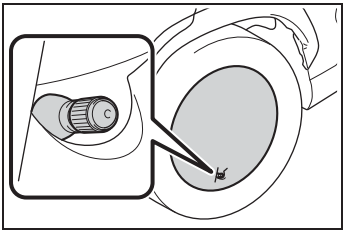
標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

1 後輪を応急用タイヤに交換する
2 パンクした前輪をはずした後輪に交換する
3 タイヤチェーンを前輪に装着する

■ホイールキャップを取り付ける時は（スチールホイール装着車）

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けてください。



警告

■応急用タイヤを使用するとき

- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

⚠ 警告

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

●摩耗限度（トレッドウェアインジケーターまたはスリップサイン）をこえて使用しないでください。

■応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS
・ブレーキアシスト
・VSC
・オートマチックハイビーム
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
・TRC
・EPS
・PCS（プリクラッシュセーフティ）
・LTA（レーントレーシングアシスト）
・クリアランスソナー★
・RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときは注意してください。

■タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P.118）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。再度、正しい手順（→P.118）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.50）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P.305）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P.301）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P.305）
- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. エンジンスイッチを ON にし、パーキングブレーキがかかっていることを確認する（→P.120, P.126）
2. シフトレバーが P の位置にあることを確認する
3. エンジンスイッチを ACC にする
4. ブレーキペダルをしっかり踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちに

トヨタ販売店で点検を受けてください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

⚠ 注意

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.92）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステム★とワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■電子キーが正常に働かないときは

●車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P.316）

●電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
設定されている場合は解除してください。（→P.92）

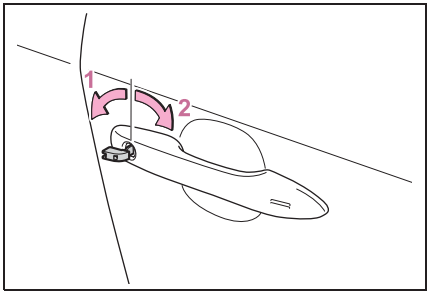
注意

■スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアの施錠・解錠

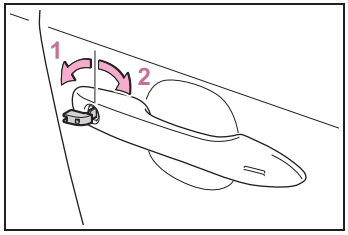
メカニカルキー（→P.74）を使って次の操作ができます。



1 全ドア解錠
2 全ドア施錠

知識

■キー連動機能



1 ドアガラスが開く（まわし続ける）※
2 ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

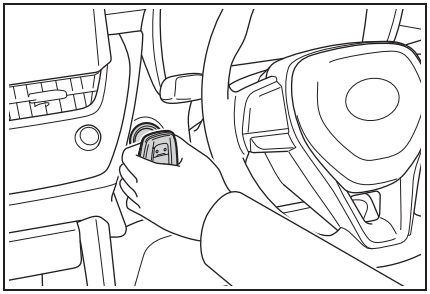
エンジン始動の方法

1 シフトレバーがPの状態でブレーキペダルを踏む

2 電子キーのトヨタエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっているときは、ACCへ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する

4 エンジンスイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止方法

通常のエンジン停止のしかたと同様に、シフトレバーをPにし、パーキングブレーキをかけて、エンジンスイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.256)

■モードの切りかえ

エンジン始動方法の手順3で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.120)

バッテリーがあがったときは

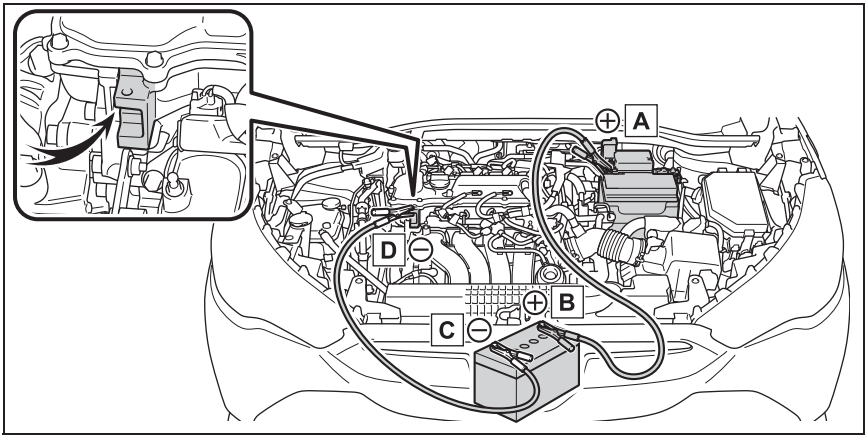
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

エンジンを再始動するには

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

1 ボンネットを開ける（→P.248）

2 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子[A]につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子[B]につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子[C]につなぎ、もう一方の端を未塗装の金属部[D]につなぐ



[A] バッテリーの＋端子（自車）

[B] バッテリーの＋端子（救援車）

[C] バッテリーの－端子（救援車）

[D] 未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）

3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

4 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

5 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん ON にしてからエンジンを始動する

6 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがってしまったときは

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

●初期設定が必要な機能があります。（→P.324）

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■バッテリーあがり時や取りはずし時など

●バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■バッテリーを交換するときは

●欧州規格バッテリーを使用してください。

●交換前と同一のケースサイズ（LN1）、20 時間率容量（20HR）が同等（45Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（285A）以上のバッテリーを使用してください。

・大きさが異なると、バッテリーが正しく固定されません。

・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であってもバッテリーがあがって、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。

●詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠警告

■バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

■バッテリーのマイナス端子について

ボデーに接続されたバッテリーのマイナス端子をはずさないでください。
誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

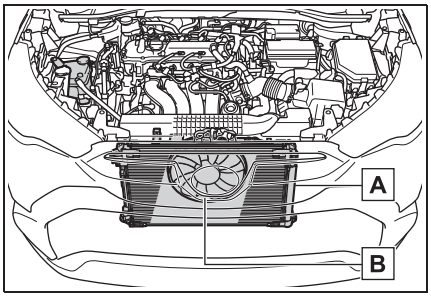
- 水温計（→P.56, 59）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに “エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください” が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

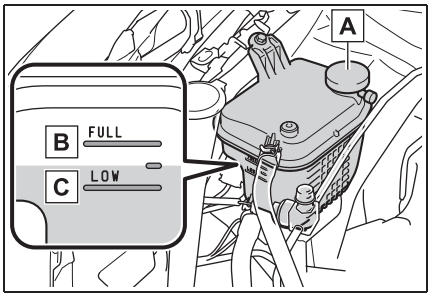


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの “FULL”（上限）と “LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバータンク

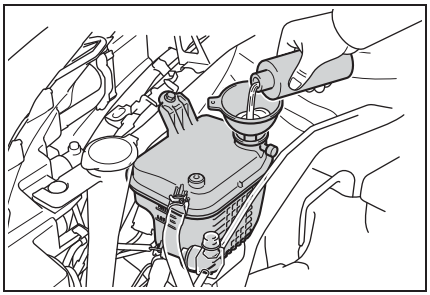
B “FULL”（上限）

C “LOW”（下限）

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水

を補給してください。



6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

⚠ 警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱いうちはリザーバータンクキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

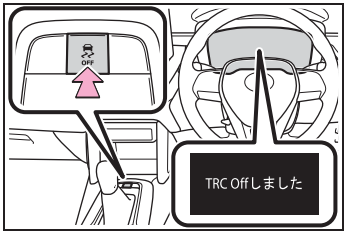
脱出するには

1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、エンジンを停止する
2 前輪周辺の土や雪などを取り除く
3 前輪の下に木や石などをあてがう
4 エンジンを再始動する
5 シフトレバーを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

スイッチを押して TRC を OFF にしてください。



警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 312

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 316

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... 324

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	47 L

※ エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

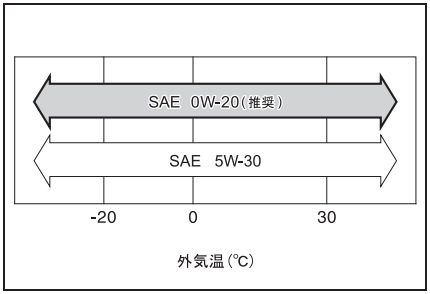
エンジンオイル

指定銘柄	容量［L］（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	3.9 L	4.2 L

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



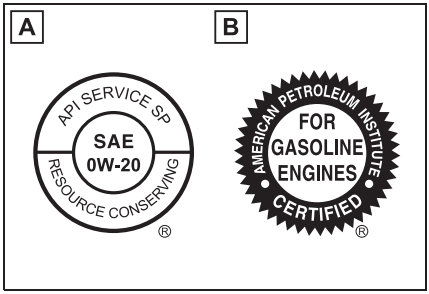
オイル粘度について（例として0W-20で説明します）：

・ 0W-20の0Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。Wの前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・ 0W-20の20は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

■ **指定エンジンオイル**

API規格SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RCか、ILSAC規格に合致したオイルをご使用ください。0W-20は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-20が入手困難な場合は、5W-30もご使用いただけます。なお、ILSAC規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。



A APIマーク

B ILSAC CERTIFICATIONマーク

ラジエーター

指定銘柄	容量［L］（参考値）	
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度30%　－12°C 濃度50%　－35°C	エンジン	5.8

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量［L］（参考値※）
トヨタ純正CVTフルードFE	7.6

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください

⚠ 注意

■CVT フルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	124

※ エンジン回転時に 300N（30.6kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目 （エンジン始動時）	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で引いたとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で押したとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯しないことを確認してください。

（警告灯が点灯した場合の対処については、P.275 を参照してください）

ウォッシャータンク

容量［L］（参考値）
4.8

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	215/60R17 96H	17 × 6 1/2J	230（2.3）	230（2.3）
	225/50R18 95V	18 × 7J		
応急用タイヤ★	T155/70D17 110M	17 × 4T	420（4.2）	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	車幅灯（バルブタイプ）	5
	フロント方向指示灯（バルブタイプ）	21
	リヤ方向指示灯	21
	後退灯	16

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
ZSG10	2ZR-FAE（1.8L ガソリン）	FF（前輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチメディア・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

設定を変更するには

■ マルチメディアで設定するには

1 “MENU” スイッチを押し、「設定・編集」を選択する
2 「設定・編集」画面の「車両」を選択する
3 「車両カスタマイズ」を選択する
4 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する
5 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）・「しない」（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「−」を選択してレベルを調整します。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1 メーター操作スイッチの ❮ または ❯ を押して ⚙ を選択する
2 ∧または∨を押して設定変更したい項目にカーソルを合わせる
3 OK スイッチを短押しまたは長押しする

OK スイッチの短押し・長押しで設定できる内容が異なります。
画面に表示されている内容に従って操作してください。

⚠ 警告

■カスタマイズ設定を行うとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■カスタマイズを行うときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

A マルチメディアの画面操作で設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

C トヨタ販売店で設定変更可能

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→P.52, 56, 59, 62）

機能の内容 ※1	初期設定	変更後	A	B	C
言語	日本語	英語	—	○	—
単位	km/L	L/100km	—	○	—
メーター表示 ※2	アナログ	デジタル	—	○	—
エコドライブインジケーター	あり（自動点灯）	なし	—	○	—
燃費ランキング	非表示	表示	—	○	—
燃費推移	非表示	表示	—	○	—
燃費履歴	非表示	表示	—	○	—
燃費グラフ	リセット間平均燃費	始動後平均燃費 給油後平均燃費	—	○	—
燃費推移	1 分間刻み	5 分間刻み	—	○	—
オーディオシステム連携表示	あり	なし	—	○	—
ドライブインフォタイプ	始動後	リセット間	—	○	—
ドライブインフォ項目（1 行目）	走行距離	平均車速 走行時間	—	○	—
ドライブインフォ項目（2 行目）	走行時間	平均車速 走行距離	—	○	—
割り込み表示	あり	なし	—	○	—

※1機能についての詳しい説明は P.67 を参照してください

※27 インチディスプレイ

■ パワーバックドア★（→P.78, P.90）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
パワーバックドア機能	あり	なし	—	○	—
ハンズフリーパワーバックドアの作動	あり	なし	—	○	—

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
パワーバックドア開度調節	開度 5	開度 1 ～ 5	—	○	—
		ユーザー設定			
ブザー音量	レベル 3	レベル 1	—	○	—
		レベル 2			

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→P.75, 91）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 5	OFF	○	—	○
		レベル 1 ～ 7			
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	—	○
		120 秒			
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○

■ スマートエントリー&スタートシステム（→P.75, 91）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	○	—	○
解錠されるドアの選択※	全席解錠	運転席のみ解錠	○	—	○
全席解錠までのドアハンドル保持時間※	非作動	1.5 秒	—	—	○
		2.0 秒			
		2.5 秒			
連続ロック操作の有効回数※	2 回	無制限	—	—	○

※ スマートエントリーシステム装着車

■ ワイヤレスドアロック（→P.72, 75）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○
解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	○

■ ドアミラー（→P.103）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	—	○
		エンジンスイッチと連動			

■ パワーウインドウ（→P.105）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	あり	なし	—	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P.131）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ライトセンサーの感度調整	-2	-2 ～ 2	○	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	運転席ドアと連動	エンジンスイッチと連動	—	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	なし	あり	—	—	○

■ ランプ（→P.131）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
デイタイムランニングランプ★	あり	なし	○	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.148）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プリクラッシュセーフティ※	あり／なし	—	○	—
警報タイミング	早い／中間／遅い	—	○	—

※ エンジンスイッチを ON にすると設定を「なし」にしても「あり」に戻ります。

■ LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.155）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
車線維持支援機能（センタートレース）	あり／なし	—	○	—
操舵支援機能	あり／なし	—	○	—
警報感度	高／普通	—	○	—
ふらつき警報機能	あり／なし	—	○	—
ふらつき警報機能の感度	高／普通／低	—	○	—

■ RSA（ロードサインアシスト）（→P.164）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
RSA（ロードサインアシスト）機能	あり／なし	—	○	—
制限速度超過告知	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	—	○	—
制限速度超過の告知車速	2km/h ／ 5km/h ／ 10km/h	—	○	—
追い越し禁止告知	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	—	○	—
その他の告知（進入禁止告知）	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	—	○	—

■ 先行車発進告知機能（→P.175）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先行車発進告知機能	あり／なし	—	○	—
告知タイミング	早い／普通／遅い	—	○	—

■ BSM（ブラインドスポットモニター）★（→P.177）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ブラインドスポットモニター機能	あり	なし	—	○	—
ドアミラーインジケーターの明るさ	明るい	暗い	—	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）	普通	早い	—	○	—
		遅い			
		死角領域の車両のみ検知			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー★（→P.182）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
クリアランスソナー機能	あり	なし	—	○	—
ブザー音量	レベル 2	レベル 1	—	○	—
		レベル 3			
フロントセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	—	—	○
リヤセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	—	—	○
コーナーセンサーの検知可能距離	遠い	近い	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★（→P.188）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能	あり	なし	—	○	—
ブザー音量	レベル 2	レベル 1	—	○	—
		レベル 3			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）★（→P.193）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能	あり	なし	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドライブスタートコントロール（→P.131）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
後退速度の抑制制御	あり	なし※	—	○	—

※「なし」に変更しても、エンジンスイッチを ON にするたびに「あり」に戻ります。

■ エアコン（→P.216）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	○

■ イルミネーション（→P.225）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
エンジンスイッチ OFF 後の照明の点灯	あり	なし	—	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
ドアトリム照明★、センタートレイ照明★、カップホルダ照明★の点灯	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量調整）”の設定に依存します。

■車両カスタマイズ画面について

次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車両カスタマイズ画面は自動的に終了します。

- 車両カスタマイズ画面表示後に警告メッセージが表示された
- エンジンスイッチが OFF になった
- 車両カスタマイズ画面表示中に走行し始めた

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

初期設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワーバックドア★	・バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.78

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
..... 326
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 328
アルファベット順さくいん..... 329
五十音順さくいん 330

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.302）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.302）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.256）
- エンジンスイッチが ON になっていませんか？

施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。（→P.120）

- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？

施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。

- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.92）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.78）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P.118）
- シフトレバーは P になっていますか？（→P.118）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.91）
- ステアリングロックされていませんか？（→P.118）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？

このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。（→P.304）

- バッテリーがあがっていませんか？（→P.305）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

● エンジンスイッチは ON になっていますか？

エンジンスイッチが ON でブレーキを踏んでも解除できないときは（→P.123）を参照してください。

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

● 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P.118）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

● ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P.107）

エンジンスイッチが自動的に OFF になった

● 一定時間 ACC または ON（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.120）

警告音が鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.328）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.275、281 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

● タイヤパンク応急修理キット装着車：車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.283）

● 応急用タイヤ装着車：車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→P.294）

立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.310）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P.281
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.256
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.91
	電子キーを車内に置き忘れている	P.281

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドアが確実に閉まっていない	P.78
	パーキングブレーキが解除されていない	P.128
	シートベルトを着用していない※	P.278
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.124
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.113
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.172
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.148
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P.155
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.164
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナー★が作動した	P.182
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★が作動した	P.188

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）.....216
ABS
（アンチロックブレーキシステム）
.....204
ACA
（アクティブコーナリングアシスト）
.....204
BSM
（ブラインドスポットモニター）
.....177
EDR
（イベントデータレコーダー）.....6
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）.....204
FF
（フロントエンジンフロントドライブ）.....315
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）.....313
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）.....36
LED
（ライトエミッティングダイオード）
.....131
LTA
（レーントレーシングアシスト）
.....155
PCS
（プリクラッシュセーフティ）..148
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）
.....193
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）
.....188
RSA
（ロードサインアシスト）.....164
S-FLOW
フロント席集中送風モード.....220
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）.....28
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）204
Toyota Safety Sense
LTA（レーントレーシングアシスト）.....155
PCS（プリクラッシュセーフティ）
.....148
RSA（ロードサインアシスト）164
オートマチックハイビーム.....134
先行車発進告知機能.....175
レーダークルーズコントロール
.....167
TRC
（トラクションコントロール）204, 310
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）.....204

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）.....305
アームレスト.....237
アウターミラー（ドアミラー）
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....188
格納のしかた.....104
操作.....103
ブラインドスポットモニター（BSM）177
ミラーヒーター.....219
アクセサリーソケット.....237
アクセサリーモード.....120
アクティブコーナリングアシスト（ACA）.....204
アシストグリップ.....239
アラーム
音さくいん.....328
警告ブザー.....275
アンチロックブレーキシステム（ABS）.....204
警告灯.....276
アンテナ（スマートエントリー&スタートシステム）.....91

い

イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）
エンジンのかけ方.....118
自動電源 OFF 機能.....120
車両を緊急停止するには.....268
モードの切りかえ.....120
位置交換（タイヤローテーション）.252
イベントデータレコーダー（EDR）.....6
イモビライザーシステム.....50
イルミネーテッドエントリーシステム.....226
インジケーター（表示灯）.....54
インテリアランプ.....225
インナーミラー.....102

う

ウインカー（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換.....260
方向指示レバー.....125
ウインドウ
ウォッシャー.....138
パワーウインドウ.....105
リヤウインドウデフォッガー.....219
ウインドウロックスイッチ.....107
ウォッシャー
液の補給.....250
スイッチ（フロント）.....138
スイッチ（リヤ）.....140
タンク容量.....314
冬の前の準備・点検.....212
フロント.....138
リヤ.....140
動けなくなったときは（スタック）.310
運転
雨の日の運転.....110
運転を補助する装置.....204
寒冷時の運転.....212
正しい運転姿勢.....23
手順.....110
運転支援機能情報表示.....66
運転席シートベルト非着用警告灯...278

え

エアコン
オートエアコン.....216
曇り取り（フロントガラス）.....219
フィルターの清掃.....254

フロント席集中送風モード（S-FLOW）.....220
エアコン・デフォッガー.....216
エアバッグ
SRS エアバッグ警告灯.....276
改造・廃棄.....33
警告ブザー.....276
作動条件.....29
正しい姿勢.....23
配置.....28
エコドライブインジケーター.....65
エレクトリックパワーステアリング（EPS）.....204
警告灯.....277
エンジン
イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）.....118
エンジンイモビライザーシステム.....50
エンジンがかからない（エンジンが始動できない）.....301
エンジンスイッチ.....118
エンジンの始動方法.....118
オーバーヒート.....308
緊急時の停止方法.....268
タコメーター.....56, 59
フューエルポンプシャットオフシステム.....274
ボンネット.....248
エンジンイモビライザーシステム.....50
エンジンオイル
警告灯.....276
冬の前の準備・点検.....212
メンテナンスデータ.....312
容量.....312
エンジン回転計（タコメーター）56, 59
エンジンスイッチ
エンジンのかけ方.....118
自動電源 OFF 機能.....120
モードの切りかえ.....120
エンジンフード（ボンネット）
開け方.....248
エンジンルーム.....248
エンジンルームから蒸気が出ている...308

お

オイル（エンジンオイル）.....312
応急用タイヤ.....294
交換方法.....294
オーディオシステム連携表示.....66
オートエアコン.....216
オートマチックハイビーム.....134
オーバーヒート.....308
オープナー
給油扉.....142
バックドア.....80
ボンネット.....248
オープントレイ.....229
おくだけ充電（ワイヤレス充電器）.233
お子さまを乗せるとき
ウインドウロックスイッチ.....107
お子さまの安全のために.....35
キーの電池.....257
シートベルトの着用.....25, 26
ステアリングヒーター・シートヒーターに関する警告.....223
チャイルドシート.....36
チャイルドシートの取り付け.....36
チャイルドプロテクター.....78
発炎筒の取り扱いに関する警告.....268
バッテリーに関する警告.....307
パワーウインドウに関する警告.....106
オドメーター／トリップメーターディスプレイ.....57, 62
表示切りかえボタン.....57, 62
表示項目.....58, 62

か

カーテンシールドエアバッグ.....28
カードホルダー.....230
カーペット
洗浄.....245
フロアマットの取り付け方.....22
外気温度表示.....56, 59
外装の電球（バルブ）.....260
交換要領.....260
ワット数.....315
買い物フック.....230
カスタマイズ機能.....316
型式.....315
カップホルダー.....228
カメラ
前方カメラ（PCS）.....143
白線認識用カメラ（LTA）.....155
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）.....219
ガレージジャッキ.....249
冠水路走行.....115
寒冷時の運転.....212

き

キー
エンジンが始動できない.....301
キーナンバープレート.....72
キーの構成.....72
キーレスエントリー.....73, 91
キーをなくした.....302
正常に働かない.....303
施錠・解錠ができない.....303
電子キー.....72
電池が切れた.....256
メカニカルキー.....74
ワイヤレスリモコン.....73
キーレスエントリー
スマートエントリー&スタートシステム.....91
ワイヤレスドアロック.....73
給油
給油のしかた.....141
メンテナンスデータ.....312
緊急時シートベルト固定機構.....26
緊急時の対処
エンジンが始動できない.....301
オーバーヒートした.....308
キーの電池が切れた.....256, 303
キーをなくした.....302
警告灯がついた.....275
警告メッセージが表示された.....281
けん引.....271
故障したときは.....266
車両を緊急停止する.....268
水没・冠水したときは.....269
スタックした.....310
電子キーが正常に働かない.....303
発炎筒.....267
バッテリーがあがった.....305
パンクした.....283, 294
緊急ブレーキシグナル.....204

く

空気圧（タイヤ）
メンテナンスデータ.....315
区間距離計（トリップメーター）57, 62
曇り取り
フロントガラス.....219
ミラーヒーター.....219
リヤウインドウデフォッガー.....219
クラクション（ホーン）.....101
クリアランスソナー.....182
警告メッセージ.....184
操作.....183

クリアランスランプ（車幅灯）
スイッチ 131
電球（バルブ）の交換 260
クリップ
フロアマット 22
クルーズコントロール
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き） 167
グローブボックス 228

け

警音器（ホーン） 101
計器類（メーター） 56, 59
警告灯 275
RCTA OFF 表示灯 279
ABS & ブレーキアシスト 276
SRS エアバッグ 276
LTA 表示灯 278
エンジン 276
クリアランスソナー OFF 表示灯 278
高水温 275
シートベルト非着用 278
充電 275
スリップ表示灯 280
燃料残量 277
パーキングブレーキ表示灯 280
パワーステアリング 277
PKSB OFF 表示灯 279
PCS 279
ブレーキ 275
ブレーキホールド作動表示灯 280
ペダル誤操作警告灯 277
油圧 276
警告ブザー
RCTA（リヤクロストラフィックアラート） 279
ABS & ブレーキアシスト 276
SRS エアバッグ 276
LTA（レーントレーシングアシスト） 158, 278
エンジン 276
クリアランスソナー 278
高水温 275
シートベルト非着用 278
衝突警報 148
接近警報（レーダークルーズコントロール） 172
手放し運転警告（LTA） 162
パワーステアリング 277
半ドア 76
半ドア走行時 78
PKSB（パーキングサポートブレーキ） 279
ふらつき警報機能（LTA） 163
プリクラッシュセーフティシステム 279
プリクラッシュブレーキ 148
ブレーキ 275
ブレーキホールド 280
ペダル誤操作警告灯 277
窓開 106
油圧 276
リバース 122
警告メッセージ 281
化粧ミラー（バニティミラー） 239

こ

交換
キーの電池 256
タイヤ 294
電球（バルブ） 260
ヒューズ 258
工具（ツール） 285, 295
航続可能距離 64, 65, 68
後退速度の抑制制御（ドライブスタートコントロール） 115

後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換 260
ワット数 315
コートフック 239
子供専用シート
取り付け方 37
コンソールボックス 229
コンライト（自動点灯・消灯装置） 131

さ

サイドエアバッグ 28
サイド方向指示灯
電球（バルブ）の交換 260
方向指示レバー 125
サイドミラー（ドアミラー）
格納のしかた 104
操作 103
ブラインドスポットモニター（BSM） 177
ミラーヒーター 219
リヤクロストラフィックアラート（RCTA） 188
サンバイザー 239

し

シート
正しい運転姿勢 23
チャイルドシート 36
調整 96
手入れ 245
ヘッドレスト 98
シートヒーター 223
シートベルト 25
お子さまの着用 25, 26
緊急時シートベルト固定機構 26
正しく着用するには 26
着け方・はずし方 26
手入れ 245
妊娠中の方の着用 25
非着用警告灯 278
シートベルト非着用警告灯 278
シートベルトプリテンショナー
機能 27
プリテンショナー警告灯 276
室内灯（インテリアランプ） 225
始動のしかた 118
シフトポジション 122
シフトレバー
シフトポジションの切りかえ 122
操作 122
リバース警告ブザー 122
締め付けトルク（ホイール） 298
ジャッキ
ガレージジャッキ 249
車載ジャッキ 285, 295
ジャッキハンドル 285, 295
車幅灯
電球（バルブ）の交換 260
ランプスイッチ 131
ワット数 315
車両型式 315
車両仕様（スペック） 312
車両情報表示 66
車両を緊急停止するには 268
充電用 USB 端子 232
瞬間燃費 64, 68
仕様（車両仕様） 312
初期化
パワーウインドウ 105
初期設定 324
助手席シートベルト非着用警告灯 278

す

水温計 56, 59
スイッチ
RCTA 189

イグニッション....118
ウインドウロック....107
LTA（レーントレーシングアシスト）.159
エンジンスイッチ....118
オートマチックハイビーム....134
クリアランスソナー....183
シート調整....96
シートヒーター....224
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）....167
ステアリングヒーター....224
TRC OFF....205
ドアミラー....103
ドアロック....77
ドライブモードセレクト....203
パーキングブレーキ....126
パワーウインドウ....105
PKSB....195
PCS OFF....150
表示切りかえ....57, 62
VSC OFF....205
フォグランプ....137
ブレーキホールド....129
フロントウォッシャー....138
フロントワイパー....138
フロントワイパーデアイサー....216
方向指示レバー....125
ホーン（警音器）....101
メーター操作....63
ランプ....131
リヤウインドウデフォッガー....216
リヤウォッシャー....140
リヤフォグランプ....137
リヤワイパー....140
レーダークルーズコントロール....167
スタック....310
ステアリングヒーター....223
ステアリングホイール（ハンドル）
位置調整....101
ステアリングヒーター....223
メーター操作スイッチ....63
ステアリングロック....118
解除できないとき....118
警告メッセージ....118
ストップランプ（制動灯）
電球（バルブ）の交換....260
スノータイヤ（冬用タイヤ）....212
スピードメーター....56, 59
スペアタイヤ（応急用タイヤ）....294
交換方法....294
スペック（車両仕様）....312
スマートエントリー&スタートシステム
アンテナの位置....91
エンジンの始動....118
カスタマイズ設定....316
緊急始動機能....301
作動範囲....91
正常に働かないとき....303
節電機能....92
電波がおよぼす影響について....95
ドアの解錠・施錠....75
バックドアの解錠・施錠....80
スモールランプ（車幅灯）
電球（バルブ）の交換....260
ランプスイッチ....131
スリップ表示灯....204

せ

清掃
外装....242
シートベルト....245
内装....245
ホイール・ホイールキャップ....242
レーダー....143

制動灯
電球（バルブ）の交換.....260
セカンダリーコリジョンブレーキ...204
積算距離計（オドメーター）.....57, 62
セキュリティインジケーター.....50
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....172
先行車発進告知機能.....175
センサー
インナーミラー.....102
LTA（レーントレーシングアシスト）.155
後側方レーダーセンサー.....179
ライトセンサー.....132
レーダー.....143
洗車.....242
前照灯（ヘッドランプ）
電球（バルブ）の交換.....260
マニュアルレベリングシステム.....133
ライトセンサー.....132
ランプ消し忘れ防止機能.....133
ランプスイッチ.....131

そ

走行距離.....66
走行時間.....66
走行情報表示.....64
走行モード（ドライブモード）.....123, 203
速度計（スピードメーター）.....56, 59

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換.....260
方向指示レバー.....125
タイヤ
応急用タイヤ.....294
空気圧.....253, 315
交換.....294
締め付けトルク.....298
チェーン.....212
点検.....251
パンク応急修理キット.....283
パンクしたときは.....283, 294
冬用タイヤ.....212
ホイールサイズ.....315
ローテーション（位置交換）.....252
タイヤが空まわりする（スタックした）.....310
タイヤチェーン.....212
タコメーター.....56, 59

ち

チェーン（タイヤチェーン）.....212
チャイルドシート
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け47
シートベルトでの固定.....45
選択方法.....36
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）.....126
警告灯.....280
警告メッセージ.....127
操作.....126
冬季の注意.....212
未解除走行時警告ブザー.....128
メンテナンスデータ.....314

つ

ツール（工具）.....285, 295

て

ディスプレイ
マルチインフォメーションディスプレイ.....62

デイタイムランニングランプ.....132
手入れ
外装.....242
シートベルト.....245
内装.....245
ホイール・ホイールキャップ.....242
レーダー.....143
テールランプ（尾灯）
電球（バルブ）の交換.....260
ランプスイッチ.....131
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）.....219
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）.....260
ワット数.....315
点検基準値（メンテナンスデータ）.312
電子キー.....72
作動範囲.....91
正常に働かないとき.....303
節電機能.....92
電池が切れた.....303
電池交換.....256
電池交換（キー）.....256

と

ドア.....75
スマートエントリー&スタートシステム.....91
チャイルドプロテクター.....78
ドアガラス.....105
ドアロックスイッチ.....77
バックドア.....78
ロックレバー.....77
ワイヤレスリモコン.....75
ドアポケット.....227
ドアミラー
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....188
格納のしかた.....104
操作.....103
ブラインドスポットモニター（BSM）177
ミラーヒーター.....219
盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム.....50
時計.....56, 59
トップテザーアンカレッジ.....48
ドライブスタートコントロール
急発進の抑制制御.....115
後退速度の抑制制御.....115
ドライブモードセレクトスイッチ...203
トラクションコントロール（TRC）204
トランスミッション
オートマチックトランスミッション...122
操作.....122
メンテナンスデータ.....313
トリップメーター.....57, 62

な

内装
収納装備.....227
手入れ.....245

に

ニーエアバッグ.....28
荷物
積むときの注意.....116
バックドア.....78
ラゲージルーム内装備.....230

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）.....310

ね

燃費
- 給油後平均燃費 68
- 瞬間燃費 64, 68
- 燃費画面 68
- 平均燃費 64, 68

燃費推移（1 分間／ 5 分間燃費） 65
燃費ランキング 65
燃費履歴 65
燃料
- 給油 141
- 種類 312
- 燃料計 56, 59
- 燃料残量警告灯 277
- フューエルポンプシャットオフシステム 274
- 容量 312

燃料計 56, 59

は

パーキングサポートブレーキ
- 操作 195

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両） 202
パーキングサポートブレーキ（静止物） 199
パーキングブレーキ 126
- 警告灯 280
- 警告メッセージ 127
- 操作 126
- 冬季の注意 212
- 未解除走行時警告ブザー 128
- メンテナンスデータ 314

パーソナルランプ 226
排気ガス 34
ハイビーム（ヘッドランプ）
- オートマチックハイビーム 134
- 電球（バルブ）の交換 260
- ランプスイッチ 131

ハイマウントストップランプ
- 電球（バルブ）の交換 260

ハザードランプ（非常点滅灯）
- 電球（バルブ）の交換 260

挟み込み防止機能
- パノラマムーンルーフ 238
- パワーウインドウ 105
- パワーバックドア 85

発炎筒 267
バックアップランプ（後退灯）
- 電球（バルブ）の交換 260

バックドアオープナー 80
バッテリー
- 警告灯 275

バッテリーがあがった 305
バニティ（化粧用）ミラー 239
バニティミラーランプ
- 装備について 239

パノラマムーンルーフ
- 挟み込み防止機能 238

バルブ（電球）
- 交換要領（外装のバルブ） 260
- ワット数 315

パワーウインドウ
- ウインドウロックスイッチ 107
- 閉めることができないときは 105
- 初期化 105
- 操作 105
- ドアロック連動ドアガラス開閉機能 106
- 挟み込み防止機能 105
- 巻き込み防止 105

パワーステアリング 204
- 警告灯 277

パワーバックドア
- 挟み込み防止機能 85
- ハンズフリーパワーバックドア 82

パンクした
応急用タイヤ装着車 294
タイヤパンク応急修理キット装着車 ... 283
番号灯（ライセンスプレートランプ）
電球（バルブ）の交換 260
ランプスイッチ 131
ワット数 315
ハンズフリーパワーバックドア 82
ハンドル（ステアリングホイール）
位置調整 101
ステアリングヒーター 223
メーター操作スイッチ 63

ひ

ビークルスタビリティコントロール（VSC） 204
ヒーター
エアコン・デフォッガー 216
シートヒーター 223
ステアリングヒーター 223
ミラーヒーター 219
非常点滅灯
緊急ブレーキシグナル 204
非常点滅灯（ハザードランプ）
電球（バルブ）の交換 260
尾灯（テールランプ）
電球（バルブ）の交換 260
ランプスイッチ 131
ヒューズ 258
表示切りかえボタン 57, 62
表示灯 54
日よけ（サンバイザー） 239
ヒルスタートアシストコントロール 204

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方 305
フォグランプ 137
電球（バルブ）の交換 260
ランプスイッチ 137
ブザー
接近警報（レーダークルーズコントロール） 172
手放し運転警告（LTA） 162
パーキングブレーキ未解除走行時警告 128
半ドア走行時警告 78
ふらつき警報機能（LTA） 163
窓開警告 106
リバース警告 122
フック
買い物フック 230
けん引フック 272
コートフック 239
フロアマット固定フック 22
フューエルポンプシャットオフシステム 274
フューエルメーター 56, 59
フューエルリッド（給油口）
給油のしかた 141
冬の前の準備（寒冷時の運転） 212
冬用タイヤ 212
ブラインドスポットモニター（BSM） 177
プラスサポート 208
プリクラッシュセーフティ（PCS）
機能 148
PCS OFF スイッチ 150
プリクラッシュセーフティシステム（PCS）
PCS 警告灯 279
ブレーキ
緊急ブレーキシグナル 204
警告灯 275
パーキングブレーキ 126
ブレーキホールド 129

メンテナンスデータ.....314
ブレーキアシスト.....204
ブレーキフルード.....314
ブレーキホールド.....129
フロアマット.....22
フロントシート
シートヒーター.....223
正しい運転姿勢.....23
調整.....96
手入れ.....245
ヘッドレスト.....98
フロント方向指示灯
電球（バルブ）の交換.....260
方向指示レバー.....125
ワット数.....315
フロントワイパーデアイサー.....221

へ

平均車速.....66, 68
平均燃費.....64, 68
ヘッドランプ
電球（バルブ）の交換.....260
マニュアルレベリングシステム.....133
ライトセンサー.....132
ランプ消し忘れ防止機能.....133
ランプスイッチ.....131
ヘッドレスト.....98

ほ

ホイール
交換（タイヤ）.....294
メンテナンスデータ.....315
方向指示灯
電球（バルブ）の交換.....260
方向指示レバー.....125
ホーン（警音器）.....101
保証.....7
ボトルホルダー.....228
ボンネット.....248
開け方.....248

ま

マルチインフォメーションディスプレイ.....62
運転支援機能情報表示.....66
エコドライブインジケーター.....65
オーディオシステム連携.....66
警告メッセージ.....281
航続可能距離.....65
車両情報表示.....66
設定.....67
走行情報表示.....64
ドライブインフォメーション.....66
燃費グラフ.....64
燃費推移（1 分間／ 5 分間燃費）.....65
燃費ランキング.....65
燃費履歴.....65
メーター操作スイッチ.....63
メニューアイコン.....63

み

ミラー
アウターミラー.....103
インナーミラー.....102
ドアミラー.....103
バニティミラー.....239
ミラーヒーター.....219

め

メーター
計器類.....56, 59
警告灯.....275
警告メッセージ.....281

設定 67
時計 56, 59
表示灯 54
マルチインフォメーションディスプレイ 62
メーター操作スイッチ 63
メーター照度調整 57, 62
メカニカルキー 74
メニューアイコン 63
メンテナンスデータ 312

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 316
雪道ですべって動けない（スタックした） 310
油脂類 312

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
電球（バルブ）の交換 260
ランプスイッチ 131
ラゲージルーム 78, 230
ラゲージルーム内の装備 230
ラゲージルームランプ 80
ラジエーター
オーバーヒート 308
メンテナンスデータ 313
ランプ
室内灯 225
電球（バルブ）の交換 260
非常点滅灯（ハザードランプ） 267
フォグランプ 137
ヘッドランプ（前照灯） 131
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー） 125
ライトセンサー 132
ランプ消し忘れ防止機能 133
リヤフォグランプ 137
ランプ消し忘れ防止機能 133

り

リヤウィンドウデフォッガー 219
リヤクロストラフィックアラート（RCTA） 188
警告メッセージ 189
リヤシート 97
ヘッドレスト 98
リヤ席シートベルト非着用警告灯 ... 278
リヤフォグランプ 137
電球（バルブ）の交換 260
ランプスイッチ 137
リヤ方向指示灯
電球（バルブ）の交換 260
方向指示レバー 125
ワット数 315

る

ルームミラー（インナーミラー） 102

れ

冷却水
冬の前の準備 212
メンテナンスデータ 313
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート 308
メンテナンスデータ 313
レーダークルーズコントロール
警告メッセージ 174
接近警報 172
レーダー 143
レーントレーシングアシスト（LTA） 155
警告メッセージ 163

操作 159
レバー
シフト 122
方向指示 125
ボンネット解除 248

ろ

ロードサインアシスト (RSA) 164
ロック
ウインドウロック 107
スマートエントリー&スタートシステム 91
チャイルドプロテクター 78
ドア 75
ワイヤレスリモコン 73

わ

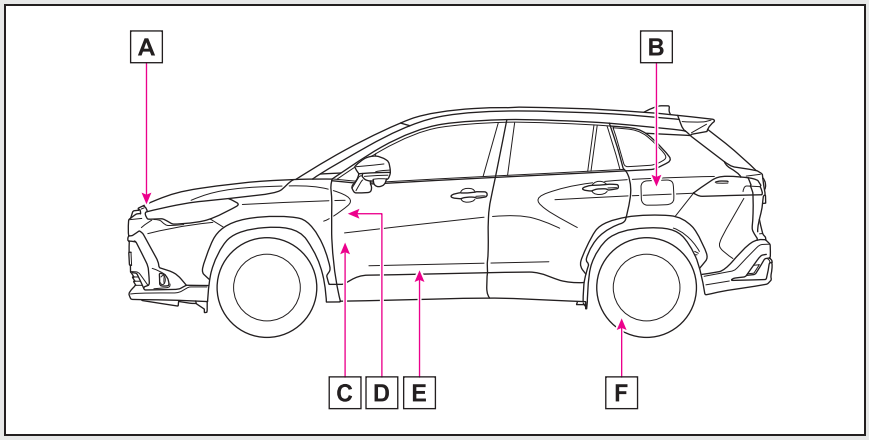
ワイパー&ウォッシャー
ウォッシャー液の補充 250
フロント 138
リヤ 140
ワイパーブレード（寒冷地用） 213
ワイヤレス充電器（おくだけ充電） 233
ワイヤレスリモコン
作動の合図 76
操作 73
電池の交換 256
半ドア警告ブザー 76
ワックス 242
ワット数 315

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱書」をお読みください。

・オーディオ
・バックガイドモニター
・パノラミックビューモニター
・ハンズフリー
・T-Connect

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



A ボンネットフック（→P.248）

B 給油口（→P.142）

C ボンネット解除レバー（→P.248）

D パワーバックドアスイッチ★（→P.81）

E 給油扉オープナー（→P.142）

F タイヤ空気圧（→P.315）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

燃料の容量（参考値）	47 L	
燃料の種類		P.312
タイヤが冷えているときの空気圧		P.315
エンジンオイル容量（参考値）		P.312
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル	P.312

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
https://toyota.jp/recall/index.html にて
掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
https://toyota.jp

ア J-1

TOYOTA

M 16546
01999−16546
OC-2022年 3 月 1 日
2021年 9 月14日 初版
2022年 3 月 7 日 3版
カローラクロス（ガソリン車）